

静岡県立美術館年報

令和 5 年度

ANNUAL REPORT OF

SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2023

静岡県立美術館年報

令和 5 年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2023

目 次

自己評価システムの体系	5
令和5年度 美術館の評価活動	6
【基本方針A】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	
【重点目標1】収集方針に従い持続的に作品を収集します	
新収蔵品	9
収集品点数一覧	13
【重点目標2】コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	
収蔵品展	15
移動美術展	17
図書資料の収集・整理	18
館蔵品等の貸し出し	19
美術作品の補修	23
保存活動	24
【基本方針B】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	
展覧会活動 展覧会一覧	26
観覧者数一覧	27
センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術	28
糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと	29
大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派	31
天地耕作 初源への道行き	33
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	
（調査研究活動）	
紀要の発行	35
研究活動	36
研究会	37
各種資料整理	41
博物館実習	42
【基本方針C】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及プログラムを開発します	
（一般向け）	
ギャラリーツアー・タッチツアー	43
実技・鑑賞講座	44
（子ども向け）	
実技・体験	46
学校連携普及事業（美術館教室）	48
【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	
講演会	53
美術講座	54
対外活動	55
ロダン館展示・イベント	57
【重点目標3】地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	
美術館ボランティア・広報サポーター	59
友の会活動	62
【基本方針D】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	
【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます	
広報活動（ウェブサイトを含む）	67
デジタルアーカイブによる情報発信	68
美術館ニュース「アマリリス」	70
【重点目標2】観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	
新たな広報チャンネルの開拓	72
【基本方針E】環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます	
【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます	
施設利用状況（年度別）	73
県民ギャラリー利用状況	74
【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます	
来館者のアクセス満足度	75
■付帯資料	
令和5年度主要記事	76
（展覧会 出品目録）	
センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術	78
糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと	82
大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派	93
天地耕作 初源への道行き	96
収蔵品展	101
移動美術展 旅する人生（小山町）	105
移動美術展 旅する人生（沼津市）	106
（管理運営）	
関連法規	108
組織・名簿	117
歳入・歳出決算	118
建築・設備概要	119
利用案内	124
奥付	

自己評価システムの体系

使 命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。
 そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。
 その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

運営基本方針		重点目標		評価指標	
A	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	1	収集方針に従い持続的に作品を収集します	1	作品購入件数・価格
		2	コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	2	作品寄贈件数・価格
B	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	3	収蔵品の公開件数
		2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	4	収蔵品展のみの観覧者数
C	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	5	ロダン館の観覧者数
		2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	6	収蔵品に関する調査研究の発表回数
		3	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	7	コレクションを活用した教育普及プログラム数
D	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます	8	修復したコレクションの件数・費用
		2	観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	9	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
E	環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます	1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	10	展覧会の来館者数
		2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます	11	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
		3	運営基盤を強化します	12	作品やテーマに興味を持った人の割合
				13	展覧会に対する外部評価【定性】
				14	調査研究の発表回数
				15	内部セミナー・研究会・研修の回数
				16	他の美術館や大学と連携した取組件数
				17	調査研究に関する外部評価【定性】
				18	学校教育と連携した取り組み数 うち特別支援学校と連携した取り組み数
				19	鑑賞系プログラム数
				20	webを活用したプログラム数
				21	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
				22	講演会等の開催件数
				23	学芸員のフロアレクチャー等の数
				24	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
				25	地域住民等と連携した取組数
				26	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】
				27	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
				28	デジタルアーカイブによる情報発信件数
				29	ホームページのアクセス件数
				30	facebook、インスタグラム、Xのビュー数
				31	facebook、インスタグラム、Xのエンゲージメント等の件数
				32	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
				33	教育機関への情報発信件数
				34	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
				35	美術館利用者数
				36	鑑賞環境に対する満足度
				37	レストランに対する満足度
				38	ミュージアムショップに対する満足度
				39	来館者のアクセス満足度
				40	運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】

令和5年度 美術館の評価活動

■ 美術館自己評価 総括

A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

【成果】

- 作品購入のための予算を少額ではあるが確保でき、静岡ゆかりの重要作家の作品収集につなげることができた。
- 7名の方から18件の作品寄贈を受け、コレクションを充実させた。多様なジャンルにまたがるご寄贈であり、日頃の地道な活動が評価されたひとつの表れであると考えている。
- コレクションによる企画展「センス・オブ・ワンダー」では、新たな切り口でコレクションの魅力を示して話題を呼び、見込みを大きく上回る観覧者を得た。
- 永青文庫とのコラボレーション企画「大大名の名宝」展では、質量ともに厚みのある当館の狩野派コレクションについて新たな魅力を発信することができた。
- コレクションを活用した上記2件の企画展開催により、コレクションの価値の発見・発信を進めた。
- 前年度新収蔵品の額装等を実施し、作品の保存・公開のための環境整備が進んだ。

【課題】

- 収集方針に則った継続的な収集活動のために、購入予算の確保が切実な課題である。特に2年後の開館40周年に向けて、当館コレクションの顔となるような作品を収集するために予算確保と情報収集を進めていく。
- コレクションの適切な保存管理、後世への継承のために、メリハリの効いた予算の確保・執行の仕組みを整える必要がある。
- コレクションを活用した教育普及プログラムはコロナ禍前に復しつつある。コレクションの魅力を伝え理解を促すための教育普及事業の展開について継続して努める。
- 当館の活動の基盤をなすものとしてコレクションにまつわる基礎的な活動を充実させる。あわせて、コレクションの重要性を発信し、美術館の役割について理解を促すための広報的な対策も必要である。

B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

【成果】

- 企画展において作品やテーマに興味を持った人の割合は概ね高い数値を維持しており、それぞれの企画展において観覧者の興味を惹く工夫ができた。
- 調査研究の発表件数は、大きく伸びた令和4年度の

実績を下回ったものの、過去の実績と比較して、また学芸員が実質2名減の状況のなかで、健闘したものとする。

【課題】

- 観覧者数の全体では見込みを下回った。実際に展示を見た方には作品やテーマに興味を持ってもらえるものの、内容の充実や見せ方の工夫が観覧者数に結び付いているとはいえ、企画展個々の周知にとどまらず、美術館の認知度を高め、魅力ある場所と認識してもらうための対策が必要である。
- 他の美術館や大学との連携は横ばいの状態となっている。連携の重要性についての認識と相互交流は深まりつつあり、具体的な成果につなげていくよう、落ち着いて環境を整えていきたい。

C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

【成果】

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、学校団体による利用はおおむねコロナ禍前の状況に回復した。
- webの活用については、ボランティアによるオンラインギャラリーツアーを試験的に実施した。
- 館内空間を生かした催事については、展覧会関連ワークショップの成果品展示やボランティアによるお茶サービスなどを無料スペースを活用して実施した。館外についても、美術館裏山でのパフォーマンス実施やボランティアによる彫刻プロムナードギャラリーツアーの試行など、活用が広がっており、当館ならではの館内外の環境を利用した新しい事業展開が進んでいる。

【課題】

- 特別支援学校との連携については、参加しやすいプログラムの利用が定着しつつあるが、さらなる利用促進や新しい連携に向けて、今後とも学校側とコミュニケーションを深めていきたい。
- オリエンテーションや学校向けのボランティアスタッフとの鑑賞など、利用が回復していない対面型のプログラムについては、利用案内の方法や内容の見直しなどを行い、利用促進に向けて方策を取る必要がある。
- 試験的に実施したボランティアによるオンラインギャラリーツアーや彫刻プロムナードギャラリーツアーについて、ブラッシュアップし、プログラムに加えていきたい。ボランティアは募集方法の変更（任期短縮、年齢下限引き下げ）により活性化の傾向が見

られ、ギャラリーツアーグループによる新たな取組みもその成果と考えられる。今後も組織の活性化と新たな事業展開のために協力体制を強化したい。

D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

【成果】

- ・令和4年度から公開したデジタルアーカイブについて、今年度は専門書籍の書誌情報を充実させることができ、公開件数を大幅に増やすことができた。またボランティアとの連携により情報公開件数は順調に増加している。
- ・新たなイベントとの連携や県内大学への大学事務局を通したメール配信を行った。

【課題】

- ・デジタルアーカイブをさらに充実したものにしていくには、予算の確保が課題である。
- ・SNSに関しては、個人に頼っているため、誰でもできる体制づくりが必要である。
- ・広報は各職員が業務の一部として行っている。戦略的な広報ができていないため、専門的な知識を有した人材の活用が求められる。
- ・観光業界等との連携が一過性のものにとどまらないよう、継続的な連携関係構築の対策が必要である。

E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。

【成果】

- ・中期維持保全計画に基づき、施設の改修・整備を適切に行った。
- ・レストラン・ミュージアムショップに対する満足度は高い数値を維持している。
- ・芸術文化振興基金の助成金の獲得や、ふるさと納税制度及び地方創生応援税制を活用し、館蔵品の取得のための財源確保をはかった。

【課題】

- ・開館から37年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進める。
- ・県内企業との関係強化のため、引き続き連携の維持・強化のための働きかけを行っていく必要がある。

■ 前史

平成13年度より館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、あわせて利用者の満足度調査を行った。翌年度は、ベンチマークスの改訂作業を進めるとともに、利用者アンケート調査等を行い、指標の現状値を把握したうえで業務改善に取り組んだ。

これらの成果を踏まえ、平成15年度には「静岡県立美術館評価委員会」が設置された。2年間にわたる美術館・

県庁との共同作業を経て、平成17年3月に評価委員会による最終報告「提言：評価と経営の確立に向けて」が出された。これを受けて、同年4月よりミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始め、平成18年度には、前年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

使命－基本方針－重点目標の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定して自己点検を行い、業務改善につなげる仕組みであり、調整を加えながら現在まで継続して取り組んでいる。

■ 令和5年度の活動

・評価シートにもとづく自己点検評価および外部評価

引き続き、自己評価システムに基づいて自己点検評価を行い、設置者による取組みとあわせて第三者評価委員会による評価を受けた。

令和5年度静岡県立美術館第三者評価委員会

7月28日 於 当館講座室

県立美術館の令和4年度自己評価結果について
設置者の取組みについて

令和4年度第三者評価委員会での主な意見と対応状況について

・研究活動評価

展覧会および学芸員の調査研究に関する定性的な評価を行うため、研究活動評価委員会を設置しており、利用者アンケートでは把握しきれない学術面での達成について、下記5名の委員から評価を受けた。

(1) 研究活動評価委員

金原宏行【日本画・日本洋画】／名都美術館学芸参与
潮江宏三【西洋絵画・現代美術】／京都市立芸術大学
名誉教授

榊原 悟【日本画】／岡崎市美術博物館・おかざき世界子ども美術博物館特任館長、群馬県立女子大学名誉教授

山梨絵美子【日本洋画】／千葉市美術館館長

栗田秀法【西洋絵画】／名古屋大学教授

(2) 活動記録

①委員会開催 7月3日 於 当館講座室

令和4年度 研究活動評価について

令和5年度 研究活動評価について

今後の研究活動についての意見交換

②「センス・オブ・ワンダー」展の視察と評価・提言
7月3日

評価委員：山梨委員、栗田委員

③「大名の名宝」展の視察と展覧会および図録に対する評価・提言 11月7日、20日

評価委員：金原委員、榊原委員

④「天地耕作」展の視察と展覧会および図録に対する評価・提言 2月27日、3月5日

評価委員：潮江委員、山梨委員

⑤『静岡県立美術館紀要』第39号掲載論文の評価

評価委員：（石上論文）金原委員、榊原委員
（貴家論文）潮江委員、栗田委員

（参考）静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の
展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を
行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下
「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準
により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行
物
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項

（組織）

第3条 委員は5名以内とする。

- 2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨
時委員を委嘱することができる。

（委嘱）

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を
有する者の中から館長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。

（委任）

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要
な事項は、館長が別に定める。

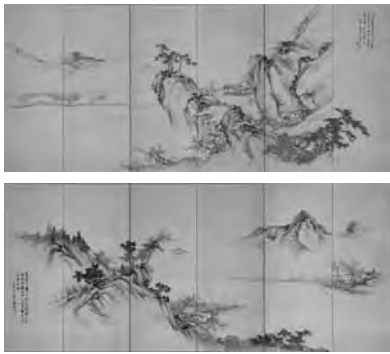
附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

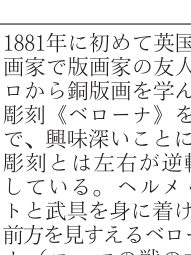
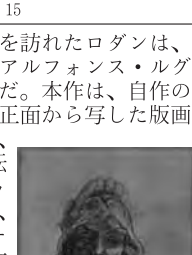
令和5年度 新収蔵品

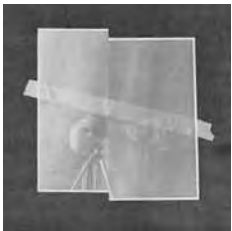
当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。

- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とする国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモチーフとした作品

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法	作品概要
1 池田桂仙	山水図屏風(林和靖・楓橋夜泊)	1910(明治43)年	紙本墨画淡彩六曲一双屏風	各150.3×344.1	斉藤行雄氏寄贈	明治～昭和時代にかけて京都を中心に活躍し、関西の南画界を代表する画家の一人であった池田桂仙による屏風作品。右隻は林和靖ゆかりの西湖、左隻は蘇州郊外の風景が描かれており、いずれも中国の古詩に因んだ情景が画題となっている。浜松発祥である谷島屋書店の創業家に長く伝わった。1910年、桂仙が浜松の銀行家・平野又十郎の家に滞在したことが、本作制作の契機となった可能性が高い。 
2 川村清雄	河田熙肖像	1878(明治11)年頃	板、油彩	29.5×21.5	購入	旧幕臣の河田熙(1835-1900)を描いた肖像画と思われる。江戸幕府で大目付の役をになった河田は、明治維新後、徳川家達に従って静岡に移住。徳川家の教育掛をつとめた。1877年家達の英国留学に河田も同行。家達は留学中にヴェネツィアに清雄を訪ねている。再会の折に清雄が描いた家達の肖像画が知られているが、本作もその肖像画と同時期に描いたのであろう。 
3 川村清雄	松竹梅	大正～昭和初期	絹本油彩掛幅装	121.0×49.0	購入	中国では松、竹、梅を「歳寒三友」とよび、吉兆の画題としてきた。この中国の伝統的画題を、清雄は西洋で学んだ油彩技法によって描き、油彩ではほとんど類例のない軸装に仕立てている。幕臣であった清雄の武家文化の中で育まれた美意識と、海外留学で学んだ油彩の技術という、東西美術の融合が試みられた作品である。 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法	作品概要
4 川村清雄	草紙洗小町	大正期	紙、油彩 二曲一隻屏風	69.5×183.0	寄贈	小野小町をめぐる能の演目の一つ「草紙洗小町」を題材にした作品。「草紙洗小町」は、内裏の歌合で盗作を指摘された小町が、証拠とされた草紙の加筆を洗い流し、疑いを晴らすという物語である。能は江戸時代の武家にとって身につけるべき教養であり、幕臣であった清雄にとって身近な題材であった。 
5 中村一美	ユガテⅦ (Social Semantics 16)	2002 (平成14) 年	綿布、アクリル	240.2×600.6 (3枚組) 各240.2×200.2	杉山悦朗氏寄贈	三枚組の横幅6メートルの大作である。中村一美は1990年代に入り、絵画の社会性について深く考えるようになり、「社会意味論 (ソーシャル・セマンティクス) としての絵画」の制作を始めている。主題の「ユガテ」とは、奥武蔵 (埼玉県飯能) の、昔から桃源郷と呼ばれてきた山里の呼称である。中村は、現実の暴力や死に満ちた世界と対比させる意図で、桃源郷を主題とするシリーズに取り組んでいる。 
6 中村宏	4 半面の反復(1)	2019 (令和元) 年	キャンバス、アクリル	33.1×24.1	中村宏氏寄贈	中村の主要なモチーフの一つであるセラー服を着た女子生徒が描かれた連作である。本作では、「視線」や「反復」がテーマとなっている。少女の顔の4分の1がクロスアップされ、目に注意が引きつけられる。全作ほぼ同様なイメージであるが、作品によって少女の目線等が少しずつ異なる。また、2011年に開始された「消失点」シリーズにおいてモチーフとして描かれた、遠近法の線が本作でも表されている。
7 中村宏	4 半面の反復(2)	2019 (令和元) 年	キャンバス、アクリル	33.2×24.1	中村宏氏寄贈	
8 中村宏	4 半面の反復(3)	2019 (令和元) 年	キャンバス、アクリル	33.2×24.2	中村宏氏寄贈	
9 中村宏	4 半面の反復(5)	2019 (令和元) 年	キャンバス、アクリル	33.2×24.2	中村宏氏寄贈	
10 中村宏	4 半面の反復(6)	2019 (令和元) 年	キャンバス、アクリル	33.3×24.2	中村宏氏寄贈	
11 中村宏	4 半面の反復(8)	2019 (令和元) 年	キャンバス、アクリル	33.2×24.3	中村宏氏寄贈	
12 中村宏	4 半面の反復(9)	2019 (令和元) 年	キャンバス、アクリル	33.3×24.2	中村宏氏寄贈	
						

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法	作品概要
13 中村宏	4 半面の反復 (10)	2019 (令和元) 年	キャンバス、 アクリル	33.1×24.2	中村宏氏寄 贈	 
14 中村宏	4 半面の反復 (11)	2019 (令和元) 年	キャンバス、 アクリル	65.2×53.0	中村宏氏寄 贈	 
15 中村宏	4 半面の反復 (12)	2019 (令和元) 年	キャンバス、 アクリル	116.8×80.3	中村宏氏寄 贈	 
16 オーギュス ト・ロダン	ペローナの胸像	1883年	紙、ドライボ イント	14.7×10.1 (プレートマー ク)、27.6× 21.2(紙寸)	阿部 倫子氏 寄贈	1881年に初めて英国を訪れたロダンは、画家で版画家の友人アルフォンス・ルグロから銅版画を学んだ。本作は、自作の彫刻《ペローナ》を正面から写した版画で、興味深いことに、彫刻とは左右が逆転している。ヘルメットと武具を身に着け、前方を見せるペローナ（ローマの戦の女神）のモデルは、内妻ローズ・ブーレ。彫刻家ロダンの版画家としての側面を示す、貴重な一点である。 
17 ケーテ・コ ルヴィッツ	虐げられた人た ち	1901年	紙、エッチン グ、ドライボ イント、アク アチント	23.3×62.0 (イメージサイ ズ)、23.8 ×62.8(プレー トマーク)	二見 彰一氏 寄贈	作家は労働者階級の人々への共感や、社会主義運動への参加で知られる。本作の横長の画面中央に横たわるやせた裸体の男性、右端の柱に縛り付けられた女性は何れも、当時の社会的弱者の悲しみを主題として描き出した、作者ならではの表現である。当館で複数の作品を所蔵する、版画家の二見彰一氏からのご寄贈であり、収蔵作家に感銘を与えた作品としても重要な一点である。 
18 長谷川 潔	オパリンの花瓶 に挿した種草	1968 (昭和43) 年	紙、メゾチ ント	36.0×26.5 (イメージサイ ズ)	二見 彰一氏 寄贈	深い黒の背景から浮き上がるように乳白色の花瓶と花が描かれている。草花と静物は長谷川の画業の中でも主要なモチーフである。長谷川は、植物の形態がもつ自然のリズムを通して美の根源を思索し、その思索を静物画の形で表現することに精力を傾けた。1959年以降、長谷川はマニエール・ノワール（メゾチント）の作品のみを制作したが、本作も長谷川芸術の頂点として高く評価されるこのマニエール・ノワール時代の作品である。 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法	作品概要
19 斎藤智	Untitled 79-a	1979(昭和54)年	紙、シルクスクリーン	73.9×71.1	向井修一氏 寄贈	斎藤は、1978年頃からガラス等に写った像に関心を持つようになり、制作の際にガラス板を設置し、その反射像を撮影する手法を採るようになった。本作の制作では、最初に、撮影する作者自身の姿に焦点を合わせたものと、ガラス面に貼り付けられたガムテープに焦点を合わせたものの二種を撮影した。次に、その二枚を接合させた状態をさらに撮影し、その写真をシルクスクリーンで製版している。 
20 斎藤智	Untitled 81-2	1981(昭和56)年	紙、シルクスクリーン	65.0×79.7	向井修一氏 寄贈	本作においても、制作時にガラスが使用されている。最初に、反射像を撮影してプリントし、二回目の撮影では、そのプリントとガラスをずらして重ねて撮影していると推測される。そして、一回目に撮影した写真を元にした版画を左側に、二回目に撮影した写真を元にした版画を右側に貼りつけている。一般には制作に使われない、茶系のターボリン紙を用い、イメージと現実的な事物の境界をあいまいにしている。 

■収蔵点数一覧（令和5年度末現在）

購入作品数

（百万円）

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計	
											点数	金額
昭和55						5					5	74
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
57	9	5	3		3	2					22	563
58	10	6	2	1	60		1				80	483
59	3	10			27		2				42	597
60	7	10	2		5		11				35	669
61	4	4	1		16		2				27	240
62	3	6			85		2				96	242
63	5	3			1		7				16	499
平成元	5	2			3		3		33		46	392
2	2	1		3	43		5		13		67	598
3	1	8	2		268		9				288	675
4	3	4			4		12				23	768
5	5	3	2		68		13			3	94	557
6	8	8	1		27		1			4	49	395
7	4	8	1	1	152						166	397
8	3	2	4							4	13	137
9	5	4	1		2						12	146
10	5	4	1		52						62	120
11	4	3	2		37						46	88
12	1	3	2							1	7	46
13	2	1	1		9		1				14	39
14	3	4	1		9						17	45
15	7	2									9	52
16	3	2			60		1				66	56
17	2				22					7	31	41
18			2				2				4	6
19		1								1	2	30
20	1	1			1						3	13
21	1										1	20
22	1	1			1						3	12
23	1										1	5
24		1			1						2	5
25											0	0
26	1										1	16
27											0	0
28					2						2	3
29		1			1						2	0
30	1	1			2						4	10
令和元	1	2									3	10
2	4										4	10
3	2	1			2						5	10
4											0	0
5		2									2	1
合計	点数	131	128	32	12	1,021	7	75	1	46	20	1,473
	金額	1,720	2,843	311	68	371	80	2,811	3	8	142	8,357

寄贈作品数

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
昭和55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
平成元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5											0
6					1						1
7											0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2			1	36
24	3				13					1	17
25	2	10							2		14
26	4	8			24		3			2	41
27		1			2						3
28	6	4			23		1			4	38
29		1							5	1	7
30	3	1								3	7
令和元		1			10					5	16
2		2								1	3
3		3	1		4					1	9
4	2	13	3	13	38					7	76
5	1	12			5						18
計	224	157	23	106	387	340	14	8	18	79	1,356

収蔵品展

第7展示室において当館の収蔵品・寄託品による収蔵品展を開催し、下記5つのテーマ立てにより計174点の作品に加えて、関連資料を展示した。

無料でご観覧いただける本館1階エントランスの名品コーナーにおいても、常時3点の作品を展示し、多くの方に鑑賞いただいた。

予算の節約と、ウェブ上での視認性の向上を目的として、2023年度「新収蔵品展」まで行ってきたウェブチラシの作成をやめ、ウェブ用のバナー、アイコンを統一的なデザインで制作した。

■収蔵品展スケジュール

4月11日（火）～5月21日（日）

新収蔵品展



5月23日（火）～7月9日（日）

太田正樹コレクション展



7月25日（火）～9月18日（月・祝）

美術館のなかの書くこと



10月17日（火）～12月10日（日）

版画で読み解く聖書と神話



2024年2月10日（土）～4月7日（日）

静岡の現代美術と1980年代



※4月11日（火）～7月9日（日）は、名品コーナー展示作品の内、斎藤義重《Work 2》が、「センス・オブ・ワンダー」展の出品作と位置付けられた。

■デザイン

「新収蔵品展」ウェブチラシおよび看板デザイン：則武輝彦

その他の展示のウェブ用バナー、アイコンのデザイン：望月一弘（Jicca design）

移動美術展

静岡県立美術館では当館が所在する静岡市より遠方の県民にも当館の活動やコレクションを身近に感じていただく機会として、開館以来、静岡市外にある県内施設で当館のコレクションを公開し、関連イベントを実施する移動美術展をほぼ毎年開催してきた。通例は東部方面1会場と西部方面1会場の計2会場で実施しているが、本年度は東部方面からのみの応募であったため、東部方面2会場での開催とした。

本年度の移動美術展では、誰にも親しみやすい「旅」と「人生」をキーワードとし、当館のコレクションのなかから富士山や異国を描いた風景画のほか、地域ゆかりの画家の作品や、生と死といった人生を想起させるテーマの作品を選んで展示した。

会期中、学芸員によるフロアレクチャー、体験講座、ボランティアによるギャラリートツアーを実施し、多くの来場者にご参加いただいた。

■小山町会場

「富士山世界文化遺産登録10周年記念 静岡県立美術館
小山町移動美術展 旅する人生」

主 催：静岡県立美術館、小山町教育委員会、おやま
アートビレッジ実行委員会

会 場：小山町総合文化会館

会 期：令和5年9月3日（日）～9月14日（木）

開館時間：10：00～17：00 休館日：毎週月曜日

【関連イベント】

- ・静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー
日 時：9月3日（日）、9月9日（土）
13：00～13：30、15：00～15：30

■沼津会場

「静岡県立美術館 沼津移動美術展 旅する人生」

主 催：静岡県立美術館、（公財）沼津市振興公社

共 催：沼津市教育委員会

後 援：沼津市

会 場：沼津市民文化センター

会 期：令和5年9月22日（金）～10月1日（日）

開館時間：10：00～18：00 会期中無休

【関連イベント】

- ・ちょこっと体験講座「シルクスクリーン」
日 時：9月23日（土・祝） 12：00～17：00
定 員：先着100名まで
- ・静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー
日 時：9月24日（日）
11：00～11：30、14：00～14：30
- ・静岡県立美術館ボランティアによるギャラリートツアー
日 時：9月30日（土）
11：00～11：30、12：00～12：30、13：00～
13：30、14：00～14：30

■出品目録

小山町会場はp.105、沼津会場はpp.106-107を参照



▲小山町会場チラシ



▲沼津会場チラシ

図書資料の収集・整理

■収集

令和5年度の新たな受入により、当館蔵書は105,673冊となった。その累計内訳は、刊行図書 46,724冊、美術雑誌24,660冊、美術館等刊行物34,289冊である。

■分類・整理

令和5年度に行った作業は、以下のとおりである。

①図書・定期刊行物の受入

収集図書および定期刊行物を分類表に則って分類した後、データベースに入力、配架した。

②図書目録の公開

令和3年度、図書目録をデジタルアーカイブへ移行し、校正を加えたのちインターネットで公開したが、校正ができていなかった部分に関しては未公開となっていた。そのうち、約7000冊の情報を、新たに校正を加えた上で公開した。

③書庫整理

書庫1階の図書配架スペースの拡充を目的に、一般読者向けの手に取りやすい画集を中心とした図書を閲覧室に配架した。空いたスペースに、日本近現代美術関連の図書を新たに配架した。

④企画展ごとに関連する図書を閉架書庫より選択し、閲覧室に展示、閲覧可能とした。

■閲覧

当館には、来館者の図書利用のための閲覧室があり、1,800冊以上の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を配架して自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。閲覧室のパソコンから収蔵図書の検索が可能となっており、利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧することができる。

館蔵品等の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
1	狩野探幽	白鷗図	山梨県立博物館、山梨日々新聞社、山梨放送	印章一刻まれてきた歴史と文化	2023/3/11-2023/5/8	山梨県立博物館	2023/3/1-2023/5/18
2	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川	Musée du Luxembourg (リュクサンブール美術館)	Léon Monet, frère de l'artiste et collectionneur (レオン・モネ、芸術家の兄弟にして収集家)	2023/3/15-2023/7/16	Musée du Luxembourg	2023/2/1-2023/8/31
3	椿椿山	山海奇賞図巻	板橋区立美術館、東京新聞	椿椿山展	2023/3/18-2023/4/16	板橋区立美術館	2023/3/8-2023/4/26
4	椿椿山	蕃殖図	板橋区立美術館、東京新聞	椿椿山展	2023/3/18-2023/4/16	板橋区立美術館	2023/3/8-2023/4/26
5	椿椿山	春蘭為畦図	板橋区立美術館、東京新聞	椿椿山展	2023/3/18-2023/4/16	板橋区立美術館	2023/3/8-2023/4/26
6	森山大道	「五所川原」より青森県金木町	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
7	森山大道	「五所川原」より駅構内の老女と少女	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
8	森山大道	「五所川原」より田の中の一軒家	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
9	森山大道	「五所川原」より野良猫	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
10	森山大道	「津軽海峡」より青森駅前市場の頭	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
11	森山大道	「津軽海峡」より函館市内	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
12	森山大道	「津軽海峡」より津軽海峡	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
13	森山大道	「東京」より	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
14	森山大道	「東京」より ジーパン	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
15	森山大道	「東京」より 少年	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
16	森山大道	「遠野物語」よりダブルイメージ	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
17	森山大道	「遠野物語」より遠野 ハイビスカス	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
18	森山大道	「何かへの旅」より犬の町三沢犬	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
19	森山大道	「何かへの旅」より岡山県下津井	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
20	森山大道	「日本三景」その3より松島	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
21	森山大道	「パリ」よりカーテン	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
22	森山大道	「光と影」よりゴミバケツ	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6
23	森山大道	青森駅前広場 ジーンズの子供	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/4/12-2023/6/26	島根県立美術館	2023/4/2-2023/7/6

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
24	森山大道	グラーツ・馬	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/ 4 /12- 2023/ 6 /26	島根県立美術館	2023/ 4 / 2 - 2023/ 7 / 6
25	森山大道	グラーツ・車	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/ 4 /12- 2023/ 6 /26	島根県立美術館	2023/ 4 / 2 - 2023/ 7 / 6
26	森山大道	五所川原・駅待合室	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/ 4 /12- 2023/ 6 /26	島根県立美術館	2023/ 4 / 2 - 2023/ 7 / 6
27	森山大道	五所川原・軽自動車	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/ 4 /12- 2023/ 6 /26	島根県立美術館	2023/ 4 / 2 - 2023/ 7 / 6
28	森山大道	“仲治への旅”より アマタイト	島根県立美術館ほか	森山大道 光の記憶	2023/ 4 /12- 2023/ 6 /26	島根県立美術館	2023/ 4 / 2 - 2023/ 7 / 6
29	宮脇愛子	作品12	京都国立近代美術館	Re：スタートライン 1963-70/2023 現代 美術の動向展シリーズ にみる美術館とアーティ ストの共感関係	2023/ 4 /28- 2023/ 7 / 2	京都国立近代 美術館	2023/ 4 /18- 2023/ 7 /12
30	石田幽汀	群鶴図屏風	公益財団法人掛川市文化 財団／掛川市	花と鳥 美の競演—細 密工芸・日本画・日 本洋画—	2023/ 5 /20- 2023/ 7 / 9	掛川市二の丸 美術館	2023/ 5 /10- 2023/ 7 /19
31	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風 (高精細複製画)	公益財団法人掛川市文化 財団／掛川市	花と鳥 美の競演—細 密工芸・日本画・日 本洋画—	2023/ 5 /20- 2023/ 7 / 9	掛川市二の丸 美術館	2023/ 5 /10- 2023/ 7 /19
32	ポール・シ ニャック	サン＝トロペ、グリ モーの古城	宇都宮美術館、DIC川村 記念美術館、ふくやま美術 館	芸術家たちの南仏	2023/ 7 / 2 - 2023/ 9 /24	宇都宮美術館	2023/ 7 /25- 2023/10/ 2
33	山本琴谷	無逸図	島根県立石見美術館、し まね文化振興財団	山本琴谷と津和野藩 の画人たち	2023/ 7 / 8 - 2023/ 8 /28	島根県立石見 美術館	2023/ 6 /28- 2023/ 9 / 7
34	福田半香	李白観瀑図	島根県立石見美術館、し まね文化振興財団	山本琴谷と津和野藩 の画人たち	2023/ 7 / 8 - 2023/ 8 /28	島根県立石見 美術館	2023/ 6 /28- 2023/ 9 / 7
35	カミュー・ピ サロ	ライ麦畑、グラット＝ コックの丘、ポント ワーズ	茨城県近代美術館	土とともに 美術にみ る〈農〉の世界—ミレー、 ゴッホ、浅井忠から現 代のアーティストまで—	2023/ 7 / 8 - 2023/ 9 / 3	茨城県近代美 術館	2023/ 6 /28- 2023/ 9 /13
36	ジョゼフ・ア ルバース	正方形頌	DIC株式会社	ジョゼフ・アルバース の授業 色と素材の実 験室	2023/ 7 /29- 2023/11/ 5	DIC川村記念 美術館	2023/ 7 /19- 2023/11/15
37	石田徹也	社長の傘の下	Gagosian Gallery,Inc. (ガゴシアン・ギャラリー)	Tetsuya Ishida:My Anxious Self (石田 徹也 不安な私)	2023/ 9 /12- 2023/10/21	Gagosian Gallery,Inc. (ガゴシアン・ ギャラリー)	2023/ 9 / 1 - 2023/10/31
38	石田徹也	燃料補給のような食 事	Gagosian Gallery,Inc. (ガゴシアン・ギャラリー)	Tetsuya Ishida:My Anxious Self (石田 徹也 不安な私)	2023/ 9 /12- 2023/10/21	Gagosian Gallery,Inc. (ガゴシアン・ ギャラリー)	2023/ 9 / 1 - 2023/10/31
39	石田徹也	クラゲの夢	Gagosian Gallery,Inc. (ガゴシアン・ギャラリー)	Tetsuya Ishida:My Anxious Self (石田 徹也 不安な私)	2023/ 9 /12- 2023/10/21	Gagosian Gallery,Inc. (ガゴシアン・ ギャラリー)	2023/ 9 / 1 - 2023/10/31
40	石田徹也	市場	Gagosian Gallery,Inc. (ガゴシアン・ギャラリー)	Tetsuya Ishida:My Anxious Self (石田 徹也 不安な私)	2023/ 9 /12- 2023/10/21	Gagosian Gallery,Inc. (ガゴシアン・ ギャラリー)	2023/ 9 / 1 - 2023/10/31
41	岡鹿之助	観測所	東京ステーションギャラリー、 栃木県立美術館、長野県 立美術館、碧南市藤井達 吉現代美術館	春陽会誕生100年 そ れぞれの闘い 岸田劉 生、中川一政から岡 鹿之助へ	2023/ 9 /16- 2023/11/12	東京ステーショ ンギャラリー	2023/ 9 / 6 - 2024/ 7 /17
42	ポール・シ ニャック	サン＝トロペ、グリ モーの古城	宇都宮美術館、DIC川村 記念美術館、ふくやま美術 館	芸術家たちの南仏	2023/10/ 7 - 2023/12/10	ふくやま美術館	2023/10/ 3 - 2023/12/20
43	長沢芦雪	大原女図	大阪中之島美術館、MBS テレビ、毎日新聞社	特別展「生誕270年 長沢芦雪」	2023/10/ 7 - 12/ 3	大阪中之島美 術館	2023/ 9 /11- 2024/ 4 /12
44	長沢芦雪	牡丹孔雀図	大阪中之島美術館、MBS テレビ、毎日新聞社	特別展「生誕270年 長沢芦雪」	2023/10/ 7 - 12/ 3	大阪中之島美 術館	2023/ 9 /11- 2024/ 4 /12

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
45	菊池容斎	日蓮上人波題目之図	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
46	菊池容斎	蒙古襲来之図	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
47	安田雷洲	東海道五十三駅：油井	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
48	安田雷洲	東海道五十三駅：おきつ	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
49	安田雷洲	東海道五十三駅 糸志り	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
50	安田雷洲	東海道五十三駅：するが ふちう	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
51	安田雷洲	東海道五十三駅：うつのや丸子	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
52	安田雷洲	東海道五十三駅：おかへ	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
53	安田雷洲	東海道五十三駅：ふちゑた	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
54	安田雷洲	東海道五十三駅：しまた 大井川	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
55	大久保一丘	富嶽明暁図	サントリー美術館、朝日新聞社	激動の時代―幕末明治の絵師たち	2023/10/11-2023/12/3	サントリー美術館	2023/10/1-2023/12/13
56	オーギュスト・ロダン	パオロとフランチェスカ	久留米市美術館、神奈川県立近代美術館	芥川龍之介と美の世界 二人の先達―夏目漱石、菅虎雄	2023/10/28-2024/1/28	久留米市美術館	2023/10/18-2024/4/17
57	石田徹也	(無題1)	Louisiana Museum of Modern Art (ルイジアナ近代美術館)	The Irreplaceable Human (かけがえのない人間)	2023/11/23-2024/4/1	Louisiana Museum of Modern Art (ルイジアナ近代美術館)	2023/11/10-2024/4/15
58	石田徹也	(無題2)	Louisiana Museum of Modern Art (ルイジアナ近代美術館)	The Irreplaceable Human (かけがえのない人間)	2023/11/23-2024/4/1	Louisiana Museum of Modern Art (ルイジアナ近代美術館)	2023/11/10-2024/4/15
59	石田徹也	めばえ	Louisiana Museum of Modern Art (ルイジアナ近代美術館)	The Irreplaceable Human (かけがえのない人間)	2023/11/23-2024/4/1	Louisiana Museum of Modern Art (ルイジアナ近代美術館)	2023/11/10-2024/4/15
60	岡鹿之助	観測所	東京ステーションギャラリー、栃木県立美術館、長野県立美術館、碧南市藤井達吉現代美術館	春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ	2024/1/13-2024/3/3	栃木県立美術館	2023/9/6-2024/7/17
61	長沢芦雪	大原女図	九州国立博物館・福岡県、RKB毎日放送、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、MBSテレビ	特別展 生誕270年 長沢芦雪	2024/2/6-2024/3/31	九州国立博物館	2023/9/11-2024/4/12
62	長沢芦雪	牡丹孔雀図	九州国立博物館・福岡県、RKB毎日放送、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、MBSテレビ	特別展 生誕270年 長沢芦雪	2024/2/6-2024/3/31	九州国立博物館	2023/9/11-2024/4/12
63	池大雅	蘭亭曲水・龍山勝会図屏風	九州国立博物館・福岡県、RKB毎日放送、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、MBSテレビ	特別展 生誕270年 長沢芦雪	2024/2/6-2024/3/31	九州国立博物館	2023/9/11-2024/4/12
64	円山応挙	木賊兎図	九州国立博物館・福岡県、RKB毎日放送、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、MBSテレビ	特別展 生誕270年 長沢芦雪	2024/2/6-2024/3/31	九州国立博物館	2023/9/11-2024/4/12
65	オーギュスト・ロダン	パオロとフランチェスカ	久留米市美術館、神奈川県立近代美術館	芥川龍之介と美の世界 二人の先達―夏目漱石、菅虎雄	2024/2/10-2024/4/7	神奈川県立近代美術館 葉山	2023/10/18-2024/4/17

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
66	鈴木慶則	非在のタブロー（キリコによる）	一般財団法人清水港湾博物館	水の絵―「幻触」と「幻触」以降の鈴木慶則―	2024/ 2 /23- 2024/ 5 /12	一般財団法人清水港湾博物館	2024/ 2 /13- 2024/ 5 /22
67	鈴木慶則	〈内乱のきざし〉の相貌をおびた非在のタブロー	一般財団法人清水港湾博物館	水の絵―「幻触」と「幻触」以降の鈴木慶則―	2024/ 2 /23- 2024/ 5 /12	一般財団法人清水港湾博物館	2024/ 2 /13- 2024/ 5 /22
68	鈴木慶則	非在のタブロー 梱包されたオダリスク	一般財団法人清水港湾博物館	水の絵―「幻触」と「幻触」以降の鈴木慶則―	2024/ 2 /23- 2024/ 5 /12	一般財団法人清水港湾博物館	2024/ 2 /13- 2024/ 5 /22
69	福田平八郎	雪庭	大阪中之島美術館、毎日新聞社	没後50年 福田平八郎展	2024/ 3 / 9 - 2024/ 5 / 6	大阪中之島美術館	2024/ 2 /29- 2024/ 7 /25
70	カール・アンドレ	鉛と亜鉛のスクエア	DIC株式会社	カール・アンドレ 彫刻と詩、その間展	2024/ 3 / 9 - 2024/ 6 /30	DIC川村記念美術館	2024/ 1 / 4 - 2024/ 7 /10
71	岡鹿之助	観測所	東京ステーションギャラリー、栃木県立美術館、長野県立美術館、碧南市藤井達吉現代美術館	春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ	2024/ 3 /16- 2024/ 5 /12	長野県立美術館	2023/ 9 / 6 - 2024/ 7 /17

美術作品の補修

令和5年度の修復作品

- ・草間彌生《水上の蜚》殺カビ
- ・オーギュスト・ロダン《ベローナの胸像》額装調整
- ・ケーテ・コルヴィッツ《虐げられた人たち》額装調整
- ・川村清雄《草紙洗小町》装丁調整
- ・川村清雄《松竹梅》太巻き作成
- ・斎藤智《Untitled 79-a》額装
- ・斎藤智《Untitled 81-2》額装
- ・長船恒利《在るもの「島田」》マット装
- ・長船恒利《在るもの「清水」》マット装
- ・長船恒利《在るもの「菊川」》マット装
- ・難波田龍起《リトグラフィ集1990 人と自然の形象》
1組5点 マット装、額制作
- ・李禹煥《都市の記憶より》1組6点 マット装、額制作
- ・李禹煥《Avec l'espace 空間とともに(1), (2), (3)》各
1点 マット装、額制作
- ・李禹煥《銅版画文集『東の扉』》1組8点 マット装、
額制作
- ・李禹煥《オリジナル銅版画集『FROM LINE』》1組
12点 マット装、額制作
- ・李禹煥《オリジナル石版画集『点より 線より』》1
組8点 マット装、額制作
- ・李禹煥《オリジナル銅版画集『FROM POINT AND
LINE』》1組6点 マット装、額制作
- ・李禹煥《オリジナル銅版画集『廃墟へ』》1組7点
マット装、額制作
- ・プロムナード彫刻保守

保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる、作品の保全活動は、美術館の持つ重要な役割の一つである。しかしながら、老朽化による不具合が建物の各所に生じ、この機能への障害がしばしば生じている。防水、配管、電気等の基本的な設備が、思いがけない故障によって脅かされ、緊急の対応によって事なきを得ることが多くなった。

今年度は、新型コロナへの対策としての人数制限等を行わずに、以前とほぼ同様の形で多くの事業を運営することが出来た。入館時検温用サーモグラフィー、手指の消毒薬等は引き続き設置し、異常に備えた。

■展示室等殺虫

荷解室、県民ギャラリー等のブンガノンによる殺虫処理は例年通り行なった。一昨年度の鴻池朋子展終了後、本館展示室ガラスケース内及び名品コーナーのみのブンガノン殺虫作業を実施していたことから、今年度はこれらの殺虫消毒は行なわなかった。

建物周囲に緑の多い当館では、害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫等への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断している。ブンガノン炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

展覧会に関連して、作品の燻蒸処理も行なった。当館で所蔵する草間彌生《水上の蜚》は内部に水を湛える構造であり、展示室での公開にはリスクを伴う。会期中の水漏れは防ぐことが出来、水質劣化は水の交換やコケ発生防止剤によってある程度は抑制出来たが、内部の湿度上昇によるカビ発生は不可避であったことから、展示終了後、収納前に、木製の部材の殺菌燻蒸を行なった。また、天地耕作展では、館内に自然木を持ち込む企画があったため、ヴァイケーンによる材料の殺虫処理を行なった。

館内に持ち込まれたノート等の資料類に、害虫の生息が強く懸念されたことから、黒いビニール袋やビニールハウスを利用し、熱処理による殺虫処理も行なった。密封し、日照によってバッグ内部が40℃以上を保つ時間を合計10時間確保した。処置後、虫の発生は起きていない。

収蔵庫等で虫菌害が発生した場合にも、当該個所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガスの開放を入念に行なう必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品への小規模燻蒸に留め、清掃と環

境の改善で対応することを、可能な限り目指したい。

■環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度は4回の館内調査を行なった。また屋外の生物環境の調査を、昨年度に引き続き実施した。館内に侵入する恐れのある生物の生息状況や、リスクになり得る建物周囲の状況を確認した。

ブリッジ・ギャラリーの空調機に不具合に伴って設置した、本館第7展示室とブリッジ・ギャラリーとの間の仮設間仕切りパネルは、今年度も設置を継続した。

館内の作品収納環境は、必ずしも望ましい状態ではなくなりつつある。点数が増え、収納場所が無くなっていくことで、通気を確保し難くなり、取り扱いに必要な空間の確保も難しくなりかねない。作品の収集は美術館本来の機能であり、これを維持していくためにも、収蔵庫機能の改善は、必須の課題である。

収蔵庫中2階に設置した、高気密のキャビネットと調湿剤、ガス吸着剤との併用による作品収納スペースの拡張は、概ね順調に進んでいるが、ガス吸着剤交換に必要な予算の確保が難しく、空気環境の維持には換気による対応に頼らざるを得なくなっている。

■普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けている。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行なわれている。文化財虫菌害研究所主催の「第43回文化財防虫防菌処理実務講習会」では、当館の保存活動の状況について解説した。

■防災

昨年度に引き続き、職員による大規模な防災訓練は実施することが出来た。展示室等で監視に当たるミュージ・スタッフには、災害を想定した図上訓練を事前に実施、発災時の行動や動線を確認した上で、日を改めて企画総務課や学芸課の職員、警備センター、中央監視室等の職員も参加した訓練を実施することが出来た。

静岡県博物館協会事務局としては、防災連絡網を活用

し、台風等に際して会員館園の安全確認を行なった。これらの結果は、協会ウェブサイト内の会員専用アーカイブ内に保存されている。

全国美術館会議東海ブロックでは、愛知、三重、岐阜の各県と共に、防災についての協議を継続しており、今年度から2年間、当館が幹事館となった。今年度は1月1日（月祝）に能登半島地震が発生したため、会員館の安全確認を行なった。

■主な保存活動の経過

6月3日（土）

台風2号の発生を受け、静岡県博物館協会事務局として会員館園の安否確認を実施。結果は会員専用掲示板にアップ。

6月5日（月）～6月12日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第1回目

7月12日（水）～8月22日（火）

資料熱処理実施

7月15日（土）～16日（日）

ブンガノンによる荷解き場、県民ギャラリー等殺虫業務

7月19日（水）～24日（月）

《水上の蜚》部材をエキヒューム燻蒸

8月30日（水）～9月6日（水）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第2回目

10月5日（木）

第43回文化財防虫防菌処理実務講習会で、「静岡県立美術館の虫菌害防除」講義

10月16日（月）～23日（月）

大大名の名宝展レセプション実施後、エントランスホールと本館展示室の集中的なモニタリング

10月23日（月）

ミュージズスタッフのための図上防災訓練実施

11月27日（月）～12月5日（火）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第3回目

2024（令和6）年1月2日（火）

能登半島地震発災を受け、静岡県博物館協会、全国美術館会議、それぞれの防災連絡網を稼働。

1月17日（水）～19日（金）

天地耕作展で使用する部材のヴァイケーン燻蒸を実施

2月13日（火）

全職員による防災訓練を実施

2月26日（月）～3月4日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第4回目

展覧会活動 展覧会一覧

	企 画 展						収蔵品展
	1	2	3	4	5	6	7
4 APRIL	4/18（火）～7/9（日） センス・オブ・ワンダー： 感覚で味わう美術						2/14（火）～4/9（日） 光—The Light
5 MAY							4/11（火）～5/21（日） 新収蔵品展
6 JUNE							5/23（火）～7/9（日） 太田正樹 コレクション展
7 JULY	7/25（火）～9/18（月・祝） 糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。						7/25（火）～9/18（月・祝） 美術館のなかの 書くこと
8 AUGUST							
9 SEPTEMBER							
10 OCTOBER	9/19（火）～10/16（月） 工事のため全館休館						
11 NOVEMBER							10/17（火）～12/10（日） 版画でひもとく 聖書と神話： デューラーから ピカソまで
12 DECEMBER							
1 JANUARY	12/11（月）～2/9（金） 工事のため全館休館						
2 FEBRUARY							
3 MARCH							2/10（土）～4/7（日） 静岡の現代美術と 1980年代

観覧者数一覧

展 覧 会		会 期		観覧者 見込数	観 覧 者 数							
		期 間	日数		一 般	高校・大学	小・中学	70歳以上	未就学児	招待・減免	実績数	対見込
企 画 展	センス・オブ・ワンダー	4/18～7/9	72	7,000	8,961	1,855	1,467	987	552	2,789	16,611	237.3
	糸で描く物語	7/25～9/18	50	25,000	6,404	1,109	1,252	1,356	281	3,287	13,689	54.8
	大大名の名宝	10/17～12/10	48	12,000	2,866	817	648	1,110	106	2,743	8,290	69.1
	天地耕作	2/10～3/27	40	5,500	2,003	478	423	445	168	2,043	5,560	101.1
	小 計		210	49,500	20,234	4,259	3,790	3,898	1,107	10,862	44,150	89.2
収蔵品展		4/1～3/31	228	12,000	4,256	484	655	860	233	2,208	8,696	72.5
合 計			228	61,500	24,490	4,743	4,445	4,758	1,340	13,070	52,846	85.9
移動美術展	小山町	9/3～9/14	10	10,000	-	-	-	-	-	-	777	21.5
	沼津市	9/22～10/1	10								1,372	

■年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成17年度	129,768
昭和62年度	174,031	平成18年度	222,608
昭和63年度	214,156	平成19年度	184,535
平成元年度	229,258	平成20年度	190,669
平成2年度	233,904	平成21年度	101,792
平成3年度	190,361	平成22年度	264,207
平成4年度	173,665	平成23年度	126,626
平成5年度	218,921	平成24年度	163,533
平成6年度	410,182	平成25年度	139,428
平成7年度	245,028	平成26年度	94,664
平成8年度	178,701	平成27年度	110,310
平成9年度	127,299	平成28年度	146,498
平成10年度	153,099	平成29年度	157,323
平成11年度	107,977	平成30年度	73,452
平成12年度	146,833	令和元年度	113,362
平成13年度	207,340	令和2年度	137,276
平成14年度	170,390	令和3年度	45,109
平成15年度	184,095	令和4年度	97,490
平成16年度	146,706	令和5年度	52,846
		累 計	6,409,188

センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術

主催：静岡県立美術館

会期：令和5年4月18日（火）～7月9日（日）

■概要

五感による作品鑑賞の楽しみをコンセプトとし、構成した。多くの芸術作品は視覚による鑑賞を基本とするが、本展では、視覚以外の感覚器官（触れる、聴く、嗅ぐ、味わう）に直接働きかけたり、また過去に経験した感覚の記憶を呼び覚ますことや、未経験の事柄を五感で想像することによって、作品の素材、モチーフや主題をより深く味わう鑑賞へと誘うことを目的とした。展覧会名およびコンセプトは、自然を発見する喜びを綴った、作家で海洋生物学者のレイチェル・カーソンの著作「センス・オブ・ワンダー（＝神秘さや不思議さに目を見はる感性）」からヒントを得ている。インターネットとデジタルメディアの普及に伴い、現代では気軽かつ身近に芸術体験ができるようになったが、コロナ禍を経て、逆に本展は、人間がもつ感覚によって、古い西洋画から最新の美術作品まで、静岡県立美術館の多様性に富むコレクションを、楽しみながら現実（リアル）に感じていただくことを目指した。

展示室の構成は下記のとおり。

- 1「全身体感」「触れてみたい 匂いを嗅いでみたい：彫刻の素材」
- 2「絵の中の音に耳を澄ましてみよう：楽の音、都市の静寂とざわめき」
- 3「触れてみたい 匂いを嗅いでみたい：立体作品の行方」
- 4「絵の中の音に耳を澄ましてみよう 似た風景を思い出してみよう：自然の味わい」
- 5「どんな感触なんだろう？：触ってみたいくなる、さまざまな平面作品の表面」
- 6「味：豊かな実りの世界と静物画」

具体的には、全身体感・鑑賞できる草間彌生の《水上の笙》をトップバッターに据え、感覚を呼び覚ますきっかけとした。また、小型の《考える人》のオリジナルとレプリカを並置し（レプリカは触ってよい）、かつ彫刻の素材に触れるコーナーも設けることで、触覚と嗅覚に訴えるのみならず、作品の造形的特質も実体験できるようにした。さらに、作品に描かれている楽器が奏でる音楽や、風景画の中の自然の音源（雨、雷、風など）をかけることで、聴覚と視覚や想像力に訴えるなど、工夫した。
* 2021年、レイチェル・カーソン著、上遠恵子訳『センス・オブ・ワンダー』新潮社（新潮文庫）を参照した。

■関連事業

- ・館長美術講座「身体巡礼—感覚の僻地へ」
日時：6月4日（日）14:00～15:30
場所：当館講堂
- ・学芸員によるフロアレクチャー
日時：5月6日（土）、21日（日）、6月17日（土）
いずれも14:00～15:00
場所：企画展示室
- ・実技講座「銅版画 線と面で描く?!—メゾチント・ドライポイントに挑戦—」
日時：5月27日（土）、6月3日（土）10:00～16:30
場所：実技室
講師：柳本一英氏（銅版画家、当館実技室インストラクター）
- ・わくわくアトリエ「身体で体感! アクリル画で表現! 五感で絵を描いてみよう」
日時：6月11日（日）10:00～16:30
場所：実技室
講師：野呂美樹氏（画家、当館実技室インストラクター）

■出品目録

pp.78-81を参照

会期中、一部展示替えを行った。



▲チラシ

糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと

主 催：静岡県立美術館
後 援：駐日ルーマニア大使館、スロヴァキア共和国
大使館、カナダ大使館
協 力：北海道立北方民族博物館、スロヴァキア国立
民俗芸術制作センター
企画協力：株式会社イデッフ
会 期：令和5年7月25日（火）～9月18日（月・祝）

■概要

伝統的な装飾品から身近な雑貨まで、時代と地域を越えて発展してきた表現技法である刺繍の魅力を約230点の出品作品を通して紹介する展覧会である。中・東欧の民俗衣装、イヌイットの壁掛け、フランスのオートクチュール刺繍から現代の絵本原画やイラスト、アートまで、さまざまな分野を横断する多彩な作例を紹介する本展覧会は、刺繍技法を用いた現代アートを主に紹介するこれまでの美術館での刺繍展とは一線を画する企画である。2021年4月に横須賀美術館で開催され、2023年に新潟県立万代島美術館に巡回し、当館は最終会場であった。

巡回展である本展では、マスコミとの共催を行わず、オンラインPR配信会社の利用をのぞいては自力での広報を試みた。結果、集客数は目標に及ばなかったが、夏休みの子どもたちへのアプローチや新規の来場者開拓には一定の効果があつた。アンケート結果に見る展示の内容面での満足度は高く、また、監視スタッフからの証言によると、リピーターも多く見られた。会期中に開催したクラフト市「GARDEN」への来場者数を見ても、手仕事やデザインに関心を持つ層は厚く、また熱心である。それを入り口として当館に足を運んでいただき、収蔵品展やロダン館の作品を通して美術全般にも興味を持ってもらえるのであれば、デザインや工芸、クラフトジャンルの展覧会を開催する意義は大きい。また、当館に普段足を運ぶ利用者にとっても、旧来の主たる技法にとらわれない多様な表現に触れる機会となったはずである。

■関連事業

- 館長美術講座「糸と布と衣服をめぐるお話」
8月26日（土）14：00～15：30
講師：木下直之（当館館長）
会場：当館講堂
- 担当学芸員によるフロアレクチャー
7月29日（土）、9月3日（日）
いずれも14：00～14：40
集合場所：第1展示室

- 担当学芸員によるスライドトーク
9月9日（土）、17日（日）
いずれも14：00～14：40
会場：当館講堂
- 夏休みこどもワークショップ「ちくちくアート」
8月5日（土）、6日（日）10：00～16：30
講師：瀬川夏帆氏（フリーモーション刺繍作家）
対象：小学生 会場：実技室
- ちょこっと体験「刺繍」
8月11日（金・祝）～14日（月）
10：00～12：00、13：00～15：30
会場：館内無料エリア
対象：どなたでも
- 実技講座「糸と針で表現する武井武雄の世界」
8月19日（土）、20日（日）10：00～16：30
講師：大塚あや子氏（刺繍家・本展出品作家）
対象：中学生以上 会場：実技室
- GARDEN museum market
9月9日（土）、10日（日）
会場：静岡県立美術館周辺園地
主催：ARTS&CRAFT静岡手創り市

■広報物デザイン

アートディレクター：柿木原正広（株式会社10）
デザイナー：内堀結友（株式会社10）

■図録

編集：富田康子（横須賀美術館学芸員）、立浪佐和子（横須賀美術館学芸員）、柴田勢津子（株式会社イデッフ）
執筆：谷崎聖子、笹倉いる美（北海道立北方民族博物館学芸員）、富田康子、柴田勢津子
発行：株式会社イデッフ ©2021
印刷：株式会社気生堂印刷所
アートディレクター：柿木原正広（株式会社10）
デザイナー：内堀結友（株式会社10）
仕様：表紙 NTほそおりスノーホワイト170kg
見返し NTラジャぼたん四六判130kg
図版 b7ナチュラル菊判49.5kg
本文 OKアドニスラフ70 A判31kg
内容：

図版

第1章 刺繍と民俗衣装

第2章 イヌイットの壁掛け

第3章 刺繍と絵

第4章 刺繍とファッション

「トランシルヴァニアの装いとしつらえの文化」谷崎聖子

「スロヴァキア民俗芸術制作センターとその活動」柴田勢津子

「岩崎コレクションとイヌイットの布絵」笹倉いる美

「樹田紅陽インタビュー」聞き手：富田康子、柴田勢津子/構成：富田康子

「小林モー子インタビュー」聞き手・構成：富田康子

「蝸牛あやインタビュー」聞き手・構成：富田康子
出品作家略歴（第3章）

「メゾン・ヴェルモン刺繍コレクションと制作」柴田勢津子

刺繍の技法

作品リスト

■出品目録

pp.82-92を参照



▲チラシ

大大名の名宝

永青文庫×静岡県美の狩野派

主催：静岡県立美術館

会期：令和5年10月17日（火）～12月10日（日）

■概要

静岡県立美術館は、開館以来、狩野派に注目して作品の蒐集につとめ、「狩野派の世界」と題した展覧会を重ねてきた。本展は約二年ぶりとなる「狩野派の世界」展として開催したものである。

永青文庫は、肥後熊本54万石を治めた大大名・細川家の下屋敷跡にある、東京で唯一の大名家の美術館。南北朝時代より700年の歴史を有する細川家伝来の美術工芸品や歴史資料など、永青文庫の所蔵品は約9万4000点にのぼり、そのなかには、狩野派の傑作や重要作が含まれる。本展では、永青文庫の狩野派作品の全容を調査して優品を選び、30点の作品を拝借し、これらに当館の狩野派作品を掛け合わせることで狩野派の歴史を辿った。当館の狩野派コレクションについては、5点の寄託品も出陳することで、その特色がさらに明確になるように工夫した。また、大名家と狩野派の関係に注目し、近年著しく発展している江戸狩野派の添状研究の成果なども取り入れた展示を行った。さらに、細川家ゆかりの肥後狩野派にも焦点を当て、永青文庫の狩野派コレクションの魅力を多角的に紹介した。

狩野派の主流と名品で成り立つ両館のコレクションを掛け合わせた初の試みであり、作品を通して狩野派の活動の史的意義を改めて評価する機会とすることができた。

なお、本展は令和5年3月末まで学芸課上席学芸員として在籍した野田麻美氏（神戸大学大学院人文学研究科専任講師）が企画・構成したもので、展覧会終了まで野田氏が客員学芸員として携わった。

■関連事業

- ・記念講演会「細川家の歴史と永青文庫」

日時：10月17日（火）10：30～11：00

場所：当館講堂

講師：細川護光氏（公益財団法人永青文庫理事長）

- ・展覧会企画者対談「大大名の名宝展ができるまで」

日時：11月12日（日）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：佐々木英理子氏（公益財団法人永青文庫主任学芸員）、野田麻美氏（神戸大学大学院人文学研究科専任講師、当館客員学芸員）

- ・館長美術講座「肥後熊本の殿様のお屋敷について」

日時：11月26日（日）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：木下直之（当館館長）

- ・学芸員によるフロアレクチャー

日時：10月28日（土）、11月23日（木・祝）、12月3日（日）、いずれも11：00～

集合場所：第1展示室（要観覧券）

講師：石上充代（当館学芸課長）、大橋香奈子（当館非常勤職員）

■図録

編集：野田麻美（神戸大学大学院人文学研究科専任講師、当館客員学芸員）

発行：静岡県立美術館

執筆：野田麻美、佐々木英理子（公益財団法人永青文庫主任学芸員）、金子岳史（熊本県立美術館学芸普及課参事）

デザイン：川添英昭

印刷：株式会社山田写真製版所

仕様：A4版変形 160頁

内容：

図版

第1章 室町・桃山の美一元信・山楽を中心に
コラム 日本における「帝鑑図」成立期の一様相―狩野光信・山楽周辺「帝鑑図屏風」（永青文庫）について

第2章 江戸の華―木挽町狩野家と鍛冶橋狩野家
コラム 狩野栄信が開拓した江戸狩野派の新様式―狩野栄信「楼閣山水図屏風」（静岡県立美術館）について

第3章 大名家と江戸狩野派
コラム ポスト探幽世代の画家たちが目指した美の境地―華麗なる合作「名画集」（静岡県立美術館）、「絵鑑」（永青文庫）について

第4章 肥後狩野派の展開
コラム 肥後狩野派草創期の謎を紐解く―狩野探信守政「夏秋花鳥図屏風」（静岡県立美術館）、「四季草花図屏風」（永青文庫）について

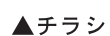
企画者対談「大大名の名宝」展の概要と狩野派研究をめぐる諸問題について

画家解説・作品解説

落款・印章・附属品

作品目録

pp.93-95を参照



天地耕作 初源への道行き

主催：静岡県立美術館・静岡新聞社・静岡放送
助成：芸術文化振興基金
会期：令和6年2月10日（土）～3月27日（水）

場所：当館講堂
講師：川田都樹子氏（甲南大学教授／美学）、村上誠氏、
村上渡氏、山本裕司氏

■概要

本展は、村上誠と村上渡の兄弟と、山本裕司による野外制作プロジェクト「天地耕作」の全貌を明らかにする展覧会である。会場構成では、概ね年代順に展示し、詳細な年表を添えることで、天地耕作についての理解が進むよう配慮した。展示物は写真が主であるため、単調にならないよう展示方法に変化をつけ、あわせて新作のインスタレーションを展示し、天地耕作のエッセンスを伝えることを意図した。

館内での展示に加えて、当館裏山にて、天地耕作の三名による野外作品を制作、発表した。制作期間は令和5年11月下旬から令和6年2月上旬にかけてであり、その経過を記録し、SNSで周知を図った。

また、毎週末イベントを実施し、会期末には野外作品を舞台に、天地耕作によるパフォーマンスを開催した。館外でも、令和4年度から計4回、県内の大学と連携して出講し、天地耕作の活動について普及に努めた。

このほか、収蔵品展の「静岡の現代美術と1980年代」を関連企画として開催し、天地耕作の背景となる静岡や同時代の美術を紹介することで、相乗効果を狙った。

■関連事業

- 特別講演会1「天地耕作を開袋／解体する」
日時：2月18日（日）14：00～15：30
場所：当館講堂
講師：山本浩貴氏（金沢美術工芸大学講師／文化学）
- 特別講演会2「円環が生まれ、壊れるとき」
日時：2月24日（土）14：00～15：30
場所：当館講堂
講師：赤坂憲雄氏（学習院大学教授／民俗学）、
村上誠氏
- 館長美術講座「あとに残さないことと残すことについて、美術篇」
日時：3月3日（日）14：00～15：30
場所：当館講堂
講師：木下直之（当館館長）
- トークセッション「天地耕作、から」
日時：3月17日（日）14：00～15：30

- ・わくわくアトリエ「新木に願いを描こう」
日時：2月25日（日）10：00～16：00
場所：当館実技室、エントランスホール
講師：山本裕司氏

- ・未就学児向けワークショップ「みる・とる・つくる — カメラであそぼう —」
日時：3月9日（土）、10日（日） 10：00～12：00
場所：当館実技室、美術館外周辺
講師：村上誠氏

- ・パフォーマンス「遊芸」
日時：3月24日（日）17：00～18：00
場所：当館裏山遊歩道そば
出演：村上誠氏、村上渡氏、山本裕司氏、
森口紋太郎氏（音楽）

- ・フロアレクチャー
日時：2月10日（土） 14：00～
場所：企画展示室

■図録

企画・編集：植松篤
編集補助：川谷承子、喜多孝臣、太田佳成
発行：静岡県立美術館
仕様：A4判変型 176頁
デザイン：望月一弘（Jicca design）
印刷・製本：日本レーベル印刷株式会社
翻訳：トライベクトル株式会社
内容：ごあいさつ
謝辞・凡例
「脱帝国」としての天地耕作（山本浩貴）
図版
天地耕作—「フィールドワーク」から生まれる芸術（植松篤）
天地耕作インタビュー
テキスト再録
天地耕作メンバー個人略歴
制作活動とフィールドワークの記録
主要参考文献
出品リスト

Amatsuchi Kosaku: Art Born out of
"Fieldwork" (Atsushi Uematsu)

pp.96-100を参照



▲チラシ



▲チラシ

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の1983（昭和58）年に紀要を創刊し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。従って研究テーマは主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に基づき、広く美術および美術館を取り巻く諸問題まで取り扱う。成果品は、例年のように、全国の研究機関および研究者に配布した。

第39号

■判 型 29.7×21.0cm

■頁 数 44頁

■発行日 2024（令和6）年3月31日

■内 容

□カラー口絵 3頁

□論文

・貴家映子

「ポール・シニャック作《サン＝トロベ、グリモアの古城》について一明るい廃墟の位置づけをめぐる」

・石上充代

「木村武山《羽衣》について一天女の図像を中心に」



（表紙）

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・書籍執筆・口頭発表等）を記載する。ただし、一般の新聞・ニュースレターへの寄稿や、一般向け講演、館内研究会、図録の作品解説等は除いている。

■石上充代

- ・論文「研究ノート 都路華香《松風村雨》一能を描く」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第150号、令和5年7月）
- ・論文「木村武山《羽衣》について一天女の図像を中心に」（『静岡県立美術館紀要』第39号、令和6年3月）

■喜多孝臣

- ・論文「プロレタリア美術運動と「左傾本」の装丁について」（『大原社会問題研究所雑誌』第779・780合併号、令和5年9月）
- ・論文「中村彝宛曾宮一念書簡について」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第152号、令和5年12月）

■川谷承子

- ・論文「宮脇愛子《作品》と光をめぐる考察」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第149号、令和5年4月）

■植松篤

- ・論文「研究ノート 静岡におけるアーティストの自主企画展覧会について」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第151号、令和5年10月）
- ・論文「天地耕作ー「フィールドワーク」から生まれる芸術」（『天地耕作 初源への道行き』静岡県立美術館、令和6年2月）

■貴家映子

- ・論文「ポール・シニャック作《サン＝トロペ、グリモーの古城》についてー明るい廃墟の位置づけをめぐるって」（『静岡県立美術館紀要』第39号、令和6年3月）

■浦澤倫太郎

- ・論文「南画家・池田桂仙と浜松」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第153号、令和6年3月）
- ・論文「近世から近代にかけての村松周辺の展望地と絵画」（中條暁秀編『日海記の世界』、静岡新聞社、令和6年4月）

研究会

5月

池田桂仙《山水図屏風》をめぐって

浦澤倫太郎

本発表では、令和5年度寄贈作品でもある、南画家・池田桂仙（文久3（1863）年-昭和6（1931）年）によって描かれた《山水図屏風（林和靖・楓橋夜泊）》を取り上げた。

初めに桂仙の出品歴を辿った。津藩の御抱絵師、池田雲樵の子として生まれた桂仙は、晩年には関西南画界を代表する画家の一人として知られていた。本発表では、京都府画学校在籍時から明治30年代末までを前期、文展で発表を続けた明治40年から大正6年までを中期、日本自由画壇と日本南画院の結成前後から晩年までを後期とし、各期の特徴について検証を試みた。特に中期は、画風を確立し、文展では宮内省買上、特選入賞となるなど、評価が高まる重要な時期であり、本作はその序盤に制作されたことを確認した。

続いて本作の造形的特質に触れるとともに、自賛の詩の出典を明らかにし、画題を検証した。両隻とも自賛の詩文を有し、右隻には元・銭選作とされ、西湖・孤山に住した林和靖の事績を詠んだ「題観梅図」、左隻には中唐・張継の作で、寒山寺の情景が詠まれた「楓橋夜泊」が書されている。これらを踏まえると、右隻には梅が咲き誇る杭州・西湖、左隻には紅葉に染まる蘇州郊外、寒山寺周辺の風景が描かれていることが明瞭となる。そして、本作では、書画一致の理念のもと、中国の古詩に因む春秋の風景が、一双のシンメトリックな構図の中に、対比的に描き分けられていると結論付けた。

最後に制作背景について述べた。本作は、両隻の款記から、明治43年4月、浜松滞在時に制作されたことが知られ、浜松発祥である谷島屋書店の創業家に長く伝わったが、桂仙が同地を訪れた理由や本作の伝来過程は不明であった。今回、『静岡民友新聞』明治43年4月6日号に、桂仙が浜松の好事家に招かれ、利町にあった銀行家・平野又十郎の邸宅に滞在し、作品制作を行ったことを報じる記事を見出すことができた。これにより、浜松での制作が裏付けられるとともに、本作を巡る交友関係も明らかとなった。平野家は、谷島屋書店の近隣に居住し、同店創業家とも交流があった。故に、桂仙の浜松滞在時か、さほど離れていない時期に、本作は同家所蔵となったと推測される。

6月

石田徹也の評価について

川谷承子

画家の石田徹也（1973～2005）の評価をめぐる現在の状況を確認し、所蔵館としての役割についての考察を行った。はじめに石田の画家としての経歴と遺族からの作品寄贈の経緯をたどった。次に、2013年以降海外での出品が続くなかで、作品が海外のキュレーターや批評家らによってどのように語られ、どのような点で評価されているのかについて、言説をたどり分析をおこなった。その結果、作品の解釈が、「失われた10年」という日本特有の時代に関連づけて語られることから、次第に、グローバルな同時代性に関連づけて論じるものへと変化していることが明らかになった。また、作品の市場価値の変動を、オークションの落札価格の履歴をたどり確認し、作品が海外の個人や美術館に収蔵され、受容者が国内外に広がっていることを確認した。以上の考察を踏まえて、価格の上昇とは別に、所蔵館として作品の研究と公開に務める事に加えて、国内外の重要な展覧会への出品に協力し、作品の質や意味の考察の場を広げ、言説が積み重ねられていく状況を創出することに寄与すべきであることを指摘した。

7月

橋本関雪について―《摘瓜図》を中心に

石上充代

橋本関雪が描いた摘瓜図は3点が知られる。そのうち、関雪自撰三十題展（1925）出品作と目される一幅（姫路市立美術館蔵）と、制作年の定かでない一幅（当館蔵）の2点が現存し、両者は図様のうえではほぼ共通する。本発表では、2点の細部を比較して相異点を確認することで、当館所蔵品の特徴を明らかにした。

関雪による単独女性像は仙女図の系譜が知られるが、摘瓜図の女性は、現代の服飾で描かれている点で仙女とは異なる。摘瓜図は瓜と猫のモチーフによって子孫繁栄と長寿を表すものだが、姫路市美本では、明るい色彩を用いて現実感豊かに女性を描きつつ、女性が持つ瓜に猫が視線を向けることによって伝統的な吉祥画題であることを強調する。図版でのみ確認される第6回帝展出品作も、対幅の構成ではあるものの、基本的には姫路市美本に類するものである。一方、当館本における女性像は、抑制的な色彩と直線的・平面的な描写が用いられることで古拙な趣が感じられ、現代風俗ではあるものの仙女図に通じる神秘性を有する。同時に、猫が瓜ではなく観者に視線を投げかけることで、既存の吉祥画題に回収されない新しさを感じさせる。類作として捉えられる一連の摘瓜図であるが、当館本は、よりモダンな要素が盛り込まれた後年の作とみなすことができる。

10月

天地耕作における民俗学的アプローチ

植松篤

村上誠、村上渡、山本裕司の三名による野外制作プロジェクト「天地耕作」（あまつちこうさく）は、その制作の源泉に民俗学的なものへの関心がある。実際に、作品制作では民俗学的なものがテーマや背景となることがあった。また、三名は制作活動だけではなく、フィールドワークとして、近隣の伝統芸能をはじめ、各地の遺跡を巡り、時には国外にまで足を運んだ。

こうした民俗（民族）学的な事物を着想源とする美術には先行例があり、批評家のハル・フォスターは1995年の「民族誌家としての芸術家？」において、リサーチに基づいて制作する動向を批判的に分析した。しかし、天地耕作の場合、フィールドワークと作品との関連性は、直接的、具体的でないことが多い。あるいは、フィールドワークによらず、資料から着想を得ている場合もある。このことは、フォスターが指摘したような、外部の芸術家がある集団を表象するという枠組みには当てはまらない。

また、フィールドワークの際、天地耕作は、身近であるはずの遠州奥三河という「内部」において、その集落からは「外部」として見られることもあった。彼らは、このように二重化した立場を取らざるを得ない。彼らは、「外部」「他界」のような領域、世界をコンセプトに制作することもあり、こうした「内部」「外部」という問題がその関心として存在していた。

11月

カナレットとカメラ・オブスキュラの魅力について

新田建史

カナレット（Giovanni Antonio CANAL, 1697～1768）は、18世紀のヴェネツィア、イギリスで活躍した画家である。彼の描くヴェドゥータ（景観画）は、特にイギリスからグランド・ツアーでヴェネツィアを訪れる旅行者に、大人気を博した。本発表では、カナレットの作品に見られるアネクドティックな要素や画面の印象等を、カメラ・オブスキュラやクロード・ガラスとの関連で捉え直し、旅行者達の視点との親和性について論じた。

12月

「夭折」の画家と日本近代美術史

喜寿孝臣

本発表では次年度開催の『無言館と、かつてありし信濃デッサン館』関連発表として、両館のコレクションに

唯一共通する画家、鬚光の評価史をおうことを一つの軸とし、両館コレクションの共通項である「夭折」が日本近代美術研究史上に有する意義についての考察を試みた。

鬚光は、1948年に開催された日本美術会が主催する第2回日本アンデパンダン展の「戦争犠牲美術家の特別陳列」において17点の作品が展示されたことから、評価の機運が高まった。翌年に鬚光の遺作展が開催される。この目録には、のちの神奈川県立近代美術館館長土方定一が寄稿し、戦争とファシズムに抵抗した画家との評価をあたえ、その評価が長らく鬚光評価の基調をなした。1967年には、公立美術館での初の大規模な回顧展である『鬚光・関根正二』展が神奈川県立近代美術館で開催され、鬚光は、徐々に日本近代美術史に欠かせない画家として位置づけられていく。

鬚光評価の主導者の一人であった土方は、戦前の国家は官設展だけを保護奨励し、その後の近代洋画の発展をゆがめた、という認識をもっていた。そのため神奈川県立近代美術館の展覧会活動を通じて、帝展や文展といった国家の美術制度と距離をもつ在野の画家たちの掘り起こしを積極的に進めていった。その中には若くして亡くなったいわゆる「夭折」の画家も多く、鬚光もそうした画家の一人である。「夭折」の画家とは、戦争画へと終着した戦前の美術制度に組み込まれる前に亡くなった画家ともみることができる。「夭折」の語には、戦前の国家制度下で育まれたメインストリームの美術に対する批判が込められているのではないか。

12月

澤田政廣《笛人》について

南美幸

当館所蔵品の澤田政廣《笛人》に関する発表。1971（昭和46）年、第3回改組日展に出品された際の本作のタイトルは《笛》で、当館取得後になぜ改名が行われたのかは不明である。さらに、英文タイトルが Angel Playing a Flute であることから、本作の主題は天人や天女の表現なのかという点を中心に調査結果をまとめた。

西洋彫刻の研究に基礎を置く当時の彫刻を学習しつつ、木彫家として独自の道を模索した作者は、第一に一木造りを基本とする木彫、第二に色彩へのこだわり、最後に彫痕が残る荒彫りを制作上の特質とする。作者の長い制作歴の中で、笛を吹く、あるいは笛を持つ天人・天女（天界に住む神々）の主題は、1930年代後半（昭和10年代）から1980年代の長期間に、彫刻のほか紙媒体においても多く制作された。これらのうち、《笛人》以前の作品は、図像（空を飛ぶ飛天または座位のポーズ、着衣、結髪）

および細部の丁寧な仕上げという共通点を持つ。一方《笛人》は、笛を吹くという最も重要なモチーフにおいて以前の作品群と共通しているが、裸体と怒髪という異なる表現に加え、作者の技法の特徴であるノミの跡が残る荒彫りが特徴であり、規則どおりではない、自由なイメージの天女図を追求したと言える。さらに、《笛人》以降の天人・天女図は、笛を吹くモチーフから解放されているが、《笛人》に見られる造形的・技術的特徴を一層推し進めているため、《笛人》は、作者のそれまでの笛を吹く天人・天女のシリーズの決着点であり、かつそれ以降の一層自由な天人・天女図の出発点である可能性があるのではないかとすることを結論として述べた。

2月

狩野永岳「三十六歌仙歌意図屏風」について

大橋香奈子

本発表では、当館が所蔵する狩野永岳筆「三十六歌仙歌意図屏風」を取り上げ、その整理された画面構成に注目し、その特異点を改めて確認した。狩野永岳（1790-1867）は江戸時代後期に活躍した京狩野家九代目当主で、当館には本作を含め四点の永岳作品が収蔵されている。本作は、藤原公任撰の三十六歌仙を左右隻に十八名ずつ描いた作品で、三十六歌仙の詠んだ和歌色紙が貼り交ぜられた近くに、その和歌の意味が絵画化された場面が伴う構成となっている。

特徴的なのは、月や川といった複数の歌意に含まれるモチーフが、絵においても複数の場面によって共有されることで、そのモチーフを基点として異なる場面同士が関連し合っていることである。それによって、画面全体を眺めると統一感のある山水景観でありながら、個々の場面も違和感なく鑑賞できるように工夫されている。そしてこのような画面構成は日本絵画においては多々見出せるものであり、例として近世初期風俗画の代表作である「風俗図（彦根屏風）」（彦根城博物館蔵）などにも共通するものと論じた。本作のような画面構成が生まれた背景は、画家や発注者といった作品周辺の人々の、豊かな教養を前提として絵を読み解きたいという欲求に基づくものであると考えた。

2月

ポール・シニャック《サン＝トロペ、グリモーの古城》の画業における位置づけについて―1890年代から1910年代前半を中心に

貴家映子

2023年度紀要論文の内容に基づき、新印象主義の画家

ポール・シニャック（1863-1935）が、南フランスの廃墟をモチーフに描いた風景画《サン＝トロペ、グリモーの古城》（1899年、当館蔵）の造形的特徴、制作背景、イメージソースを明らかにしながら、画業におけるその位置付けを考察した。

まず、主に古写真との比較から、本作品の構図について分析し、描かれた土地の具体的な場所性を強調するように、複数の視野やモチーフが一つの画面に再構成されていることを指摘した。続いて、日記や手紙の記述、同時期に制作された他の作品との関係を手がかりにして、本廃墟画の明朗な印象の背景にあるアナキズムの楽観的な未来像を明らかにした。また、本作が生前未公開となった理由を、画家の愛書家としての側面に注目して考察し、構図の着想源の一つを提示した。

発表の最後には、1890年代の活動の延長上に本作品を位置付けた紀要論文の内容に加えて、当時、画家が関心を寄せつつあった造形上の課題、すなわち、線と色彩の葛藤とその克服という問題と、本作品との関連性を指摘しつつ、20世紀におけるシニャックの制作との（非）連続性を考察した。

3月

実技室の現状と今後の活動についての一考察

～令和5年度の実技室の活動と都道府県立美術館の状況から～

奥村祐喜

この研究の目的は、当館の実技室の存在意義を示すためにどのような活動をしていけば良いか、その基盤には何が必要かを考えることである。そこで、これまでの実技室の活動と特徴を、各都道府県立美術館と比較した。そこから、全国的に見て当館しか行っていない教育普及プログラムが多岐にわたることが分かった。これは、環境作りに長い時間をかけ、人的な任用も地道に整えてきたことで可能となっている。また、実技室内中央の排水溝と、隣接する中庭の排水溝、反対側に隣接する廊下という実技室の構造も、様々なプログラムを行う上で重要な意味を持つということが分かった。

昭和61年の開館当初からワークショップが始まり、これまでの37年間にわたる実績として年報に記載された参加者数は、延べ376,309人にのぼる。実技室やその他の会場で行われたイベントやプログラムは計918回、それらを支えてくれた講師数は延べ738人であった。

これから、実技室の存在意義を示すには、美術館のなかにあるからこそできる活動を行っていくこと、参加者が安心してより高い自己実現や生きがいを見つけられる

時間と空間を提供し続けることが大切と考えた。それによって幅広い世代の参加者それぞれが、体験的な活動を通して納得できる着地点を見出す経験が獲得できるように、参加者に寄り添いながらサポートすることに、実技室関係者の存在価値があると考えられる。

今後、何を期待され、自分たちがどう応えていけるのか示していくことが、この実技室の存在価値を考える上で重要だと考える。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル
- (2) 館蔵品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館蔵品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

(1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、美術品写真の専門家による写真撮影を、年度内にまとめて行なっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジフィルムを写真原板として、受入番号順にフォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。また必要に応じてフィルムスキャナーを用いてデジタル化も行っている。

(2) 館蔵品のデジタル画像

ポジフィルムと並行してデジタル画像も撮影している。データは課内で共有され、研究、各種刊行物・広報物の作成、講演会や研究会などに活用されている。

(3) その他

館蔵品の他、寄託品などについても、様々な形で撮影され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料（美術館宛の個展案内状など）については、ボランティアの資料整理グループが整理を行ってきた。これらは作家ごとに分類・保存され学芸員の研究などに活用されている。

平成26年度からは、案内状に記されている作家名や会場名、会期などの基本データを入力し、作業日ごとに保管場所を作り、管理してきた。

令和3年度には、このエクセルに入力されてきたデータをI.B.Museum SaaSに移行し、「現代美術関連資料」としてウェブ上で一部の公開を始めた。

更に、令和3年度後半の休館期間中より、平成25年度以前に収集された資料のデータについても入力を開始し、今年度から作業が完了したものから順に公開を始めた。現在は、閲覧制限のあるアカウントを用いて、ボランティ

アが直接IBMSに入力作業を行う体制をとっている。

「デジタルアーカイブ」(p.68) も参照のこと。

■展覧会資料の整理

企画展などの文書及び資料については、企画展ごとに整理収納されている。

■コンピューターによる各種データ管理

館蔵品や図書などのデータベース作成には、かつて市販のデータベースソフト「桐」を使用していたが、令和3年度末よりI.B.Museum SaaSへ移行した。詳細は「デジタルアーカイブ」(p.68) 参照のこと。

博物館実習

開館当初より、当館は博物館実習の場と機会を提供してきた。令和2～4年度は、新型コロナウイルスの影響により、各種実習や実技室ワークショップ補助の割愛、オンライン講義の導入などの対応を行ったが、今年度はコロナ禍以前の態勢に復し、作品取り扱い実習なども平常通り実施した。

実習生の受入条件については、下記のとおりとし、10大学11名の学生を受け入れた。

- (1) 県内出身もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学・美術史学、または美術教育・制作、アートマネジメント等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けられること。

実施期間は、8月7日（月）から11日（金）までの5日間であり、各日6時限目までカリキュラムを設定した。

その内容は、当館の学芸課および企画総務課職員による講義・見学・実習などからなる。「糸で描く物語」展の会期中であったことから、最終日の課題制作では、各学生に同展のみどころを、展示室での取材を踏まえ、SNS記事としてまとめてもらい、実際に当館アカウントにて投稿した。

このほか、「地方社会における美術館の役割」というテーマで、大学における博物館学の授業や、美術館を訪れた経験等にもとづき、地方社会における美術館の役割に関する考察を踏まえ、美術館が社会に支持されるためにはどうあるべきかを述べる、実習前のレポート提出と発表および同様のテーマでの実習後のレポート提出を条件とした。

当館での博物館実習を通して、各学生が実際の美術館活動について理解を進め、その役割について様々な考察の機会を得たことをうかがうことができたと思われ、博物館実習の意義が確認できた。

■カリキュラム

- 1時限目 9:30～10:25
- 2時限目 10:30～11:25
- 3時限目 11:30～12:25
- 4時限目 13:30～14:25
- 5時限目 14:30～15:25
- 6時限目 15:30～16:25

8月7日（月）

- 1時限 オリエンテーション（浦澤）
- 2時限 【演習】課題発表（浦澤）
- 3時限 【講義】美術館の概要（石上）
- 4時限 【講義】当館コレクションについて（南）
- 5時限 【見学】（警備室、荷解場、中央監視室等）

（浦澤）

- 6時限 【演習】課題発表（浦澤）
振り返りとノート記入

8月8日（火）

- 1時限 【講義】美術品の購入と寄贈について（川谷）
- 2時限 【講義】情報管理とデジタルアーカイブ（浦澤）
- 3時限 【講義】美術品の保存、IPM（新田）
- 4時限 収蔵庫内実習（新田、浦澤、大橋）
- 5時限 収蔵庫内実習（新田、浦澤、大橋）
- 6時限 振り返りとノート記入

8月9日（水）

- 1時限 【講義】展覧会ができるまで（貴家）
- 2時限 【見学】展覧会ができるまで（貴家）
- 3時限 【講義】美術館の広報について（浦澤）
- 4時限 【講義】美術館ボランティアについて（植松）
- 5時限 【見学】ボランティア、監視スタッフ等（浦澤）
- 6時限 振り返りとノート記入

8月10日（木）

- 1時限 【講義】企画総務課の業務（三輪）
- 2時限 作品取り扱い実習（南、喜寿、石上、浦澤、大橋）
- 3時限 作品取り扱い実習（南、喜寿、石上、浦澤、大橋）
- 4時限 【講義】普及プログラムについて（奥村）
- 5時限 ワークショップ準備（実技室、貴家）
- 6時限 振り返りとノート記入

8月11日（金）

- 1時限 A ワークショップ補助（奥村、貴家）
B 課題制作
- 2時限 A ワークショップ補助（奥村、貴家）
B 課題制作、講評（貴家）
- 3時限 A 課題制作
B ワークショップ補助（奥村、貴家）
- 4時限 A 課題制作、講評（貴家）
B ワークショップ補助（奥村、貴家）
- 5時限 片付け、ディスカッション（浦澤）
- 6時限 振り返りとノート記入

この日のみ2グループに分け、ワークショップ補助と課題制作を交代制で実施した。

※（ ）内は当館担当者名

ギャラリーツアー・タッチツアー

■ギャラリーツアー

ギャラリーツアーは、ギャラリーツアーグループに所属する当館ボランティア1名がナビゲーター役を務めて、収蔵品展とロダン館の作品を、参加者とともに対話形式で約30分間鑑賞する活動である。

今年度は、館内で定期的に行うギャラリーツアーに加えて、9月30日(土)に移動美術展会場の沼津市民文化センターで実施した。また3月16日(土)には、モニターでの参加者を対象に、試験的にZoomを利用しオンラインでの対話型鑑賞会を実施したほか、3月30日(土)には、彫刻プロムナードの作品を対象にしたツアー実施した。

・「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

・ギャラリーツアー班の役割

作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

・ギャラリーツアー登録ボランティア

19名(令和6年3月31日現在)

・実施日および研修日

実施日

毎月第1土曜日(13:30～、14:30～)

毎月第3土曜日(13:30～、14:30～)

※各回おおよそ30分程度で行い3作品程度を取り上げる。

※13:30の回は収蔵品展、14:30の回はロダン館を扱う。

※休館期間は除く。館内の別のイベントと重なる際も休止となる場合がある。

研修日

原則、企画展開幕後の最初の休館日の午後のボランティア内覧会にて収蔵品展について研修を行う。ギャラリーツアー班個別では、2カ月に一回程度、定例会と勉強会を実施している。定例会では、対話型鑑賞についての学芸員による研修や今後の活動計画について話し合いを行う。勉強会では、ツアーの模擬練習などを行っている。

・ギャラリーツアー本番までの流れ

- ①ツアーで取り上げる作品について、文献等で各自自主学習を行う。
- ②学芸員による研修会に参加。また実作品を前に、ボランティア同士でディスカッションや予行演習を行う(勉強会)。
- ③本番ツアー。ナビゲーター役1名の他、補助に1名つき、参加者の誘導などを行う。終了後は、活動日誌に記入。

・令和5年度 ギャラリーツアー実施実績

実施回数、参加者数

光一The Light	1回、計9人
太田正樹コレクション展	6回、計39人
美術館のなかの書くこと	6回、計36人
版画でひもとく聖書と神話	2回、計5人
静岡の現代美術と1980年代	4回、計11人
ロダン館	7回、計31人
移動美術展	4回、計40人
オンライン版ギャラリーツアー	1回、計4人
彫刻プロムナード	1回、計5人

■タッチツアー

タッチツアーは、目の不自由な方を対象とした、彫刻作品を触って鑑賞するプログラムである。身体障がい者対応や彫刻鑑賞について研修を積んだボランティアがガイド役を行う。日頃美術作品を鑑賞する機会が少ない方々であるため、初めての体験という方も多く、好評を得ている。コロナ禍により活動を休止していたが、状況を鑑み、今年度後半より再開した。

・タッチツアー登録ボランティア

7名(令和6年3月31日現在)

・令和5年度 タッチツアー実施実績

実施日: 令和5年11月11日(土)

参加人数: 1名

*ボランティアガイド1名、アシスタント2名

実技・鑑賞講座

■ちょこっと体験講座

平成22年度に試験的に行ったイベントを平成23年度から継続して実施している。来館した方が気軽に参加できるように、エントランスまたはレストラン前の通路にて申し込み不要・参加費無料・約15分の創作体験を行っている。

土曜日と日曜日を含む5日間を基本とし、今年度は館内で3回計画した。5月はカーボン紙を利用した銅版画体験を行い、所蔵作品の絵柄を紙に刷りインクをつけたタンポで彩色する制作を行なった。8月は所蔵品の展覧会と絡め、夏休み子どもワークショップで制作したタペストリーの枠組みとなる布に刺繍する制作を行い、完成した作品は会期中エントランスに飾った。

11月は、「ロダンウィーク」にあわせて、ロダンの「考える人」をお湯で柔らかくなるプラスチック粘土で制作する体験を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月のちょこっと体験までは混雑した際には親子札で呼び出す形で密を避け、アクリル板のパーテーションを机に設置し、制作後は机・椅子などの消毒で対応した。その後コロナウイルスが5類感染症になってから消毒やパーテーションによる感染対策は行わないようにした。

実施日	内 容	人数
5月3～7日	カーボン紙による銅版画体験	644
8月11～14日	みんなでちくちくアート	440
11月1～5日	ミニ考える人づくり お湯で柔らかくなる粘土で考える人	430
年間14日間実施		1,514



■ 実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う、②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深め

る、ということを目指し、できるだけ展覧会に関連づけて実施している。

今年度は3回計画した。5月は銅版画家の柳本一英氏を講師に招き、「センス・オブ・ワンダー」関連講座として、メゾチントとドライポイントの制作を行なった。8月は刺繍家の大塚あや子氏を講師に招き、開催中の「糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。」展と絡めた講座を実施した。参加者は、展覧会鑑賞と大塚氏による解説を受けた後、『武井武雄手藝図案集』から選んだ図を基に刺繍糸を使った制作を行った。

11月は切り絵作家の福井利佐氏を講師に招き「大大名（スーパースター）の名宝」展と絡めた講座を実施した。展覧会を鑑賞した後、実技室にて好きな色の紙を選んで、葉や鳥などのシルエットを切り出し、配置を考えて画面を構成することで、参加者が美しいと感じるものをシルエットで表現した。

実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
5月27日 6月3日	銅版画 線と面で描く？！ —メゾチント・ドライポイントに挑戦— ＜柳本一英氏（銅版画家）＞	8
10月15日 10月16日	糸と針で表現する武井武雄の世界 ＜大塚あや子氏（刺繍家）＞	24
12月10日 12月11日	切り絵ワークショップ シルエットde 花鳥風月 ＜福井利佐氏（切り絵作家）＞	24
年間6日間実施		56



■創作週間

創作週間は中学生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフなど、自宅ではできない版画に取り組んだり、木版画、水彩画、日本画といった制作活動にそれぞれ取り組んだりしていた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画については、曜日固定でインストラクターを配し、利用者への指導、相談、助言をお願いした。

5月には、創作週間スペシャルを実施した。5月はデッサンの基礎として道具の使い方や姿勢などの習得を目的としたワークショップを、講師にアステール総合美術研究所の田村明彦氏を迎えて実施した。

開室日数：51日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下文氏（日本画家）、藤田泉氏（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）、田村明彦氏（アステール総合美術研究所講師）

利用者数：434名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描きながら鑑賞する機会として、創作週間を行う週に毎月2日間、金・土曜日に実施している。

継続して参加されている方が多いなか、今年度は毎月数名の新たな参加者からの申し込みがあり、高校生・大学生など、若い世代の参加者が増えてきている。

実施日数：20日

実施時間：10：00～16：30

参加者数：273名



■その他

単年度で実施したワークショップとして、9月23日に行った沼津市民文化センターの移動美術展のイベントでは、収蔵品の普及とアウトリーチをかねて、収蔵品に表された動物をモチーフにしたシルクスクリーン制作をトートバックを支持体を実施した。また、浜松のルネサンスデザイン・美容専門学校からの依頼で、協力して9月30日、10月1日にアニマルピックフェスタ in 浜名湖での屋外ワークショップを企画し、収蔵品にある動物をモチーフにしたぬり絵体験を実施した。

実施日	内 容	人数
9月23日	収蔵品のシルクスクリーン	127
9月30～ 10月1日	アニマルピックフェスタ in 浜名湖 ぬり絵体験	251



実技・体験

■ねんど開放日

ねんど開放日は、実技室内で1 t 近い水粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらう平成13年度から続くプログラムである。友の会から寄贈された土鍊機を活用して実施している。

3歳以上の親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、自由な創作を楽しんでもらうことに重点をおいている。

令和2年度から当館ウェブサイトからの参加受付を行い、応募多数の場合は抽選制で結果をメールで返送する形をとっているため、当日の混雑は発生しない。また、SNSやウェブサイトで予約開始・終了時間も事前通達し、県のふじのくに電子申請サービスを活用した結果、リピーターの増加傾向がみられる。応募件数も飛躍的に上がり、1日最大16組の参加数に対し、90組に迫る応募件数になるときもあった。参加者は親子で参加しているというケースが多い。今年度計画していた5回すべて実施となった。

新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一部を踏襲し、実技室を9つのエリアに仕切り、中央を粘土置き場にしておいて参加者が取りに来られるようにした。

1区画に1組最大5名、1回の参加者数を最大40名とし、1日2回（午前1回、午後1回）の実施を継続した。また、片付けの時間を短縮するために、参加者に使った粘土を粘土室まで持ってきていただき、粘土で汚れた手足を洗うため1×2×0.5mの水槽前に列を作っていたいただき効率化した。

実施日数：5日（1日2回で10回実施）

実施時間：午前の部 10:00～11:45

午後の部 13:00～14:45

インストラクター：増田洋子氏（美術作家）

場 所：当館実技室

参加者数：231名



■えのぐ開放日

えのぐ開放日は、3歳以上の親子で自由に楽しく絵を描いてもらう平成17年度から始まったプログラムである。基本は屋外で行い、高温・雨天時は室内で行うが、工事の関係から今年度はすべて室内で行った。

ねんど開放日と同様、県のふじのくに電子申請サービスを活用して募集した結果、応募件数が飛躍的に上り、70組ほどが常時応募し、90組に迫る応募もあった。

広々としたスペースで楽しんでもらうこと、安全面などを考え、1組最大5名の8組の定員を設けた。1日2回（午前1回、午後1回）を予定し、4日間すべて実施することができた。

実施日数：4日（1日2回で8回実施）

実施時間：午前の部 10:30～12:00

午後の部 13:45～15:15

インストラクター：増田洋子氏（美術作家）

場 所：当館実技室

参加者数：210名



■わくわくアトリエ

わくわくアトリエは、平成26年度から始まった「いろんな素材をかたちに！」をテーマとした大人から小学生までを対象としたプログラムである。折々の企画展に関連する内容とし、企画展とプログラムとのつながりを理解してもらうために展覧会観覧を盛り込んだ構成とした。

6月には「センス・オブ・ワンダー」関連講座として、最初に展覧会を鑑賞し、その後、事前に用意された様々な素材の色、光、音、手触り、香りなどを、参加者が感じたままに、アクリル画技法で自由に描いて表現した「五感で絵を描いてみよう」を行った。

12月の「大大名（スーパースター）の名宝」関連講座では、最初に展覧会を鑑賞し、狩野派の作品にある鳳凰のような想像上の鳥から、日本では当時は珍しかった鳥まで、色彩豊かに表現された鳥たちを、参加者が金箔地

を貼り、その上に日本画の手法で描く「百鳥繚乱！狩野派を彩る鳥」を行った。

2月の「天地耕作」関連講座では、新木（にゅうぎ）と呼ばれる小正月に門口に立てて置く割り木に着想を得た制作を行い、丸木を半分に割った二つの木片に自分の「願い」をアクリル絵の具で描いた。その後出来上がった新木の半分は展覧会の野外作品が展示されている美術館の裏山に設置、もう一方はエントランスに（同展覧会の会期中）展示した。

実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
6月11日	五感で絵を描いてみよう ＜野呂美樹氏(アトリエかもめ講師)＞	12
12月3日	百鳥繚乱！狩野派を彩る鳥 ＜日下文氏（日本画家）＞	10
2月25日	新木に願いを描こう ＜山本裕司氏（美術家）＞	15
年間3日（計3回実施）		37

■夏休み子どもワークショップ

夏休み子どもワークショップは、児童生徒が美術館に通い、美術・美術館への親しみや、作品や作家との関わりのなかで創造・鑑賞の喜びを感じてもらうことを目的としたプログラムである。

今回は「糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。」関連講座として、展覧会を鑑賞後、針を使って共同制作の刺繍に挑戦し、巨大なタペストリー制作を行なった。

実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
8月5日 6日	ちくちくアート ＜瀬川夏帆氏（フリーモーション刺繍作家）＞	10



■未就学児向けワークショップ

「天地耕作 初源への道行き」展に関連して未就学児向けワークショップを行った。

5歳以上の小学校就学前の子どもと保護者を対象にカメラを用いた活動を実施した。

1日目は、子どもひとりにつき1台ずつカメラを持って、保護者と一緒に実技室内や美術館外にて活動した。ひとり50枚以上の様々な写真を撮影し、撮影した写真の中から気に入った写真を選んだ。

2日目は、子どものみで活動した。1日目に選んだ写真を印刷し、切ったり貼ったり組み合わせたりして制作活動を行った。子どもたちは、迎えにきた保護者に対し、出来上がった作品のみてほしいところなどを懸命に伝えていた。

実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
3月9日 10日	みる・とる・つくる —カメラであそぼう— ＜村上誠氏(幼児教育、美術、写真／常葉大学名誉教授)＞	12



学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園・認定こども園の園児、学校の児童、生徒およびこれらに準ずるものも含む施設を対象とした教育普及プログラムである。実技や鑑賞、総合的な学習の時間における取組みなど、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、教育普及担当やエデュケーショナルスタッフがお手伝いをするものである。

■ねんど教室

「ねんど教室」は、園児、児童、生徒を対象に、陶芸用粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へ、個人制作から共同制作へと繋げていく造形遊びの考え方を取り入れたプログラムである。

今年度も多数の応募があったため、4月に抽選を行った。2日間連続で行い、1日目は1団体（午前のみ）とし、参加したインストラクターと実技室スタッフ、助手との振り返りの時間を設け、今後のプログラムの実施方法について過去の実施方法の復活や継続を検討した。また2日目は午前と午後の2団体に限定することで粘土の使いまわしを無くした。

また、ねんどを触って体感するところから共同制作まで段階的に変化をつけることで、参加者から好評を得られる活動となった。

プログラム終了後に美術館とプログラムの繋がりを持たせるため、ロダン館や企画展へ向かい、鑑賞して終了とした。

実施日	団体名	人数
6月7日	学校法人静岡田町幼稚園	27
6月8日	学校法人静岡田町幼稚園	27
6月8日	静岡県立静岡視覚特別支援学校	8
10月18日	静岡隣人会保育園	25
10月19日	MEKイングリッシュ・プリスクール	10
10月19日	静岡市立麻機小学校特別支援学級	17
11月8日	八幡聖母幼稚園	17
11月9日	蛸ヶ丘保育園	13
11月9日	清水りんぼかんこども園	29
2月20日	学校法人かえで学園かえで幼稚園	37
2月21日	静岡聖母幼稚園	20
年間日数	合計人数	230
8日	団体数	11



■えのぐ教室

「えのぐ教室」は、園児、児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。ねんど教室と同様、4月に抽選を行い、台風による1施設の辞退以外は実施することができた。

園児に対しては、筆を使って点から線、面へと発展させて行い、手にえのぐを塗ってスタンプして描くなど、学年が上がるにつれて少しずつ難易度を上げ、どの年齢に対しても全身を使い、楽しく描くことを重視しているプログラムである。今年度も実技室内で行い、描く支持体であるビニールシートの表裏を使って描くなかで、その裏に返す時に高く上げて裏から自分たちが描いた絵を鑑賞する時間を設けたり、参加者が描ける高さに低く吊り下げたビニールシートにお友達が裏側に立って人物を描くプログラムも取り入れたりするなど、活動に変化を与えることで参加者から好評を得られる活動となった。

実施日	団体名	人数
5月10日	さくら幼稚園	32
5月10日	学校法人貴庵寺学園リリー幼稚園	26
5月11日	美和保育園	19
5月11日	矢部保育園	15
5月12日	袖師保育園	17
5月12日	社会福祉法人静岡隣人会保育園	26
7月5日	中薬科こども園	16
7月5日	曙保育園	24
7月6日	静岡市立和田島こども園	11
7月6日	なでしこ保育園	4
7月7日	認定こども園東海幼稚園	20
7月7日	野外保育ゆたか	21
9月6日	静岡市立千代田小学校特別支援学級	35
9月6日	学校法人貴庵寺学園リリー幼稚園	27

9月7日	静岡市立西奈小学校特別支援学級	22
9月7日	船原幼稚園	19
9月8日	藤枝市立藤枝小学校特別支援学級	15
年間日数	合計人数	349
9日	団体数	17



■音のかけらワークショップ

当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

現代アート鑑賞のための重要なコンテンツではあるが、ワークショップ実施のために、実技室以外の場所と準備時間が必要となること、プログラム自体のユニバーサルデザイン化、作者の制作意図とプログラムとの整合性など、今後の利用について再検討が必要である。

令和4年度に続き、申し込みがなかったため実施はなかった。

■ロダン館ななふしぎ

「ロダン館ななふしぎ」は、ロダン館の彫刻作品を楽しみながら鑑賞するプログラムである。7枚のカードに書かれたクイズを解き、回答後は、別室で実技室担当者が作品解説をしながら答え合わせをしていった。

答え合わせ時の解説では、鋳造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。

実施日	団体名	人数
9月14日	富士市立大淵第一小学校	107
10月24日	聖隷クリストファー中学校	17
11月17日	浜松市立江南中学校	150
12月8日	焼津市立大井川中学校	16
年間日数	合計人数	290
4日	団体数	4



■美術館の秘密をさぐれ！

美術館を誰もが楽しく鑑賞できる展示の工夫や作品保護などについて、当館スタッフがナビゲーターとなり、館内を案内するプログラムである。普段は見ることができない美術館の裏側、施設の特徴や工夫を紹介することで、美術館が多くの人によって支えられていることを発見できる内容になっている。

今年度は4校の参加申し込みがあり、美術館にはどのような職業の方が仕事をされているかも踏まえた説明も含めて実施した。

実施日	団体名	人数
10月24日	聖隷クリストファー中学校	17
10月24日	静岡市立城北小学校	25
10月31日	静岡市立東源台小学校	16
11月14日	きみのスペースまんま	8
年間日数	合計人数	66
3日	団体数	4



■ロダン館スケッチ・デッサン

小・中・高等学校を対象とした、ロダン館彫刻作品のスケッチ・デッサン・クロッキーのプログラム。描く行為によって、通常の観覧以上に細部に眼を向けることとなり、より深い鑑賞体験につなげてもらうことを目指している。

実施日	団体名	人数
6月10日	静岡市立長田西中学校	30
8月4日	静岡市立服織中学校	40
10月21日	静岡市立清水第一中学校	4
11月23日	静岡県立浜松江之島高等学校	24
3月16日	静岡県立沼津西高等学校	11
年間日数	合計人数	109
5日	団体数	5



■ボランティアスタッフとの鑑賞

園や学校の団体観覧時に、当館ボランティア（学校グループ）が鑑賞のお手伝いをするプログラム。

コロナ前は「ロダン館ななふしぎ」「美術館の秘密をさぐれ」などのプログラムと「ボランティアスタッフとの鑑賞」プログラムを併用実施することも多かった。

本プログラムは昨年度より実施可としているが、本年度も依頼はなかった。当ボランティアの活動としては、研修とロダンウィークへのイベントの協力を行なった。

■職場体験

中学校では総合的な学習の時間の一貫として職場体験を行うことがあり、各地域の事業所に体験を依頼している。年間としては数回だが、当館でも職場体験の受け入れを行っている。内容としてはミュージアムスタッフの体験、ミュージアムショップの業務補助、ねんど・えのぐ教室の運営補助など、多岐にわたる業務を体験してもらっている。また、施設内の見学や美術館の役割等の説明も含むため、美術館に関する知識や見識を深めるという教育的な意義のある活動となっている。

今年度は2校の学校を受け入れ、ミュージアムショップの業務補助やねんど・えのぐ教室の運営補助等の体験をしてもらった。

実施日	団体名	人数
8月5日、6日	静岡サレジオ中学校	1
11月22日、24日	常葉大学附属橘中学校	2
年間日数	合計人数	3
4日	団体数	2

■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップなどを指導したい教員を対象として、イベント補助作業やねんど教室の参加・見学を受け入れている。また、当館での夏期研修会、県内各地区の図工美術科教員の研究会に参加し、講師を務めている。

今年度は島田市教育委員会が企画した研修会や県総合教育センター主催の研修会、新採の高校教諭に対する研修会も行った。

実施日	団体名	人数
8月18日	静岡県総合教育センター	19
9月12日	静岡県立浜松湖南高校	2
10月4日	島田市教育研究会図工部	45
年間日数	合計人数	66
3日	団体数	3



■出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、美術館の概要や企画展、収蔵品展、ロダン館の紹介やレプリカ教材（屏風、掛軸、西洋画、考える人など）を使って鑑賞授業を行った。ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行い、そのなかで鑑賞のマナーの説明やレプリカを通して作品の見どころ解説なども行った。

実施日	団体名	人数
8月3日	放課後等デイサービスパレット駒越	9
10月3日	富士宮市立富士根南小学校	198
10月19日	静岡県立清水南高等学校	20
年間日数	合計人数	227
3日	団体数	3



■粘土・レプリカ・当館資料の貸し出し、授業協力

当館のねんど教室に参加するのは、授業時間数や距離・費用などで難しいが、自校で同様の造形遊び体験を实践したいという教員のために、粘土貸出を行っている。

また、学校の図画工作科・美術科の鑑賞分野の教材として使用できるように、当館の収蔵品を用いたレプリカなどの教材貸出、当館で作成したブロンズ彫刻の鋳造工程を解説したVTRなどの資料貸出、鑑賞授業の内容相談などの協力を行っている。

貸出日	粘土貸出 団体名	人数
4月14日	大岡子ども会・大岡南子ども会	200
5月12日	静岡市立清水第七中学校	651
5月21日	静岡市立賤機北小学校	17
6月10日	富士宮市立黒田小学校	189
7月18日	藤枝みんなのミライ楽校	14
8月29日	島田市立六合東小学校	370
8月29日	静岡市立清水江尻小学校	67
9月3日	菊川市立堀之内小学校	34
9月15日	静岡大学教育学部附属特別支援学校	6
9月19日	静岡市立不二見小学校	200
10月4日	島田市教育研究会図工部	45
10月18日	清水りんぼかんこども園	40
10月23日	静岡中央高校	15
10月27日	エンゼル幼稚園	77
12月3日	静岡市立千代田小学校	139
1月11日	藤枝市立広幡小学校	6
合計人数		2,070
団体数		15

貸出日	レプリカ等貸出 団体名	人数
4月29日	富士市立富士見台小学校	360
5月7日	静岡県立浜松江之島高等学校	1
5月18日	加藤学園暁秀初等学校	100
6月4日	静岡県立中央特別支援学校	4
8月3日	放課後等デイサービスぱれっと駒越	9
8月18日	静岡聖光学院中学校・高等学校	540
9月16日	静岡県立沼津商業高等学校	75
9月26日	富士宮市立富士根南小学校	189
10月6日	富士市立富士見台小学校	49
10月16日	静岡県立清水南高等学校	20
10月22日	静岡県立横須賀高等学校	244
12月27日	静岡県立沼津商業高等学校	75
2月3日	富士市立丘小学校	136
2月17日	富士市立丘小学校	140
2月18日	静岡市立清水第七中学校	504
合計人数		2,446
団体数		15



月日	キット等貸出 (ビデオ・DVD・セルフガイド)	人数
6月4日	静岡県立中央特別支援学校	4
8月3日	放課後等デイサービスぱれっと駒越	9
2月3日	富士市立丘小学校	136
2月17日	富士市立丘小学校	140
合計人数		289
団体数		4

月日	授業協力 団体名	人数
6月28日	ルネサンス デザイン・美容専門学校	10
10月18日	裾野市立富岡第一小学校	1
11月22日	筆の里工房	3
合計人数		14
団体数		3

■アートカード貸出

平成27年度より、当館収蔵作品48作品をカードにしたアートカードの貸出を開始した。当館に団体観覧を計画している学校の事前学習や、学校の図画工作科・美術科での鑑賞能力トレーニング題材としてなど、目的や対象に応じて、様々な形態で楽しみながら美術作品に対する興味関心を高められるツールとなっている。

アートカード貸出開始前の平成26年度から教員研修等で実演や紹介をし、図工・美術科教員の研究授業や実践発表の題材として扱われることも出てきたので、学校現場への認知が浸透して利用数が年々増加傾向にあり、今年度は貸し出し数が昨年度と比較して高くなった。

貸出日	団体名	人数
4月20日	焼津市立焼津中学校	248
5月18日	加藤学園暁秀初等学校	100
6月4日	静岡県立中央特別支援学校	4
7月28日	静岡市立清水入江小学校	10
8月3日	放課後等デイサービスぱれっと駒越	9
8月27日	富士市立大淵第一小学校	101
9月26日	栃木県立美術館	10
10月4日	島田市教育研究会図工部	45
11月3日	島田市立島田第一小学校	44
12月10日	静岡学園高等学校・中学校	93
12月21日	裾野市立富岡第一小学校	73
1月20日	富士宮市立黒田小学校	97
3月3日	富士市立丘小学校	139
合計人数		973
団体数		13



講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。

■特別講演会・シンポジウム

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
10月17日	大大名の名宝展 記念講演会「細川家の歴史と永青文庫」	細川護光氏（公益財団法人永青文庫理事長）	講堂	75 人
11月11日	大大名の名宝展 静岡県ガストロノミーツーリズム講演会 「県美の秋、食と文化を考える」	佐藤洋一郎氏（ふじのくに地球環境史ミュージアム館長） 永松典子氏（静岡県ガストロノミーツーリズム・コーディネーター、株式会社FIEJA、株式会社静岡編集舎代表取締役） 木下直之（当館館長）	講堂	50 人
11月12日	大大名の名宝展 企画者による対談「大大名の名宝展ができるまで」	野田麻美氏（客員学芸員、神戸大学専任講師） 佐々木英理子氏（公益財団法人永青文庫主任学芸員）	講堂	80 人
2月18日	天地耕作展 特別講演会1「天地耕作を開袋／解体する」	山本浩貴氏（金沢美術工芸大学講師）	講堂	52 人
2月24日	天地耕作展 特別講演会2「円環が生まれ、壊れるとき」	赤坂憲雄氏（学習院大学教授）、 村上誠氏（出品作家）	講堂	44 人
3月17日	天地耕作展 トークセッション「天地耕作、から」	川田都樹子氏（甲南大学教授）、 村上誠氏、村上渡氏（出品作家）、 山本裕司氏（出品作家）	講堂	102 人

美術講座

■美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館館長、学芸員、外部講師による講座を開催した。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
6月4日	センスオブワンダー 館長美術講座「身体巡礼ー感覚の僻地へ」	木下直之（当館館長）	講堂	43 人
8月26日	糸で描く物語 館長美術講座「糸と布と衣服をめぐるお話」	木下直之	講堂	52 人
9月9日	糸で描く物語 スライドトーク	貴家映子（当館上席学芸員）	講堂	52 人
9月17日	糸で描く物語 スライドトーク	貴家映子	講堂	35 人
11月26日	大大名の名宝 館長美術講座「肥後熊本の殿様のお屋敷について」	木下直之	講堂	70 人
3月3日	天地耕作展 館長美術講座「あとに残さないことと残すことについて、美術篇」	木下直之	講堂	57 人

■フロア・レクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について当館学芸員が解説した。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
4月23日	収蔵品展 新収蔵品展	川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	15 人
5月6日	企画展 センス・オブ・ワンダー	南美幸（当館上席学芸員）	展示室	32 人
5月7日	収蔵品展 新収蔵品展	川谷承子	展示室	22 人
5月21日	企画展 センス・オブ・ワンダー	南美幸	展示室	30 人
5月21日	企画展 センス・オブ・ワンダー（友の会向け）	南美幸	展示室	11 人
6月3日	収蔵品展 太田正樹コレクション展	川谷承子	展示室	12 人
7月2日	収蔵品展 太田正樹コレクション展	川谷承子	展示室	20 人
6月17日	企画展 センス・オブ・ワンダー	南美幸	展示室	50 人
7月29日	企画展 糸で描く物語	貴家映子（当館上席学芸員）	展示室	30 人
9月3日	企画展 糸で描く物語	貴家映子	展示室	30 人
9月3日	企画展 糸で描く物語（友の会向け）	貴家映子	展示室	8 人
8月20日	収蔵品展 美術のなかの書くこと	喜多孝臣（当館主任学芸員）	展示室	3 人
9月3日	移動美術展小山町「旅する人生」（2回）	喜多孝臣	小山町総合文化会館	31 人
9月9日	移動美術展小山町「旅する人生」（2回）	喜多孝臣	小山町総合文化会館	47 人
9月30日	移動美術展沼津市「旅する人生」（2回）	喜多孝臣	沼津市民文化センター	59 人
10月28日	企画展 大大名の名宝	石上充代（当館学芸課長）	展示室	30 人
11月15日	企画展 大大名の名宝（夜活応援講座）	石上充代	展示室	27 人
11月23日	企画展 大大名の名宝	石上充代、大橋香奈子(会計年度任用職員)	展示室	35 人
12月3日	企画展 大大名の名宝	石上充代	展示室	40 人
10月22日	収蔵品展 版画でひもとく聖書と神話	南美幸	展示室	26 人
11月5日	収蔵品展 版画でひもとく聖書と神話	南美幸	展示室	15 人
12月3日	収蔵品展 版画でひもとく聖書と神話	南美幸	展示室	24 人
2月10日	企画展 天地耕作展（友の会向け）	植松篤（当館上席学芸員）	展示室	8 人
2月10日	企画展 天地耕作展	植松篤	展示室	30 人

対外活動

■講座等

貴家映子：「川喜田半泥子が見た100年前のパリ画壇」
(企画展「川喜田半泥子が見た欧米」記念講演会)

【石水博物館】5月28日(日)
「糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。」(国際関係学部特別講座)

【静岡県立大学】7月14日(金)

浦澤倫太郎：講義「小杉文庫について(全2回)」

【静岡大学】(「地域の人と文字文化」)
5月29日(月)、6月5日(月)

川谷承子：「歴史から読み解くしずおか学B」

【静岡県立大学】6月21日(水)

植松 篤：「企画展「天地耕作 初源への道行き」について」(現代美術概論)

【常葉大学】7月25日(火)
「静岡県立美術館「天地耕作 初源への道行き」展レクチャー 野外制作プロジェクトと裏山のプランについて」

【静岡大学】令和6年1月25日(木)

新田建史：「静岡県立美術館の虫菌害防除」

【第43回文化財防虫防菌処理実務講習会】
10月5日(木)

石上充代：世界遺産県民講座「富士山に育まれた日本の絵画」

【プラサ ヴェルデ】令和6年1月27日(土)

■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のもとに以下の事業を行った。

1 役員会・総会開催

日時：5月23日(火) 13:30～14:30 役員会
15:00～16:30 総会

会場：静岡県立美術館講座室

新型コロナ禍が終息の傾向にあると思われることを受け、今年度は対面開催を基本とし、会場への出席が難しい会員の便を図るため、オンラインでの参加も可とした。

2 研修会・講習会等の実施

加盟館園相互インタビュー「突撃となりのミュージアム！ Vol.3」

日時：10月17日(火) 13:00～16:00

会場：ふじのくに地球環境史ミュージアム

参加者：椿原靖弘氏(フェルケル博物館学芸部長)

／手塚覚夫氏(東海大学海洋学部博物館学芸員)／早川宗志氏(ふじのくに地球環境史ミュージアム准教授)／貴家映子(静岡県立美術館上席学芸員／事務局)

各館の課題や関心事を共有しあう場として、令和3年度から実施している加盟館園同士の相互インタビューの第3回目を実施し、報告編を、本協会紀要第47号に掲載した。

「袋井市森町 史跡視察」

日時：令和6年1月31日(水) 10:00～17:00

講師：白澤崇氏(袋井市教育委員会生涯学習課文化財係長)

島口直弥氏(袋井市文化財保護審議会委員)

松浦博氏(森町立歴史民俗資料館館長)

榊原淑友氏(遠州木三の里連代表)

北島恵介氏(袋井市文化財保護審議会委員)

会場：安養山西楽寺、森町歴史民俗資料館、種茂家、北嶋糰店

参加者：15名

JR袋井駅にて集合し、バスにて各会場を視察した。西楽寺では、建築について白澤崇氏が、仏像について島口直弥氏が解説した。昼食をはさんで、森町立歴史民俗資料館を、館長・松浦博氏の案内で見学し、秋葉山信仰とともに栄えた森町の歴史を展示資料とともに学んだ。

同じく森町に位置する種茂家、北嶋糰店では、榊原氏、北島氏にご案内いただき、地域に残る文化財を活用しながら守り伝えていく事例に触れることができた。協会としては、これまで開催してこなかった地域でのバスツアーであり、多くの学びを得るとともに、加盟館員同士の交流にもつながった。地域に眠る文化財の意義や有り様を知ること、3月の講習会に向けての布石ともなった。

講習会「文化財救済と史料ネット」

日時：令和6年3月10日(日) 13:30～16:00

会場：静岡文化芸術大学南176大講義室

参加者：32名 ※一般からの参加も可とした。

講演1 「私たちが守っているものー岐阜県美術館で実践している日常の保存管理、災害への備え」
廣江泰孝氏(岐阜県美術館課長補佐兼学芸係長)

講演2 「古文書を継承していくためにー史料調査の経験をふまえてー」

西田かほる氏（静岡文化芸術大学教授）

大規模な天災が起きた時、被災した文化財を救出するためにも、前提となる所在調査等が必要だが、そこで大きな力を発揮するのが、各地域で活動続ける史料ネットである。本講習会は、静岡県には史料ネットが無いという現状をふまえ、史料の救済や調査に携わってこられた講師二名のお話を伺うことで、今後の実践に向けて、考えを深めることを目的として開催した。当日は、運営側の都合により講演の順序が入れ替わった。西田氏には、史料調査のご経験を踏まえた県内の史料保存における課題や展望および史料ネットについてお話いただいた。廣江氏には、災害への対応のご経験に基づいた、岐阜県美術館の防災・減災への取り組みについてお話いただいた。

なお、本講習会は浜松市文化財課と共催した。

3 地域セミナーの開催

- ・公益財団法人佐野美術館「日本刀の匠たち」展関連イベント
- ・駿府博物館「短期歴史講座 静岡が舞台となった日本の政局」

4 静岡県博物館協会研究紀要 第47号の刊行

5 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営、リニューアル

トップページのヘッダーや「博物館を探す」ページのデザイン変更、会員向け「アーカイブ」ページ内のフォルダ設置など、ユーザビリティ向上のための軽微な改修を行った。

6 会員用動画作成機材貸出

5件の貸し出しを行った。

7 防災事業の実施

- ・加盟館園目録等データバックアップ事業：2015（平成27）年3月から継続
- ・災害時連絡網稼働
- ・冷凍庫の購入、設置

県内の防災資材確保のため、大型の冷凍庫1台と、梱包用資材とを、東部地域の沼津市明治史料館に試験的に委託した。

8 広報及び情報交換

随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。

9 事業推進グループによる事業の推進

- ・事業推進グループ会合 4回開催

7月5日（水）、11月7日（火）、令和6年1月31日（水）、3月10日（日）

■その他

石上充代：・ふじのくに芸術祭 企画委員会委員、美術部門美術展審査員

- ・ふじのくに子ども芸術大学実行委員会委員

喜寿孝臣：・実践女子大学非常勤講師

川谷承子：・現代美術の展望VOCA展2024—新しい平面の作家たち—作家推薦、上野の森美術館「VOCA展2024」実行委員会

ロダン館展示・イベント

■趣旨

平成26年度、ロダン館開設20周年を一層活性化させるためのキックオフ事業として、地域や大学等と連携した「ロダンウィーク」事業を開始した。ロダン作品32体を擁し、国内唯一の常設展示を行う当館の活性化と賑わい作りを目的に、「ロダンウィーク」は例年事業として定着している。期間中はロダン館、収蔵品展の入場料を無料とし、様々なイベントを開催することで、ロダン館への入館者増、知名度の向上を図っている。

■概要

名 称：ロダンウィーク2023
日 時：令和5年11月1日（水）～11月5日（日）
場 所：静岡県立美術館内

■実施イベント

・丘の上のロダンマルシェ

日 時：11月3日（金・祝）10：00～16：00
場 所：正面広場ほか
内 容：草薙マルシェ実行委員会によるフランス風グルメ、雑貨市16店舗、アートパフォーマンス10名
参加者：約4,000人

・友の会「友の会ひろば」

日 時：11月3日（金・祝）10：00～15：00
場 所：正面玄関前
内 容：常葉大学の学生による消しゴムはんこ制作指導
参加者：45人

・友の会「作家のワークショップ」

日 時：11月3日（金・祝）10：00～15：00
場 所：正面玄関前
内 容：作家のワークショップと販売、作品販売
参加者：延べ人数 130人

・「静岡の名手たち」ロダン賞コンサート

日 時：11月3日（金・祝）13：30～15：30
場 所：ロダン館
出演者：蒔田未来（ピアノ）、伊澤拓未（ピアノ）（第26回「ロダン賞」受賞者）
演奏曲：F.ショパン《幻想即興曲》嬰ハ短調 op.66
ほか（蒔田）
J.ブラームス 6つの小品 op.66ほか（伊澤）

協 力：静岡音楽界AOI

指定管理者（公財）静岡市文化振興財団

入場者：328人

・美術館クイズラリー

日 時：11月3日（金・祝）10：00～15：00
場 所：企画展示室（回答用紙配布は企画展入口・ロダンマルシェ会場）
参加者：208人
景 品：オリジナル缶バッジなど

・コンサート「奏×装～音とロダンと装いと～」

日 時：11月5日（土）14：00～15：00
場 所：ロダン館
出演者：花井悠希（ヴァイオリン）、後藤友香理（ピアノ）
演奏曲：C.ドビュッシー《月の光》、F.クライスラー《プレリュードとアレグロ》ほか
協 力：静岡大学
入場者：235人

・東アジア文化都市2023静岡県コラボイベント「中国文化体験ブース」

日 時：11月4日（土）、5日（日）
場 所：エントランスホール、情報コーナー
内 容：中国成都市、梅州市の文化紹介ブース、中国茶道体験、漢服試着体験など
主 催：一般社団法人アジア芸術文化促進会

・東アジア文化都市2023静岡県コラボイベント「変面×パーカッション 新感覚ステージ」

日 時：11月5日（日）
13：00～13：45、15：30～16：15
場 所：講堂
出演者：王文強（変面）、見谷聡一（パーカッション）
協 力：一般社団法人アジア芸術文化促進会

・ちょこっと体験「ミニ考える人づくり」

日 時：11月1日（水）～5日（日）10：00～12：00、
13：00～15：00
場 所：エントランスホール
内 容：プラスチック粘土を利用したミニ考える人制作体験
参加者：430人



ロダンウィークチラシ▲

美術館ボランティア・広報サポーター

■美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の昭和60年から募集と研修を始め、昭和61年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と来館者との懸け橋となるべく活動を続けている。平成21年には組織改革と再募集を行い（「静岡県立美術館年報 平成21年度」p.82～84を参照）、平成22年4月からは、3年の任期制を導入したうえで新体制により活動を行ってきた。令和3年度末も活動任期3年目を迎えたが、コロナ禍でボランティア活動を十全に行えなかった状況を鑑み、新規募集は実施せず、任期を1年延長した継続希望者により令和4年度も引き続き活動を行った。

令和5年度の募集時には参加のハードルを下げることを企図してボランティア体制を一新。任期を1年（更新可能）にすると同時に、資格年齢を20歳から18歳に引き下げ、学生など若年層も参加しやすい体制とし、125名が登録、活動を行った。令和6年度の募集も本体制を継続し、選考と研修の結果、131名をボランティアとして登録、令和6年度4月より活動予定である。

・活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ懸け橋として活動する。そのために次の3つを活動方針として定めている。

- (1) 来館者サービス充実
- (2) 美術館運営支援
- (3) 地域連携推進

・活動内容、グループ

(1) 全ボランティア共通の活動

当館ボランティアは、それぞれが属する地域、家庭、職場などにおいて、当館の情報を提供することにより、美術館の広報活動の一翼を担うとともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たしている。この活動を促進するために、当館では、企画展ごとにその内容を、いち早く知ってもらうためのボランティア向け内覧会を開催している。これは原則として各会期の最初の休館日に、担当学芸員が展覧会概要や作品解説を行うものである。

(2) 各グループの活動

現在7つのグループに分かれて活動している。令和5年度まで図書閲覧室グループのみ他グループとの兼任を可としている。

①図書閲覧室グループ 42名

図書閲覧室の受付や図書の整理が主な活動。閲覧室において利用者の請求に応じて閉架図書の出納業務を行う。また、開催中の企画展に合わせて、関連図書コーナーを閲覧室内に設置している。

②学校グループ 19名

学校などの団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもの話し相手などを行う。子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見る力を引き出す。

③実技室グループ 20名

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室イベントは、絵画のワークショップや粘土開放日など多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業など、労務が多い。そのため、ボランティアのマンパワーが大変有益となっている。

④ギャラリートツアーグループ 19名

展示室において一般来館者と対話しながら作品を鑑賞する。解説形式は当館学芸員の行うフロアレクチャーなど様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく形式を採用。

⑤タッチツアーグループ 7名

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチツアー」のガイド役を行う。身体障がい者対応や彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチツアー」の申込みがあった場合に、参集して活動する。

⑥資料整理グループ 26名

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。全国の美術館、博物館などから送付されるポスター・チラシを整理、掲示し、一般来館者へ情報提供を行う。また作家からの個展のダイレクトメールなどを分類の上、専用のキャビネットに保管するとともに、クラウド型のデータベースサービスI.B.MUSEUM SaaSへデータを入力し、貴重なアーカイブを形成している。このアーカイブは、学芸員の研究活動に利用されているとともに、当館ウェブサイトのデジタルアーカイブページにおいても一般公開されている。

⑦地域連携・草薙ツアーグループ 8名

「地域と美術館を結ぶ」ことを目的として、様々な活

動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館プロムナードにある「杉山彦三郎記念茶畑」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、お茶摘みイベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。

・規約、ルール

ボランティアは、館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」（令和4年度更新）に基づいて活動している。ボランティアには、報酬、旅費などの支給はない。ただしボランティア保険については美術館が負担している。ボランティアの自己研修と広報活動のために、展示会は無料で観覧することができる。

・組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は行っておらず、ボランティア会長や代表などは置いていない。

・活動頻度

グループごとに活動頻度を定めて募集しており、グループによって頻度や時間は異なる。

・ボランティア募集

令和6年度の任期に向けて募集を行った。今回の一般募集はギャラリーツアーグループ以外の6グループで行った。11月上旬に募集要項を県内各所へ配布し、当館ウェブサイトやSNSにおいて告知を行った。締切日の12月21日まで、ふじのくに電子申請サービス、郵送、FAXにて応募を受け付けた。応募は、新規、更新あわせて123名あった。ギャラリーツアーグループについては、本年度登録者を対象に更新の希望を募り、17名が更新した。ギャラリーツアーグループを含め、応募総数は140名である。なお、本年度の学校グループの活動が縮小状況にあることをふまえ、令和6年度にはこれまでの図書閲覧室グループだけではなく、学校グループを他グループとの兼任を可とした。

書類選考および新規応募者を対象とする面接選考を実施の後、2月から3月にかけて、新規応募者を対象とした研修と応募者全員を対象とした研修を全2回行った。来館での参加が難しい応募者に対しては、研修の様子を映像に記録し、インターネットによる限定配信の視聴および別途来館時の録画視聴をもって、来館での参加に代えた。研修受講は登録の必須条件とした。最終的に応募

者の中から131名を登録した。

(1) 説明会

日時：12月9日（土）14：00～14：30

場所：当館講座室

(2) 研修

第1回

日時：2月21日（水）または 2月25日（日）

13：30～16：20（どちらか1日を選択）

場所：当館講堂、館内各所

対象：新規応募者

内容：オリエンテーション（喜寿）

13：30～14：00

県立美術館について（石上）

14：10～14：50

来館者対応について（当館監視スタッフ 小木曾友紀氏）

15：00～15：50

施設見学（喜寿）

16：00～16：20

第2回

日時：3月6日（水）または 3月10日（日）（どちらか1日を選択）

場所：当館講堂

対象：全応募者

内容：オリエンテーション（喜寿）

13：30～13：45

県立美術館の教育普及事業（奥村）

13：50～14：40

美術館と著作権（喜寿）

14：50～15：30

(3) 結果

ボランティア登録者	131名
図書閲覧室グループ	53名（兼務含む）
学校グループ	20名（兼務含む）
実技室グループ	13名（兼務含む）
タッチツアーグループ	14名（兼務含む）
地域連携・草薙ツアーグループ	10名
資料整理グループ	25名（兼務含む）
ギャラリーツアーグループ	17名（兼務含む）

■ 広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度から「地域サポーター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、サポーター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域サポーター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をサポーターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報サポーター」とし、新たに募集を行った。（令和5年度末時点「広報サポーター」登録者数30名）

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同サポーターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

友の会活動

■諸会議

・理事会・評議員会

日時：6月2日（金）

場所：静岡県立美術館 講座室

- (1) 令和4年度事業報告、決算報告
- (2) 令和5年度事業計画案、予算案
- (3) その他

・友の会と学芸との懇談会

日時：5月16日（水）

場所：静岡県立美術館講座室（ロダンテラス）

- (1) 友の会状況
- (2) 友の会事業など

・会長・副会長への事業報告会

日時：10月12日（木）

場所：静岡県立美術館 会議室

- (1) 事業報告
- (2) その他

日時：3月22日（金）

場所：静岡県立美術館 会議室

- (1) 事業報告
- (2) 令和6年度事業について
- (3) その他

・事業委員会

静岡県立美術館 会議室等 12回開催

・会報委員会

静岡県立美術館 会議室等 17回開催

■実技講座

・実技講座「写真を撮ろう：基礎講座Ⅱ」

日時：10月29日（日）、11月11日（土）2日間

場所：静岡県立美術館 講座室

- (1) 撮影実習及び鑑賞会ほか

講師：中村明弘氏

参加人数：11名

■講演会（イベント）等の開催

・企画展ごと会員向けレクチャー

- (1) 「センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術」

日時：5月21日（日）

参加人数：11名

- (2) 「糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。」

日時：9月3日（日）

参加人数：8名

- (3) 「大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派展」

スライドトーク

日時：10月17日（火）

場所：静岡県立美術館 講堂

対象：会員及び一般参加者

- (4) 「天地耕作 初源への道行き」

日時：2月10日（土）

参加人数：8名

・木下直之館長講座「信濃デッサン館なくして無言館なし」

日時：3月26日（火）

場所：静岡県立美術館 講座室

参加人数：30名

・「友の会ひろば」

- (1) 消しゴムスタンプづくり

日時：11月3日（金・祝）

場所：静岡県立美術館正面広場

参加人数：消しゴムスタンプづくり 45人

常葉大学造形学部の協力 学生9名

県内作家によるワークショップ 約130人

4 研修旅行

・木下直之館長と行く信州「無言館」～「長野県立美術館」への旅

日時：5月29日（月）～30日（火）1泊2日旅行

参加人数：27名

・「自然の中でアートにふれる旅」

日時：11月16日（木）

行き先：せきがはら人間村生活美術館、豊田市美術館

参加人数：25名

■友の会美術館支援事業

・各種実技支援事業

■情報資料の作成と提供

・友の会だより「プロムナード」発行(各800部)

- (1) 第107号（4月14日発行）アトリエ訪問

日本画家 宮地 恭代氏

- (2) 第108号（10月6日発行）アトリエ訪問

画家 坂部 隆芳氏

- ・情報の提供

- (1) 美術館ニュース「アマリリス」郵送（年4回）
- (2) 各種催事の提供
- (3) 美術館内掲示板の有効活用
- (4) 友の会ホームページ

講座講師やアトリエ訪問作者等の友の会事業関連
作者の展覧会の案内等掲載

■キッズアートプロジェクトしずおか支援

- ・静岡県内の小学生を対象に配布する「ミュージアムパスポート」の作製や事業活動へ協賛

■その他の事業

- ・提携等県内美術館との連携

提携美術館（静岡市美術館、駿府博物館）を始めとする県内美術館（静岡市立芹沢銈介美術館）が開催する企画展チラシを会員に配布するとともに、招待状10組を抽選により会員に提供

提携美術館のうち、常葉美術館は常葉ギャラリーに改編、廃止されたが新たに掛川市ステンドグラス美術館が加盟

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年 5月25日
改正 平成14年 6月16日
改正 平成20年 2月27日
改正 平成24年 2月28日
改正 平成27年 4月1日
改正 平成29年 4月1日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、親子(キッズ)会員、学生会員、シニア会員、及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、シニア会員を選択することができる。
- (2) 高校生・専門学校生・大学生は、学生会員とする。
- (3) 会員資格の有効期限内における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年間延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず返還しないものとする。

2 各種講座・見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし用口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけるものとする。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なければならない。

2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。ただし、軽微な変更については、この限りではない。

(事業報告及び収支決算)

第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
 - (2) 副会長 1人
 - (3) 理事(会長及び副会長を含む)10人以内
 - (4) 評議員 15人以内
 - (5) 監事 2人
- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事及び評議員は、監事を相互に兼ねることができる。

(役員の職務)

第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
- 4 評議員は、評議員会を構成する。
- 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

(役員の任期)

第18条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(専門委員会)

第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。

- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。

(事務局)

第20条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。

(顧問)

第21条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。
- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。

第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。

- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。

(会議の権能)

第24条 理事会は、この会則に別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。

- 2 評議員会は、この会則に別に定めるもののほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評

議員会の意見を聴かなければならない。

(会議の開催)

第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。

2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。

(会議の定足数)

第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

(会議の議長)

第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。

(会議の議決)

第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面の決議等)

第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。

第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 構成員の現在数
- (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
- (4) 議決事項
- (5) 議決の経過の概要及びその結果
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員のうちから、当該会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印しなければならない。

(賛助会員)

第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。

- 2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

(会則の変更)

第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。

(解散)

第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得たときに解散する。

- 2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決に

よりその用途を定めるものとする。
 (雑則)
 第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関して必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

附 則
 この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。

附 則
 この変更は、平成14年4月1日から施行する。

附 則
 1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。
 2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任されるものとする。ただし、その任期は、第18条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則
 この変更は、平成24年2月28日から施行する。

附 則
 この変更は、平成27年4月1日から施行する。

別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特 典 の 種 類	会 員 の 種 類				
	一般会員	親子 (キッズ会員)	シニア会員	特別会員	学生会員
1 県立美術館主催の企画展招待券	5枚	5枚	5枚	5枚	2枚
2 企画展ごと招待券	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚
3 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
4 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
5 友の会だより「プロムナード」(年2回)、美術館ニュース「アマリリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○	○	○
6 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等、企画展ごとのフロアレクチャー、友の会主催の事業に参加可能	○	○	○	○ (同伴1名まで)	○
7 会員証提示により、県立美術館内レストラン「ロダン・テラス」のランチ料金が会員本人と同伴者1名5%引	○	○	○	○	○
8 会員証提示により、県立美術館内のミュージアムショップの利用補助	○	○	○	○	○
9 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待				○ (同伴1名まで)	

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係) 年会費

会 員 区 分	年 会 費
一般会員	(1名) 5,000円
親子(キッズ会員)	(1名) 3,000円
シニア会員(70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	(1口) 50,000円

広報活動（ウェブサイトを含む）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、各メディアを通じた広報活動を行ってきた。平成8年度には公式ウェブサイトを開設し、その後もリニューアルを繰り返して、展覧会等に関する広報の要となっている。近年ではSNSも複数運用し、幅広い対象に情報発信を行っている。

ここでは、ポスター・チラシなど主要な広報活動とともに、ウェブサイトの運営やSNSの活用について記載する。

■主要な広報活動

- ・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り（JR掲示専用のポスターを展覧会ごとに製作）
- ・ウェブサイトへの情報掲載
- ・展覧会ごとにプレスリリースを作成し、各メディアへ提供するとともにウェブサイト・SNSに掲載
- ・展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）との連携
- ・広告掲載、テレビスポット放映
- ・特集紙面、番組への協力
- ・ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hiほか）
- ・ボランティア向け内覧会の実施
- ・広報サポーターへの情報提供
（ポスター・チラシを送付し、口コミでの広報を依頼）
- ・学校に対する学校関係イベント情報の提供

■広報委員会

企画総務課、学芸課、文化政策課の担当職員から構成され、不定期に館内で会議を開き、アマリリスの編集などを主な業務としてきた。平成29年度に活動内容を大幅に見直し、より戦略的に広報活動を行う方針となった。

現在は、アマリリスの編集に加え、各展覧会の広報サポート、次年度年間スケジュールの製作を行っている。

平成30年度以来、チラシなど広報物の送付先リストの見直しを2回実施した。令和4年度後半より、3度目の更新作業を始めた。令和5年度から、部分的に改善を行いつつ、試験的に運用を始めている。

■ウェブサイト

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

当館ウェブサイトは、平成8年度末に開設された。平成28年度までの累計アクセス数は4,078,414件であった。平成28年度末のウェブサイトリニューアルに伴い、アクセス数の集計方法も変更となり、現在はGoogle Analyticsを使用している。

令和5年4月1日～令和6年3月31日の実績

ユーザー	320,115
セッション	455,141
表示回数	1,062,287

（参考）

令和4年4月1日～令和5年3月31日の実績

ユーザー	356,791
セッション	530,544
ページビュー数	1,240,277

令和3年4月1日～令和4年3月31日の実績

ユーザー	291,457
セッション	401,835
ページビュー数	938,877

令和2年4月1日～令和3年3月31日の実績

ユーザー	402,991
セッション	622,591
ページビュー数	1,460,987

・リニューアル

平成28年度、適切なスマートフォン表示への対応を主目的としたウェブサイトのリニューアルを行い、平成29年3月30日に新ウェブサイトを公開した。令和3年度末のデジタルアーカイブ公開に伴い、コンテンツの配置を一部変更した。

■SNS

現在、下記3種のSNSを運用している。展示作品の紹介やワークショップの記事を随時掲載。

・Facebook

<https://www.facebook.com/shizuokakenbi/>
平成26年7月導入。

・Instagram

<https://www.instagram.com/shizuokakenbi/>
平成28年度「蜷川実花」展より導入。

・X（旧Twitter）

<https://twitter.com/shizuokakenbi>
平成29年度「アートのなぞなぞ」展会期途中より導入。

デジタルアーカイブによる情報発信

デジタルアーカイブとは当館ウェブサイト上で公開している収蔵品、蔵書、現代美術関連資料を対象とした検索システム、および高精細画像、ヴァーチャルリアリティ（以下VR）、動画などの総称である。令和3年度に製作し、同年度末に公開した。製作に至るまでの経緯、製作過程、担当者などは令和3年度年報を参照のこと。

■デジタルアーカイブ・ポータルページ

<https://spmoe.shizuoka.shizuoka.jp/archive/>

各コンテンツを集約した、デジタルアーカイブの中心となるウェブページ。検索システムの検索窓、作家別インデックス、高精細画像、VR、コレクション選、動画へのリンクなどを設置。

■収蔵品など検索システム

<https://jmapps.ne.jp/spmoe/>

クラウド型のI. B. Museum SaaS（以下IBMS）を導入。収蔵品、蔵書、現代美術関連資料などのデータを管理するとともに、その一部をインターネット上で公開している。

・収蔵品

当館の収蔵品に関するデータベース。公開以降も随時登録済みデータを修正している。

・図書

当館の蔵書に関するデータベース。全蔵書のうち、単行本や図録を中心とした約20,000冊分の書誌情報を、校正をかけたうえで公開した。以降、新規に受け入れた図書を随時、登録・公開している。令和5年度は、これまで未公開だった約6,000冊分の書籍データを新たに公開した。

・現代美術関連資料

現代美術作家の画廊などの展示記録に関するデータベース。当館ボランティアによって入力作業が行われている。全国各地の画廊や作家などから当館宛に送付された展示案内などのダイレクトメールの情報を抽出している。

■高精細画像

https://spmoe.shizuoka.shizuoka.jp/digital_archive/taiga/

池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》（重要文化財）の任意の場所を自由に拡大して閲覧することができる。

■VR

https://spmoe.shizuoka.shizuoka.jp/digital_archive/rodin/

オーギュスト・ロダン《地獄の門》のVRコンテンツ。実際の展示空間では不可能な角度や高度を含む、様々な視点からの観察を疑似体験させるとともに、モデルの各所に部分解説を付けることで、作品理解の補助となるツールと位置付けている。

■オンライン教育鑑賞プログラム

令和3年度にデジタルアーカイブの一部として製作した池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》の高解像度画像とオーギュスト・ロダン《地獄の門》のVRを用いた、学校で利用されることを想定した鑑賞教育プログラム。ふじのくに文化教育プログラム推進事業費により、令和4年度後半より本格的に製作に着手した。《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》は小学生向け、《地獄の門》は中学生向けとして開発を進め、館内で検討するなかで、児童・生徒が既存のコンテンツをタブレットで閲覧する形式とした。更に教員からの意見聴取、小中学校での試行を経て、プログラムの内容と手順を示した教員向け利用ガイドと、児童・生徒向けワークシートを完成させた。令和5年度4月より公開した。

■コレクション選

以前から当館ウェブサイト内に存在した収蔵品に関するページを、デジタルアーカイブの中に再構成した。

・風景の交響楽

<https://spmoe.shizuoka.shizuoka.jp/archive/symphony/>

平成18（2006）年に発行した収蔵品をテーマ別に紹介する名品集を、ウェブページ化したコンテンツ。今年度は作品画像を追加するなどの微調整を行った。

・ロダン館

<https://spmoe.shizuoka.shizuoka.jp/exhibition/rodin/>

かつて当館ウェブサイト本体とは異なる独自のフォーマットで製作されたロダン館特設ページを改装したもの。ロダン館やブリッジギャラリーに設置されている彫刻作品を紹介。

・プロムナード

<https://spmoe.shizuoka.shizuoka.jp/exhibition/outdoor/>

当館敷地内にある彫刻プロムナードに設置された作品を紹介。

・伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》

<https://spmoe.shizuoka.shizuoka.jp/archive/jakuchu/>

人気の高い同作について、基本情報や直近の展示情報を紹介するページ。Google Artにて公開中の高精細画像へのリンクも掲載。

■スペシャル動画

デジタルアーカイブの公開に合わせて製作・準備された映像。所蔵作家へのインタビューなど。詳細は令和3年度年報を参照のこと。

■観光デジタル情報プラットフォームへの対応

県の観光振興課が推進するプラットフォームを利用し、当館周辺の観光スポットを表示させる機能を、デジタルアーカイブ内「風景の交響楽」や「プロムナード」に実装している。

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4判8ページ、オールカラーで発行した。

第149（春）号 2023年4月1日発行

- p. 1 表紙 宮島達男《C.F.Lifestructurism-no.13》／上席学芸員 植松篤
- p. 2 TOPICS 1 篤志家太田正樹さんのこと／館長 木下直之
- p. 3 EXHIBITION 1 センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術／上席学芸員 南美幸
- p. 4-5 新収蔵品の紹介
- p. 6-7 研究ノート 宮脇愛子《作品》と光をめぐる考察／上席学芸員 川谷承子
- p. 7 本の窓『青春とは心の若さである』サムエル・ウルマン著、角川文庫、平成8年初版／学芸課主幹 奥村祐喜
- p. 8 美術館問わず語り 工事休館を経て／総務課管理班 菅沼元詳

第150（夏）号 2023年7月1日発行

- p. 1 表紙 ジョヴァンニ・アントニオ・カナル（通称カナレット）《ランタンのあるポルティコ》／上席学芸員 新田建史
- p. 2 TOPICS 1 『アマリリス』創刊号を読む／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 2 『アマリリス』変遷史／上席学芸員 貴家映子
- p. 4 EXHIBITION 1 糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。／上席学芸員 貴家映子
- p. 5 EXHIBITION 2 2023年度収蔵品展 美術館のなかの書くこと

- p. 6-7 研究ノート 都路華香《松風村雨》一能を描く／学芸課長 石上充代
- p. 7 本の窓『事実証談』中村乗高編著、宮本勉翻字解説、羽衣出版、平成5年／主任学芸員 浦澤倫太郎
- p. 8 美術館問わず語り 美術館に来て知ったこと／副館長 和田誉雄

第151（秋）号 2023年10月1日発行

- p. 1 表紙 野口謙蔵《虹の風景》／主任学芸員 喜寿孝臣
- p. 2 TOPICS 1 肥後熊本といえば喜三郎と清正公／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 2 夏休み子どもワークショップ「ちくちくアート」を振り返って／実技室エデュケーショナルスタッフ 中島友絵
- p. 4 EXHIBITION 1 企画展 大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派展／学芸課長 石上充代
- p. 5 EXHIBITION 2 収蔵品展 版画でひもとく聖書と神話—デューラーからピカソまで／上席学芸員 南美幸
- p. 6-7 研究ノート 静岡におけるアーティストの自主企画展覧会について／上席学芸員 植松篤
- p. 7 本の窓『キャベツくんのにちようび』（キャベツくんシリーズ 文研出版 2014年）ほか長新太の絵本／上席学芸員 貴家映子
- p. 8 美術館問わず語り 富士山、そして静岡県美／学芸課非常勤職員 大橋香奈子



第149(春)号



第150(夏)号



第151(秋)号



第152(冬)号

第152（冬）号 2023年12月21日発行

- p. 1 表紙 狩野典信《山水図（以古図）》／学
芸課非常勤職員 大橋香奈子
- p. 2 TOPICS 1 いくつもの境界線をまたいだ
旅／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 2 知の探究を続けることー静岡
県美の8年間／神戸大学大学院人文学研究
科専任講師 野田麻美
- p. 4 EXHIBITION 1 企画展 天地耕作 初源
への道行き／上席学芸員 植松篤
- p. 5 EXHIBITION 2 収蔵品展 静岡の現代美
術と1980年代／上席学芸員 植松篤
- p. 6 - 7 研究ノート 中村彝宛曾宮一念書簡につい
て／主任学芸員 喜尋孝臣
- p. 7 本の窓『絵画の解放 カラーフィールド絵
画と20世紀アメリカ文化』加治屋健司著、
東京大学出版会、2023年／上席学芸員 川
谷承子
- p. 8 美術館問わず語り #考えないようにする
／企画総務課主幹 後藤健志

新たな広報チャンネルの開拓

【センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術】

- ・県庁内エレベーターホールにて展覧会広報動画の放映
- ・静岡駅地下道にて、チラシ配布イベントを実施
- ・静岡県立大学、常葉大学、静岡産業大学、静岡文化芸術大学の学生に向けたメール等での広報
- ・レストランでの展覧会特別メニューの提供

【その他】

- ・ロダン館において乃木坂46MusicVideo撮影受入
→乃木坂46公式YouTubeチャンネルにおける動画配信
→ヘッドラインに撮影地が当館であることが明記された
全国マスコミへのプレスリリース配信
→当館SNSによる聖地巡礼者向け来館PRを実施

【糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。】

- ・静岡駅地下道にて、チラシ配布イベントを実施
- ・東海圏、関東圏の大規模館や展覧会テーマと関連の深い館への集中的な広報物の発送
- ・GARDEN museum market（マルシェ）の誘致、開催
- ・子ども向けチラシの作成、近隣小学校へのチラシの持込み、近隣への折込配布
- ・美術・文化関係のメディアへの情報提供に特化した広報会社を利用した記者等へのプレスリリース配信
- ・市政記者クラブへのプレスリリース投げ込み
- ・静岡県立大学、常葉大学、静岡産業大学、静岡文化芸術大学の学生に向けたメール等での広報
- ・会期中毎日SNSを更新
- ・子連れ割引・手づくり刺繍割引の実施
- ・静岡県立中央図書館との連携展示、イベントの実施
- ・レストランでの展覧会特別メニューの提供

【大大名の名宝—永青文庫×静岡県美の狩野派展】

- ・近代日本画に強い県内外の美術館への集中的な広報物の発送
- ・開会式でのレセプションの実施、展覧会関連メニューの提供
- ・ガストロノミーツーリズム事業と関連した講演会の実施
- ・静岡県立大学、常葉大学、静岡産業大学、静岡文化芸術大学の学生に向けたメール等での広報
- ・レストランでの展覧会特別メニューの提供

【天地耕作 初源への道行き】

- ・展示室外を使った作品の展示（裏山）
- ・裏山での作品制作の様子を定期的にSNSで発信
- ・静岡新聞の特別広報により、新聞による広報の実施
- ・静岡県立大学、常葉大学、静岡産業大学、静岡文化芸術大学の学生に向けたメール等での広報
- ・現代アートに関連の深い画廊、ギャラリーへの広報物の発送
- ・レストランでの展覧会特別メニューの提供

施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
昭和61	93,918	8,005	10,000		
62	95,635	9,911	10,000		
63	112,528	10,346	14,714		
平成元	98,806	12,474	11,937		
2	101,477	11,432	8,274		
3	91,342	13,755	8,545		
4	109,287	14,442	9,499		
5	95,903	10,927	9,308		
6	108,004	12,060	9,159		
7	73,254	10,717	7,015		
8	109,076	9,487	8,621		
9	87,436	10,615	6,486	4,257	
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299
17	69,357	11,762	4,626	4,904	289
18	81,657	10,700	5,087	8,891	499
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344
23	53,147	10,535	2,444	3,033	238
24	43,157	9,475	1,916	1,689	182
25	48,483	8,763	2,146	1,908	188
26	41,201	8,646	823	1,539	186
27	59,350	10,932	712	2,852	185
28	42,386	8,743	1,043	1,405	227
29	35,774	7,827	574	1,446	157
30	28,058	6,452	430	1,096	86
令和元	31,896	5,286	925	782	149
2	15,067	2,692	1,617	412	休止中
3	9,452	1,688	458	278	休止中
4	27,447	4,063	1,104	752	休止中
5	20,002	4,501	1,290	707	休止中
合計	2,526,394	366,722	194,089	144,973	5,429

5 年度 月別 内訳	4	2,605	380	107	62	休 止 中
	5	1,495	340	144	50	
	6	2,142	348	122	22	
	7	1,329	100	107	28	
	8	2,634	415	247	151	
	9	1,696	307	135	40	
	10	1,862	185	93	25	
	11	3,995	1,075	84	120	
	12	1,108	225	48	16	
	1	0	0	0	0	
	2	1,136	212	80	95	
	3	0	914	123	98	

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	4 / 4 (火)	4 / 9 (日)	6	AB	無	第19回アトリエ・ニケ展覧会	大森 恵	1,115
2	4 / 11 (火)	4 / 16 (日)	6	AB	無	第30回2023静岡県写真愛好者芸術展	沖田 完治	681
3	4 / 18 (火)	4 / 23 (日)	6	AB	無	'23現代書作家展・しずおか	毎日新聞静岡支局	809
4	5 / 16 (火)	5 / 21 (日)	5	AB	無	第59回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	906
5	5 / 30 (火)	6 / 4 (日)	6	AB	無	第38回一基書展	一基会	589
6	6 / 6 (火)	6 / 11 (日)	6	AB	無	第48回 二科静岡支部展	二科静岡支部	609
7	6 / 13 (火)	6 / 18 (日)	5	AB	無	第50回 二科会写真部静岡支部公募展	二科会写真部静岡支部	542
8	6 / 27 (火)	7 / 2 (日)	6	A	無	第34回静岡独立美術展	静岡独立美術協会	583
9	6 / 27 (火)	7 / 2 (日)	6	B	無	創作飾り帯結び展 庫流 きものギャラリー23	三輪 民庫	408
10	7 / 4 (火)	7 / 9 (日)	6	AB	無	第51回 静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	715
11	7 / 25 (火)	7 / 30 (日)	6	AB	無	第87回 静岡県版画協会展	静岡県版画協会	614
12	8 / 1 (火)	8 / 6 (日)	6	A	無	第10回 島田杉浦カメラユーザー写真展	杉浦 立芳	342
13	8 / 22 (火)	8 / 27 (日)	6	AB	無	第72回静岡県水彩画協会展	静岡県水彩画協会	1,585
14	8 / 29 (火)	9 / 3 (日)	6	AB	無	第49回静岡県フレミッシュ織展と第14回静岡裂織公募展併催	静岡県フレミッシュ織教室 朝原 智子	707
15	9 / 5 (火)	9 / 10 (日)	6	AB	無	第52回静岡独立書展	静岡県独立書人団	566
16	9 / 12 (火)	9 / 18 (日)	7	AB	無	白日会静岡支部展	白日会静岡支部西谷 之男	1,130
17	10 / 17 (火)	10 / 22 (日)	6	AB	無	第45回静岡県日本画展	静岡県日本画連盟	584
18	10 / 24 (火)	10 / 29 (日)	6	AB	無	静岡県障害者芸術祭障害者アートフェア「招待作家展」・「『ふぁいんダー』作品公募展」	静岡県文化政策課	531
19	10 / 31 (火)	11 / 5 (日)	6	AB	無	静岡県障害者芸術祭障害者アートフェア「招待作家展」、ふじのくに芸術祭2023写真展	静岡県文化政策課	747
20	11 / 7 (火)	11 / 19 (日)	12	AB	無	第27回静岡県すこやか長寿祭美術展	公益財団法人しずおか健康 長寿財団	943
21	11 / 21 (火)	11 / 26 (日)	6	AB	無	第41回静岡県夏の読書感想画コンクール絵画展	株式会社静岡新聞社地域ビ ジネス推進局	3,052
22	12 / 5 (火)	12 / 10 (日)	6	AB	無	第49回静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	1,108
23	2 / 14 (水)	3 / 10 (日)	23	AB	無	令和5年度山の洲文化財交流展	静岡県文化財課	1,136
24	3 / 12 (火)	3 / 17 (日)	6	B	無	「静岡どぼくらぶ」パネル展、わたしの“未来のまち”はこんな“まち”図画コンクール2023受賞作展示	静岡県建設政策課	—
合 計								20,002

来館者のアクセス満足度

利用交通機関について、令和5年度のアンケート集計結果によると、「自家用車」が66.3%と最も高く、次いで「JR」11.4%、「その他」8.1%の順になっている。

アクセス環境の満足度については、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は70.8%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は74.5%であった。

自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られているために、週末などに利用者が集中してしまうと近くの駐車場から順次満車になり、離れた駐車場になると美術館までの徒歩区間が長い登り坂であることがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学の職員駐車場を借用して美術館来館者用に充てるなど、引き続き自家用車利用者の利便性の向上に努めていきたい。

公共交通機関の利用者については、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から当館までは上り坂となっているため、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、アクセスに満足してもらえない主要な要因であると思われる。お客様からアクセスについて電話等で照会があった際には、路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って来ることができることを案内しているものの、バス運行は、1時間に1本であるため利便性が高いとは言い難い。

9月9日、10日に実施したGARDEN museum marketにおいて、周辺道路渋滞への懸念から県立美術館発着の路線バスが終日運休するという事態が生じた。

当館としては交通誘導員を配置し、県大職員駐車場を借用するなど、考えられうる対策を講じ、交渉を続けたが、周辺道路渋滞への懸念が払拭できないとして、バス運行会社の判断により終日運休が決定された。

最終的には、当館HP等での駐車場混雑緩和への協力依頼や主催者SNSを通じて、駅からの徒歩来場のお願いを掲載した結果、周辺道路に影響を及ぼすほど渋滞することなく、無事イベントを開催することができたが、今後集客力があるイベントを実施するたびに同様なことが起きる可能性があり、アクセス環境への影響を注意していく必要がある。

また、来館者の利便性向上のため、二次交通として静岡市が実施しているシェアサイクル事業の誘致を進めている。

令和5年度主要記事

- 4月11日 収蔵品展「新収蔵品展」(～5月21日)
〈会期中イベント〉
学芸員によるフロアレクチャー(4月23日、5月7日)
- 4月18日 企画展「センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術」(～7月9日)
〈会期中イベント〉
学芸員によるフロアレクチャー(5月6日、21日、6月17日)
館長美術講座「身体巡礼ー感覚の僻地へ」
木下直之(6月4日)
- 5月23日 収蔵品展「太田正樹コレクション展」(～7月9日)
〈会期中イベント〉
学芸員によるフロアレクチャー(6月11日、7月2日)
- 7月25日 企画展「糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。」(～9月18日)
学芸員によるフロアレクチャー(7月29日、9月3日)
館長美術講座「糸と布と衣服をめぐるお話」
木下直之(8月26日)
県立中央図書館コラボイベント「おはなしかい」(8月12日)
GARDEN museum market(9月9日、10日)
学芸員によるスライドトーク 貴家映子(9月9日、17日)
- 7月25日 収蔵品展「美術館のなかの書くこと」(～9月18日)
〈会期中イベント〉
学芸員によるフロアレクチャー(8月20日)
- 7月28日 第三者評価委員会
- 8月17日 美術館協議会
- 9月3日 小山町移動美術展「旅する人生」(～9月14日)
〈会期中イベント〉
学芸員によるフロアレクチャー(9月3日、9月9日)
- 9月19日 改修工事による全館休館(～10月16日)
- 9月22日 沼津移動美術展「旅する人生」(～10月1日)
〈会期中イベント〉
学芸員によるフロアレクチャー(9月24日)
- 10月17日 企画展「大大名の名宝ー永青文庫×静岡県美の狩野派展」(～12月10日)
〈会期中イベント〉
- 記念講演会「細川家の歴史と永青文庫」細川護光氏(10月17日)
学芸員によるフロアレクチャー(10月28日、11月23日、12月3日)
ガストロノミーツアーリズム講演会「県美の秋、食と文化を考える」佐藤洋一郎氏、永松典子氏、木下直之(11月11日)
展覧会企画者対談「大大名の名宝展ができるまで」佐々木英理子氏、野田麻美氏(11月12日)
館長美術講座「肥後熊本の殿様のお屋敷について」木下直之(11月26日)
- 10月17日 収蔵品展「版画でひもとく聖書と神話：デューラーからピカソまで」(～12月10日)
〈会期中イベント〉
学芸員によるフロアレクチャー(10月22日、11月5日、12月3日)
- 11月1日 ロダンウィーク2023(～11月5日)
〈期間中イベント〉
丘の上のロダンマルシェ(11月3日)
友の会広場(11月3日)
美術館クイズラリー(11月3日)
「静岡の名手たち」ロダン賞コンサート(11月3日)
コンサート「奏×装～音とロダンと装いと～」(11月5日)
東アジア文化都市2023静岡県コラボイベント「中国文化体験ブース」(11月4日、5日)
「変面×パークッション 新感覚ステージ」(11月5日)
- 12月11日 改修工事による全館休館(～2月9日)
- 2月9日 企画展「天地耕作 初源への道行き」(～3月27日)
学芸員によるフロアレクチャー(2月10日)
特別講演会1「天地耕作を開袋／解体する」山本浩貴氏(2月18日)
特別講演会2「円環が産まれ、壊れるとき」赤坂憲雄氏、村上誠氏(2月24日)
館長美術講座「あとに残さないことと残すことについて、美術篇」木下直之(3月3日)
トークセッション「天地耕作、から」川田都樹子氏、村上誠氏、村上渡氏、山本裕司氏(3月17日)
パフォーマンス「遊芸」村上誠氏、村上渡

氏、山本裕司氏、森口紋太郎氏（3月24日）
2月9日 収藏品展「静岡の現代美術と1980年代」（～4月7日）
〈会期中イベント〉
学芸員によるフロアレクチャー（4月7日）

通年 創作週間（通算51日間）
実技講座（通算6日間）
ロダン館デッサン会（通算20日間）
ちょこっと体験（通算14日間）
わくわくアトリエ（通算3日間）
夏休み子どもワークショップ（通算2日間）
未就学児向けワークショップ（通算2日間）
ねんど開放日（通算5日10回）
えのぐ開放日（通算4日8回）
美術館教室（通算17日間）

センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術

4月18日（火）～7月9日（日）

* No. 8. 植木茂《トルソ》のみ個人蔵、ほかは全て静岡県立美術館所蔵品。

* No. 51. 斎藤義重《作品2》は1階エントランスの名品コーナーに展示。

* 会期中、展示替え。4月18日（火）～5月21日（日）○、5月23日（火）～7月9日（日）●

No. 作者名	生没年	作品名	制作年（元号）	材質	寸法（cm） 平面：タテ×ヨコ 立体：高さ×ヨコ×奥行
全身体感					
1 草間彌生	1929（昭和4）－	水上の蜚	2000（平成12）	鏡、金属、電球、木、アクリル板、水	320.0×467.0×467.0
触れてみたい 匂いを嗅いでみたい ： 彫刻の素材					
2 オーギュスト・ロダン	1840－1917	考える人（小型）	1880（ casting 1920年以前）	ブロンズ	37.2×28.6×23.6
3 植木茂	1913－1984（大正2－昭和59）	トルソ	1956（昭和31）	木彫	159.3×58.3×35.0
4 柳原義達	1910－2004（明治43－平成16）	座る	1960（昭和35）	ブロンズ	129.5×44.0×75.0
5 高田博厚	1900－1987（明治33－昭和62）	水浴	1961（昭和36）	ブロンズ	80.5×27.5×26.0
6 淀井敏夫	1911－2005（明治44－平成17）	野の兎	1967（昭和42）	石膏	32.0×34.0×26.0
7 淀井敏夫	1911－2005（明治44－平成17）	野の兎	1967（昭和42）	ブロンズ	32.0×34.0×23.0
8 淀井敏夫	1911－2005（明治44－平成17）	幼い麒麟・堅い土	1985（昭和60）	石膏	135.0×109.0×73.0
絵の中の音に耳を澄ましてみよう ： 楽の音、都市の静寂とざわめき					
9 クロード・ロラン	1604/05－1682	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	1630年代後半	キャンヴァス、油彩	99.7×133.3
10 クロード・ロラン	1604/05－1682	農民の踊り（小）○	1637頃	紙、エッチング	13.6×19.6
11 ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	1727－1804	『エジプトへの逃避』より「天使に称揚される紋章」●	1750－53頃	紙、エッチング	18.9×23.6
12 ワシリー・カンディンスキー	1866－1944	《冷たいかたちのある即興》のための習作	1914頃	紙、水彩、グワッシュ、鉛筆	33.0×24.0
13 栗原忠二	1886－1936（明治19－昭和11）	セントポール	1916（大正5）頃	キャンヴァス、油彩	80.0×100.0
14 栗原忠二	1886－1936（明治19－昭和11）	ロンドン郊外		キャンヴァス、油彩	50.0×60.7
15 赤城泰舒	1889－1955（明治22－昭和30）	ギターを弾く少年	1928（昭和3）	紙、テンペラ	64.7×49.5
16 二橋美衡	1896－1977（明治29－昭和52）	婦人奏楽●	20世紀中頃（昭和初期）	銅製、彫金打出し	各扇77.8×24.2
17 青木達弥	1917－1981（大正6－昭和56）	ドオモ（夜景）	1965－70年代（昭和40年代－50年代初）頃	キャンヴァス、油彩	72.7×60.6
18 澤田政廣	1894－1988（明治27－昭和63）	笛人	1971（昭和46）	木、彩色	89.2×65.0×58.8
19 二見彰一	1932（昭和7）－	青いホルン、夜	1981（昭和56）	紙、アクアチント	29.6×23.5
20 二見彰一	1932（昭和7）－	海のホルン	1986（昭和61）	紙、アクアチント	23.6×32.7
21 二見彰一	1932（昭和7）－	ホルンのユモレスク	1989（平成元）	紙、アクアチント	32.0×23.0
22 二見彰一	1932（昭和7）－	海のヴァイオリン	1989（平成元）	紙、アクアチント	12.3×12.0

No. 作者名	生没年	作品名	制作年（元号）	材質	寸法（cm） 平面：タテ×ヨコ 立体：高さ×ヨコ×奥行
23 二見彰一	1932（昭和7）－	ふたつのホルンのために（1）	1994（平成6）	紙、アクアチント	19.6×29.1
24 秋野不矩	1908－2001（明治41－平成13）	ブラーミンの家○	1984（昭和59）	紙本着色	113.5×212.0
触れてみたい 匂いを嗅いでみたい ： 立体作品の行方					
25 カール・アンドレ	1935－	鉛と亜鉛のスクエア	1969	鉛、亜鉛	各0.8×20×20（0.8×200×200）
26 大久保婦久子	1919－2000（大正8－平成12）	潤	1970（昭和45）	皮	78.7×68.2
27 中村宏	1932（昭和7）－	総銅製機甲本イカルス	1973（昭和48）	銅版、銅凸版	30.0×21.0×8.5
28 草間彌生	1929（昭和4）－	最後の晩餐	1981（昭和56）	ミクスト・メディア（テーブル1、イス6、綿布、綿、既製品ほか）	テーブル:107×215×108 椅子:各80×45×54
29 大久保婦久子	1919－2000（大正8－平成12）	渚	1995（平成7）	皮	130.0×80.0
30 名和晃平	1975（昭和50）－	PixCell-Deer#47	2016（平成28）	ミクストメディア	136.1×69.5×58.5
絵の中の音に耳を澄ましてみよう 似た風景を思い出してみよう ： 自然の味わい					
31 ジャック・ド・ゲインⅡ世	1565－1629	『四大元素』より「土（地）」○	1588頃	紙、エングレーヴィング	16.2×20.5
32 ジャック・ド・ゲインⅡ世	1565－1629	『四大元素』より「水」●	1588頃	紙、エングレーヴィング	16.5×20.5
33 ジャック・ド・ゲインⅡ世	1565－1629	『四大元素』より「空気（風）」○	1588頃	紙、エングレーヴィング	16.5×20.4
34 ジャック・ド・ゲインⅡ世	1565－1629	『四大元素』より「火」●	1588頃	紙、エングレーヴィング	16.4×20.5
35 クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ	1714－1789	嵐の海	1740頃	キャンヴァス、油彩	89.0×167.0
36 ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	1775－1851	パッランツァ、マッジョーレ湖	1846－48頃	紙、水彩	36.8×54.0
37 ギュスターヴ・クールベ	1819－1877	ピュイ・ノワールの溪流	1865	キャンヴァス、油彩	75.0×90.0
38 ポール・シニャック	1863－1935	サン＝トロペ、グリモーの古城	1899	キャンヴァス、油彩	73.0×91.7
39 ラファエル・コラン	1850－1916	想い	1904（明治37）	キャンヴァス、油彩	59.0×81.2
40 安井曾太郎	1888－1955（明治21－昭和30）	森の中	1911－13（明治44－大正2）	キャンヴァス、油彩	38.0×45.0
41 長谷川潔	1891－1980（明治24－昭和55）	南仏風景	1920年代－30年代（大正末－昭和期）	キャンヴァス、油彩	54.0×65.0
42 佐分眞	1898－1936（明治31－昭和11）	雪のグリュンデルワルド	1927（昭和2）	キャンヴァス、油彩	37.5×45.2c
43 青木達弥	1917－1981（大正6－昭和56）	薄	1941（昭和16）	キャンヴァス、油彩	116.8×91.0
44 小糸源太郎	1887－1978（明治20－昭和53）	春雪	1953（昭和28）	キャンヴァス、油彩	83.0×116.0
45 海老原喜之助	1904－1970（明治37－昭和45）	かぜ	1954（昭和29）	キャンヴァス、油彩	162.2×131.0
46 ジョアン・ミッチェル	1925－1992	湖	1955頃	キャンヴァス、油彩	203.2×254.5
47 曾宮一念	1893－1994（明治26－平成6）	スペインの野	1968（昭和43）	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0
どんな感触なんだろう？ ： 触ってみたいくなる、さまざまな平面作品の表面					
48 モーリス・ルイス	1912－1962	ベス・アイン	1958	キャンヴァス、アクリル	232.0×333.0

No. 作者名	生没年	作品名	制作年（元号）	材質	寸法（cm）
					平面：タテ×ヨコ 立体：高さ×ヨコ×奥行
49 草間彌生	1929（昭和4）－	無題（No. White A.Z.）	1959（昭和34）	キャンヴァス、油彩	232.5×359.0
50 鳥海青児	1902－1972（明治35－昭和47）	壁の修理	1959（昭和34）頃	キャンヴァス、油彩	79.5×116.0
51 斎藤義重	1904－2001（明治37－平成13）	作品2	1960（昭和35）	合板、油彩（ドリルを使用）	169.0×109.0
52 嶋本昭三	1928－2013（昭和3－平成25）	1961-3	1961（昭和36）	キャンヴァス、フタル酸エナメル樹脂塗料、ガラスほか	181×137
53 元永定正	1922－2011（大正11－平成23）	作品	1963（昭和38）	キャンヴァス、油彩、水性樹脂絵具	125.7×183.1
54 白髪一雄	1924－2008（大正13－平成20）	屋島	1965（昭和40）	キャンヴァス、油彩	182.0×227.0
55 李禹煥	1936－	線より	1979（昭和54）	キャンヴァス、岩絵具、にかわ	182.0×227.0
56 田中敦子	1932－2005（昭和7－平成17）	1985A	1985（昭和60）	綿布、アクリル系樹脂塗料	218.5×333.3
57 嵯峨篤	1970（昭和45）－	Repose/009-017	2008（平成20）	MDF、ウレタンコート（9枚組）	41.5×41.5×3.3-4.7
58 大庭大介	1981（昭和56）－	LOG（Icefall）	2014（平成26）	綿布、アクリル	228.0×522.0
味：豊かな実りの世界と静物画					
59 ジャック・カロ	1592－1635	大狩猟○	1614－21	紙、エッチング	19.4×46.1
60 ジャック・カロ	1592－1635	『ボヘミアン』より「宴の準備」○	1622頃	紙、エッチング	12.4×23.7
61 ジャック・カロ	1592－1635	『大受難伝』より「最後の晚餐」○	1620年代中頃	紙、エッチング	11.4×22.2
62 ジョン・マーティン	1789－1854	ミルトン作『失樂園』より「イヴを誘惑するサタン」●	1825－27	紙、メゾチント、エッチング	19.1×27.7
63 ジョン・マーティン	1789－1854	ミルトン作『失樂園』より「禁断の果実をアダムにすすめるイヴ」●	1825－27	紙、メゾチント、エッチング	18.9×28.1
64 サミュエル・パーマー	1805－1881	ケント州、アンダーリヴァーのホップ畑	1833－34頃	板、油彩、テンペラ	19.0×26.0
65 カミーユ・ピサロ	1830－1903	ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ○	1877	キャンヴァス、油彩	60.3×73.7
66 エドワード・ムンク	1863－1944	ヴァンパイア●	1895－1902	紙、色彩リトグラフ、色彩木版	38.5×56.3
67 モーリス・ド・ヴラマンク	1876－1958	小麦畑と赤い屋根の家	1905	キャンヴァス、油彩	60.0×73.0
68 太田喜二郎	1883－1951（明治16－昭和26）	帰り路（樵婦帰路）	1913（大正2）	キャンヴァス、油彩	122.0×115.0
69 曾宮一念	1893－1994（明治26－平成6）	梨畑道	1924（大正13）	キャンヴァス、油彩	59.0×71.5
70 宮本三郎	明治38－昭和49年（1905－1974）	農婦	1941（昭和16）頃	キャンヴァス、油彩	52.0 x 45.0
71 平賀亀祐	1889－1971（明治22－昭和46）	風景（プロマー・ドワルス）●	1955－65（昭和30－40）頃	キャンヴァス、油彩	38.2×55.0
72 小林和作	1888－1974（明治21－昭和49）	梨畑	1965－75（昭和40年代）頃	キャンヴァス、油彩	32.8×60
73 栗原忠二	1886－1936（明治19－昭和11）	静物		キャンヴァス、油彩	65.1×80.5
74 高畠達四郎	1895－1976（明治28－昭和51）	イカ●		紙、鉛筆	23.0×33.8

No. 作者名	生没年	作品名	制作年（元号）	材質	寸法（cm）
					平面：タテ×ヨコ 立体：高さ×ヨコ×奥行
75 小出樫重	1887－1931（明治20－昭和6）	静物	1917（大正6）	キャンヴァス、油彩	78.4×90.8
76 小林猶治郎	1897－1990（明治30－平成2）	一獻淡味	1930（昭和5）	キャンヴァス、油彩	91.0×106.0
77 曾宮一念	1893－1994（明治26－平成6）	種子静物	1934（昭和9）	キャンヴァス、油彩	60.6×72.7
78 山口源	1896－1976（明治29－昭和51）	果実○	1947（昭和22）	紙、多色木版	22.0×28.8
79 山口源	1896－1976（明治29－昭和51）	ざくろ●	1943（昭和18）	紙、多色木版	33.0×45.0
80 原勝郎	1889－1966	静物（洋梨と壺）	1950（昭和25）頃	キャンヴァス、油彩	44.8×52.8
81 杉山寧	1909－1993（明治42－平成5）	ペルシャ三彩皿・蜜柑○		紙本着色	49.7×32.8
82 香月泰男	1911－1974（明治44－昭和49）	牡蠣とナイフ	1951（昭和26）	キャンヴァス、油彩	21.0×27.0
83 香月泰男	1911－1974（明治44－昭和49）	茶の実	1960－1973（昭和40－48）頃	キャンヴァス、油彩	27.5×21.2
84 安井曾太郎	1888－1955（明治21－昭和30）	鯛●	1953（昭和28）頃	紙、鉛筆、水彩	28.3×36.7
85 青木達弥	1917－1981（大正6－昭和56）	洋梨子	1979（昭和54）	キャンヴァス、油彩	45.5×37.9
86 森村泰昌	1951（昭和26）－	『批評とその愛人（1）～（7）』より	1989（平成元）	カラー写真、額縁	各90.0×106.0

糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。

7月25日（火）～9月18日（月・祝）

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
第1章 刺繍と民俗衣装						
1-1		カロタセグ地方ハンガリー人ブラウス	20世紀初頭	ルーマニア、カロタセグ地方	木綿布、ウール糸、木綿糸、刺繍（スモッキング刺繍、イーラーショシュ、編みクロスステッチ、サテンステッチ、リブドスパイダーウェブステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-2		カロタセグ地方ハンガリー人エプロン	21世紀初頭	ルーマニア、カロタセグ地方	木綿布、ウール糸、刺繍（スモッキング刺繍、チェーンステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-3		カロタセグ地方ハンガリー人エプロン	20世紀半ば	ルーマニア、カロタセグ地方	ウール布、ウール糸、ガラス製ビーズ（一部、木綿製）、リボン、刺繍（スモッキング刺繍、ビーズ刺繍、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-4		カロタセグ地方ハンガリー人木綿スカート「ムスイ（バガディア）」	20世紀初頭	ルーマニア、カロタセグ地方	木綿布、ウール布、ウール糸、刺繍（スモッキング刺繍、サテンステッチ、チェーンステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-5		カロタセグ地方ハンガリー人ベスト	20世紀半ば頃	ルーマニア、カロタセグ地方	木綿布（表）、手織り麻布（裏）、ガラスビーズ、刺繍（ビーズ刺繍）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-6		カロタセグ地方ハンガリー人ベスト	20世紀後半	ルーマニア、カロタセグ地方	手織り麻布、木綿糸、刺繍（イーラーショシュ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-7		カロタセグ地方ハンガリー人スカーフ	20世紀半ば	ルーマニア、カロタセグ地方	ウール布、木綿糸、刺繍（サテンステッチ、チェーンステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-8		カロタセグ地方ハンガリー人ボンネット	20世紀半ば	ルーマニア、カロタセグ地方	木綿布、木綿糸、フィレレース	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-9		カロタセグ地方ハンガリー人ボンネット	20世紀初頭	ルーマニア、カロタセグ地方	木綿布、ウール糸、木綿糸、フィレレース	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-10		カロタセグ地方ハンガリー人カーディガン	20世紀後半	ルーマニア、カロタセグ地方	手編みウール布、木綿糸、刺繍（コーチング、ステッチ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-11		カロタセグ地方ハンガリー人ベスト	20世紀初頭	ルーマニア、カロタセグ地方	羊革、ウール糸、プラスチックビーズ、刺繍（サテンステッチ、コーチングステッチ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-12		大平原地方ビハル県ルーマニア人ベスト	20世紀初頭	ルーマニア、大平原地方ビハル県	羊革、ウール糸、刺繍（サテンステッチ、アウトラインステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-13		大平原地方ビハル県ルーマニア人ベスト	20世紀初頭	ルーマニア、大平原地方ビハル県	羊革、木綿糸、絹糸（一部、革製）、刺繍（サテンステッチ、コーチングステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-14		シビウ地方ザクセン人ベスト	1936年	ルーマニア、シビウ地方	ウール布（表）、木綿布（裏）、木綿糸、金糸、刺繍（サテンステッチ、アウトラインステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-15		シビウ地方ザクセン人ブラウス	20世紀初頭	ルーマニア、シビウ地方	木綿布、ヘンブ布、木綿糸、刺繍（スモッキング刺繍、クロスステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-16		大平原地方ルーマニア人ブラウス	20世紀半ば	ルーマニア、大平原地方	手織りヘンブ布、麻布、木綿糸（一部、ビーズ）、刺繍（カットワーク刺繍、クロスステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-17		カロタセグ地方モーツ地域ルーマニア人ブラウス	20世紀半ば	ルーマニア、カロタセグ地方モーツ地域	手織り麻布、絹糸（一部、スパンコール）、刺繍（バリオンステッチ、ドロンワーク、サテンステッチ、リブドスパイダーウェブステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-18		カロタセグ地方モーツ地域ルーマニア人ブラウス	20世紀初頭	ルーマニア、カロタセグ地方モーツ地域	手織り麻布、木綿糸、刺繍（スモッキング刺繍、イーラーショシュ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-19		シビウ地方ルーマニア人ボンネット	20世紀半ば	ルーマニア、シビウ地方	木綿地、木綿糸、刺繍（フィレレース、かき編みレース）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-20		大平原地方ルーマニア人スカート	20世紀半ば	ルーマニア、大平原地方	手織り麻布、木綿糸（一部、ビーズ）、刺繍（サテンステッチ、カットワーク、クロスステッチ、他）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-21	ヴィンチェ・クル シャール・アヌス	カロタセグ地方ハンガリー人麻製タペストリー	1944年	ルーマニア、カロタセグ地方	麻布、木綿糸、刺繍（イーラーショシュ、アウトラインステッチ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-22		カロタセグ地方ハンガリー人木綿製タペストリー	20世紀半ば	ルーマニア、カロタセグ地方	手織り麻布、木綿糸、刺繍（イーラーショシュ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-23		カロタセグ地方ハンガリー人木綿製婚礼用ロングクロス「グーフェーイケンドゥ」	19世紀後半頃	ルーマニア、カロタセグ地方	木綿布、手織り麻布（刺繍部分）、ウール糸、刺繍（イーラーショシュ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント

No. 作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
1-24	カロタセグ地方ハンガリー人木綿製ベッドカバー	20世紀初頭	ルーマニア、カロタセグ地方	手織り木綿布、木綿糸、刺繍（ハータンガー刺繍、フィレレース）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-25	カロタセグ地方ハンガリー人木綿製婚礼用ロングクロス「ヴーフェーイケンドゥ」	19世紀末～20世紀初頭	ルーマニア、カロタセグ地方	木綿布、手織りヘンプ布、ウール糸、刺繍（ドロンワーク、ロングアームドクロスステッチ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-26	カロタセグ地方ハンガリー人麻製テーブルクロス	20世紀半ば	ルーマニア、カロタセグ地方	手織り麻布、木綿糸、刺繍（イーラーショシュ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-27	ザクセン人麻製枕カバー	19世紀後半	ルーマニア、ビストリツァ地方	手織り麻布、木綿糸、刺繍（ロングアームドクロスステッチ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-28	ザクセン人木綿製枕カバー	1911年	ルーマニア、トランシルヴァニア	木綿布、木綿糸、刺繍（クロスステッチ）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-29	トランシルヴァニア、コヴァスナ県ハンガリー人麻製枕カバー	20世紀初頭	ルーマニア、トランシルヴァニア、コヴァスナ県	手織り麻布、木綿布、木綿糸、刺繍（編みクロスステッチ、ドロンワーク）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-30	クンピア・トランシルヴァニエイ地方ルーマニア人ウール製ベッドカバー	20世紀初頭	ルーマニア、クンピア・トランシルヴァニエイ地方	手織りウール布、ウール糸、刺繍（ロングアームドクロスステッチ、ビーズ刺繍）	谷崎聖子、シェレジュ・バーリント
1-31	クロスステッチパターン集		スロヴァキア	クロスステッチの61パターンを集めた長い帯状の布。	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-32	パフスリーブ・ブラウス	1880年	スロヴァキア（中部バンスカー・ビストリツァ地域）、デトヴァ	手織り木綿帆布、木綿糸、刺繍、レース	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-33	パフスリーブ・ブラウス	1880年	スロヴァキア（中西部ニトラ地域）、ソルチャニ	手織り布、木綿糸、刺繍（カウントステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-34	パフスリーブ・ブラウス	1880年	スロヴァキア（北西部トレンチン地域）、リバン	手織り麻布、木綿糸、刺繍、レース	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-35	パフスリーブ・ブラウス	1900年	スロヴァキア（中部バンスカー・ビストリツァ地域）、デトヴァ	木綿布、木綿糸、刺繍（かぎ針編み、クロスステッチ）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-36	パフスリーブ・ブラウス	20世紀初頭	スロヴァキア（北西部トレンチン地域）、ズリエホフ	工場製帆布、木綿糸、かぎ針編みレース、ボビンレース、刺繍	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-37	パフスリーブ・ブラウス	1910年	スロヴァキア（北西部トレンチン地域）、メステチュコ	工場製帆布、木綿糸、ムリンカ、マザーオブパール、刺繍（ステムステッチ、フィルステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-38	パフスリーブ・ブラウス	1910年	スロヴァキア（中部バンスカー・ビストリツァ地域）、デトヴァ	手織り木綿布、木綿糸、刺繍（タンブルフック、フルステッチ、カットアウト、スムージング、クロスステッチ）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-39	パフスリーブ・ブラウス	1920年	スロヴァキア（東部コシツェ地域）、コシツカー・ベラー	工場製帆布、木綿糸、レース、刺繍	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-40	パフスリーブ・ブラウス	1930年	スロヴァキア（北部ジリナ地域）、ファチュコフ	手織り木綿布、木綿糸、マザーオブパール、刺繍（カウントステッチ）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-41	パフスリーブ・ブラウス	1930年	スロヴァキア（中部バンスカー・ビストリツァ地域）、レシュチ	工場製木綿布、木綿糸、刺繍（クロスステッチ、バックステッチ）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-42	パフスリーブ・ブラウス	1930年	スロヴァキア（西部トルナヴァ地域）、ビエシュチャニ	工場製木綿帆布、リボン、スパンコール、ボビンレース、木綿糸、刺繍（ドロンワーク）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-43	女性用上着	1900年	スロヴァキア（コシツェ近郊）、コシツェ・ミスラヴァ	工場製布、フランネル（裏地）、ウール、ウール糸、ガラス付き金属製ボタン、金属製フック、刺繍（チェーンステッチ、フィルステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-44	女性用上着	1880年	スロヴァキア東部	工場製ウール布、絹リボン、帆布、ウール糸、刺繍（チェーンステッチ、フィルステッチ）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-45	ベスト	1900年	スロヴァキア（西部トルナヴァ地域セニカ地区）、チャタイ	工場製ウール布、ヘンプ布（裏地）、絹糸、リボン、刺繍（チェーンステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
1-46		カパニカ（男性用コート）	1900年	スロヴァキア（中部ニトラ地域）、ソルチャニ	工場製フェルト・ウールツィル布、ウール糸、刺繍（フィルステッチ、ステムステッチ、チェーンステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-47		男性用シャツ	1920年	スロヴァキア（中部バンスカー・ビストリツァ地域）、ドブラー・ニヴァ	手織り木綿布、木綿糸、ガラスビーズ、金属製スナップボタン、刺繍（クロスステッチ）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-48		エプロン	1910年	スロヴァキア（西部トレンチン地域）、オムシェニエ	木綿帆布、ウール布、木綿糸、刺繍（フィルステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-49		エプロン	1920年	スロヴァキア（東部コシツェ地域）、ニーシュニー・クラートフ	手織り木綿帆布、リボン、刺繍（カウントステッチ、チェーンステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-50		エプロン	1920年	スロヴァキア（北西部トレンチン地域）、ズリエホフ	木綿布、工場製布、パールビーズ、ボビンレース、木綿糸、刺繍（ハーダンガー刺繍、カッティングステッチ、フィルステッチ、ステムステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-51		エプロン	1930年	スロヴァキア（東部コシツェ地域）、コシツカー・ペラー	木綿帆布、木綿糸、刺繍（クロスステッチ、一部、機械刺繍）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-52		エプロン	1930年	スロヴァキア（西部トレンチン地域）、ボジャーツァ	絹布、絹リボン、刺繍（フィルステッチ、ステムステッチ、ストリングステッチ、ループステッチ、機械刺繍、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-53		エプロン	1930年	スロヴァキア（西部トルナヴァ地域）、トルナヴァ	サテン布、金属糸、刺繍、アップリケ、ボビンレース、リボン	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-54		エプロン	1940年	スロヴァキア（西部トルナヴァ地域セニカ地区）、チャタイ	帆布、リボン、レーヨン糸、刺繍（フィルステッチ）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-55		エプロン		スロヴァキア	工場製帆布、麻布、木綿糸、ヘンプ糸、ボビンレース、刺繍	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-56		帽子	1920年	スロヴァキア北部（北部ジリナ地域）、ファチュコフ	手績み麻布、木綿糸、刺繍	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-57		帽子		スロヴァキア	木綿布、木綿糸、レース、刺繍（マデイラ刺繍）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-58		帽子		スロヴァキア（西部トルナヴァ地域）、トルナヴァ	木綿布、木綿糸、金属糸、フィレレース、刺繍（マデイラ刺繍）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-59		帽子	1920年	スロヴァキア（北西部トレンチン地域）、モラフスケー・リエスコヴェー	木綿帆布、木綿糸、金属糸、刺繍	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-60		リボン付きボウタイ	1930年	スロヴァキア（西部トルナヴァ地域）、トルナヴァ	レーヨン・タフタリボン、金属糸、厚紙、刺繍	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-61		刺繍枕カバー		スロヴァキア（西部トルナヴァ地域）、トルナヴァ	ヘンプ布、木綿糸、刺繍（クロスステッチ、ブレードステッチ）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-62		刺繍敷布		スロヴァキア（西部トルナヴァ地域セニカ地区）、ヤブロニツァ	木綿布、チュール、刺繍（ドロンワーク）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-63		円形刺繍		スロヴァキア（西部トルナヴァ地域）、ドヴォルニーキ	タフタ布、金属糸、木綿糸、刺繍（チェーンステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-64		フィレレース			麻布、麻糸、刺繍（フィレレース、ループステッチ、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-65		装飾タオル	1920年頃	スロヴァキア（西部トルナヴァ地域）、ラドショフツェ	手績みヘンプ布、木綿糸、刺繍（カットアウト、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター
1-66		祭礼用布	1930年	スロヴァキア（東部コシツェ地域）、コシツカー・ペラー	木綿布、木綿糸、刺繍	スロヴァキア民俗芸術制作センター
1-67		敷布用インサージョン	1910年頃	スロヴァキア（北部ジリナ地域）、チツマニ	手績み麻布、麻糸、絹糸、刺繍（カットアウト、他）	スロヴァキア民族芸術制作センター

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
1-68	マーリア・アンタ ロヴァー（刺繍） / マグダレーナ・ クライチョヴァー （図案）	刺繍クロス	1968年	スロヴァキア（西 部トルナヴァ地域）、 ショポルニャ	ヘンプ布、木綿糸、刺繍	スロヴァキア民族 芸術制作センター
1-69	マルギタ・エルニ ホルドヴァー（刺 繍）/ アントー ニア・ハルトコヴァー （図案）	刺繍クロス	1970年	スロヴァキア（中 部バンスカー・ビ ストリツァ地域）、 ボロムカ・ホレフ ロニエ	木綿布、木綿糸、刺繍	スロヴァキア民族 芸術制作センター
1-70		刺繍クロス	1970年 頃	スロヴァキア（中 部バンスカー・ビ ストリツァ地域）、 ボロムカ・ホレフ ロニエ	麻布、マザーオブパール、木綿糸、刺 繍（カットステッチ、クロスステッチ、 他）	スロヴァキア民族 芸術制作センター
1-71	ユーリア・アダム ツォヴァー	刺繍クロス	1972年	スロヴァキア（中 部バンスカー・ビ ストリツァ地域）、 デトヴァ	木綿布、チュール、絹糸、刺繍（タン ブールフック、他）	スロヴァキア民族 芸術制作センター
1-72	アンナ・ベシーノ ヴァー（刺繍）/ オティéria・コ ベツカー（図案）	刺繍クロス	1979年	スロヴァキア（西 部トルナヴァ地域 セニカ地区）、チャ タイ	麻布、木綿糸、刺繍（フルフラットス テッチ、ステムステッチ）	スロヴァキア民族 芸術制作センター
1-73	H・ヴラーブリコ ヴァー（刺繍）/ オティéria・コ ベツカー（図案）	刺繍クロス	1979年	スロヴァキア（西 部トルナヴァ地域 セニカ地区）	帆布、木綿糸、刺繍（ステムステッチ、 他）	スロヴァキア民族 芸術制作センター
1-74	テレジア・トー トヴァー（刺繍） / オティéria・ コベツカー（図案）	刺繍カーテン	1980年	スロヴァキア（西 部トルナヴァ地域 セニカ地区）、ヤブ ロニツァ	帆布、木綿糸、刺繍（フィリング、サ テンステッチ）	スロヴァキア民族 芸術制作センター
1-75		刺繍絵〈四季〉	1977年	スロヴァキア（西 部トルナヴァ地域）、 ショポルニャ	絹布、木綿糸、刺繍	スロヴァキア民族 芸術制作センター
1-76	スロヴァキア民俗 芸術制作センター	スロヴァキア各地方の民 族衣装の人形（51体）	2009年	スロヴァキア、ブ ラチスラヴァ	木綿布、ウール布、麻布、リボン、レー ス、ボタン、刺繍	イデッフ
第2章 イヌイットの壁掛け						
2-1	ノーミー・イコー ミアク	布製壁掛け〈北極の幼年 時代〉		カナダ、オンタリ オ州オタワ	木綿布、木綿糸、アププリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-2	アイリーン・アヴァー ラーキアク・ティ クタラク	ダッフル製壁掛け〈オレン ジ色の大きな壁かけ〉	1992年	カナダ、ヌナブト準 州カルマニトゥアッ ク（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アプ プリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-3	アイリーン・アヴァー ラーキアク・ティ クタラク	ダッフル製壁掛け〈力の 精たち〉		カナダ、ヌナブト準 州カルマニトゥアッ ク（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アプ プリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-4	アイリーン・アヴァー ラーキアク・ティ クタラク	ダッフル製壁掛け〈人と 動物の顔に囲まれた精〉		カナダ、ヌナブト準 州カルマニトゥアッ ク（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、アププリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-5	アイリーン・アヴァー ラーキアク・ティ クタラク	ダッフル製壁掛け〈赤い ダッフルの上の三つの精〉	1989年	カナダ、ヌナブト準 州カルマニトゥアッ ク（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アプ プリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-6	ヴィクトリア・マ ングクスアルク・ カユルユク	ダッフル製壁掛け〈三匹 の北極フクロウ〉	1984年	カナダ、ヌナブト準 州カルマニトゥアッ ク（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、アププリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-7	メイ・ケナリク	ダッフル製壁掛け〈大き な角をもつカリブー〉	1991年	カナダ、ヌナブト 準州コバーマイン	ウール布、木綿糸、アププリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-8	ティクタラク	ダッフル製壁掛け〈赤ちゃ んおんぶ〉	1979年	カナダ、ヌナブト準 州カルマニトゥアッ ク（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アプ プリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-9	パウリナ・ウルル クシク・コリト	ダッフル製壁掛け〈ぼくの パーカはいつ出来るの〉		カナダ、ヌナブト 準州ランキン・イ ンレット	ウール布、木綿糸、ウール糸、アプ プリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-10	ヘレン・コネク	ダッフル製壁掛け〈パーカ の内幕〉		カナダ、ヌナブト準 州アルビート（エス キモーポイント）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アプ プリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-11	マーサ・ヒキニク	ダッフル製壁掛け〈一族 の顔〉		カナダ、ヌナブト 準州ジョアヘブン	ウール布、木綿糸、ウール糸、アプ プリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
2-12	オリーブ・ママク・インナカトシク	ダッフル製壁掛け〈刺し方いろいろ〉	1979年	カナダ、ヌナブト準州カルマニトゥアック（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-13	マーサ	ダッフル製壁掛け〈アザラシを獲って水の家に帰る〉		カナダ、ヌナブト準州バングナータング	ウール布、ウール糸、革、刺繍、動物の腱の吊りひも付き	北海道立北方民族博物館
2-14	ウニウクシャガク	ダッフル製壁掛け〈今から狩りに出かける〉		カナダ、ヌナブト準州バングナータング	ウール布、木綿糸、革、刺繍、動物の腱の吊りひも付き	北海道立北方民族博物館
2-15		ダッフル製壁掛け〈グレートハンター〉		カナダ	ウール布、木綿糸、革、刺繍、動物の腱の吊りひも付き	北海道立北方民族博物館
2-16		ダッフル製壁掛け〈三匹のアザラシとカヤック〉		カナダ	ウール布、木綿糸、ウール糸、革、刺繍、動物の腱の吊りひも付き	北海道立北方民族博物館
2-17		ダッフル製壁掛け〈ムチを振るハンターと犬〉		カナダ	ウール布、木綿糸、革、刺繍、動物の腱の吊りひも付き	北海道立北方民族博物館
2-18		ダッフル製壁掛け〈夏のテント〉		カナダ、ヌナブト準州カルマニトゥアック（ペーカーレイク）	ウール地、木綿糸、革、刺繍、動物の腱の吊りひも付き	北海道立北方民族博物館
2-19	マーガレット・ギボンズ	ダッフル製壁掛け〈逆立ち〉		カナダ、ヌナブト準州アルビート（エスキモーポイント）	ウール布、ウール糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-20	アニー・クラブク	ダッフル製壁掛け〈ドラムダンサー〉		カナダ、ヌナブト準州カルマニトゥアック（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-21		ダッフル製壁掛け〈ウサギを追いかけるワシ〉		カナダ	ウール布、木綿糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-22		ダッフル製壁掛け〈流水山〉		カナダ	ウール布、木綿糸、革、刺繍、動物の腱の吊りひも付き	北海道立北方民族博物館
2-23		ダッフル製壁掛け〈無題〉		カナダ、ヌナブト準州バングナータング	ウール布、木綿糸、ウール糸、革、刺繍、トナカイの角の軸端、動物の腱の吊りひも付き	北海道立北方民族博物館
2-24	マーサ・コグヴィク	ダッフル製壁掛け〈春の兆し〉	1992年	カナダ、ヌナブト準州	ウール布、木綿糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-25	アリス・サキトナク・アカマック	ダッフル製壁掛け〈アイスフィッシング〉		カナダ、ヌナブト準州アルビート（エスキモーポイント）	ウール布、木綿糸、ウール糸、トナカイの革、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-26	マーサ・アプサク	ダッフル製壁掛け〈太ったおおかみ〉	1979年	カナダ、ヌナブト準州カルマニトゥアック（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-27	N. ブルキグナク（?）	ダッフル製壁掛け〈水くみに〉		カナダ、ヌナブト準州カルマニトゥアック（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-28	M.キルラーク	ダッフル製壁掛け〈ペーカーレイクのワッペン〉		カナダ、ヌナブト準州カルマニトゥアック（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-29	R. クエアティ	ダッフル製壁掛け〈イヌイットのまあるい世界〉		カナダ、ヌナブト準州ランキン・インレット	ウール布、木綿糸、ウール糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-30	サラ・イヌクプク	ダッフル製壁掛け〈変身する人と動物〉		カナダ	ウール布、木綿糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-31	サラ・イヌクプク	ダッフル製壁掛け〈お魚の話をするイヌイット〉		カナダ、ヌナブト準州カルマニトゥアック（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-32	サラ・イヌクプク	ダッフル製壁掛け〈たのしい氷の家〉		カナダ、ヌナブト準州カルマニトゥアック（ペーカーレイク）	ウール布、木綿糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-33		ダッフル製壁掛け〈夏の生活、冬の生活〉		カナダ	ウール布、木綿糸、ウール糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-34	メイ・ケナリク	ダッフル製壁掛け〈犬ざりと大きな水の家〉	1981年	カナダ、ヌナブト準州クグルクトゥク（コバーマイン）	ウール布、木綿糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-35	ミナ・キングリク	ダッフル製壁掛け〈三つの犬ざりが行く〉		カナダ、ケベック州イヌクジュアック（ポートハリソン）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館
2-36	マーサ・マクパ・カウナク	ダッフル製壁掛け〈犬ざりをけたてて行く狩りの旅〉		カナダ、ヌナブト準州アークティック・ベイ	ウール布、木綿糸、ウール糸、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族博物館

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
2-37	アリス・サキトナ ク・アカマック	ダッフル製壁掛け〈ハンティ ング〉	1989年	カナダ、ヌナブト準 州アルビート（エス キモーポイント）	ウール布、木綿糸、ウール糸、アッ プリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-38	アリス・サキトナ ク・アカマック	ダッフル製壁掛け〈あざら し狩り〉		カナダ、ヌナブト準 州アルビート（エス キモーポイント）	ウール布、木綿糸、ウール糸、トナカ イの革、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-39		ダッフル製壁掛け〈ハンター と獲物〉		カナダ	ウール布、木綿糸、ウール糸、トナカ イの革、アップリケ、刺繍	北海道立北方民族 博物館
2-40 *		人形		カナダ、バフィン 島イカルイット	木、木綿糸、ウール糸、アザラシの毛 皮、革	北海道立北方民族 博物館
2-41 *		人形		カナダ、バフィン 島イカルイット	木、ウール布、ウール糸、木綿糸、ア ザラシの毛皮、革、ビーズ	北海道立北方民族 博物館

第3章 刺繍と絵

3-1	武井武雄	『武井武雄手藝図案集』	1928年	萬里閣書房、東京	書籍	個人蔵
3-2	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿布、DMC糸、刺繍（ダブルラン ニングステッチ、アウトラインステッチ、ク ロスステッチ、ストレートステッチ、ヘリ ンボーンステッチ、サテンステッチ、フレ ンチナッツステッチ）	イルフ童画館
3-3	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿布、DMC糸、刺繍（ダブルラン ニングステッチ、チェーンステッチ、クロス ステッチ、ストレートステッチ、ヘリンボ ーンステッチ、サテンステッチ、フレンチ ナッツステッチ）	イルフ童画館
3-4	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿布、DMC糸、刺繍（ダブルラン ニングステッチ、アウトラインステッチ、ク ロスステッチ変形、ストレートステッチ、 サテンステッチ）	イルフ童画館
3-5	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿、DMC糸、ダブルランニングステ ッチ、アウトラインステッチ、ストレート ステッチ、サテンステッチ、フレンチナ ッツステッチ	イルフ童画館
3-6	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿布、DMC糸、刺繍（ダブルラン ニングステッチ、アウトラインステッチ、ス トレートステッチ、クローズドヘリンボ ーンステッチ、サテンステッチ）	イルフ童画館
3-7	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿布、DMC糸、刺繍（ダブルラン ニングステッチ、アウトラインステッチ、ス トレートステッチ、サテンステッチ、フレ ンチナッツステッチ）	イルフ童画館
3-96 *	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿布、DMC糸、刺繍（ダブルラン ニングステッチ、アウトラインステッチ、ス トレートステッチ、サテンステッチ、スミ ルナステッチ、レイズドボタンホール ステッチ）	イルフ童画館
3-97 *	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿布、DMC糸、刺繍（ダブルラン ニングステッチ、アウトラインステッチ、ス トレートステッチ、サテンステッチ、クロ スステッチ、フレンチナッツステッチ）	イルフ童画館
3-98 *	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿布、DMC糸、刺繍（ダブルラン ニングステッチ、アウトラインステッチ、ス トレートステッチ、ヘリンボーンステッチ 、フライステッチ、チェーンステッチ）	イルフ童画館
3-99 *	大塚あや子（刺 繍）／武井武雄 （図案）	『武井武雄手藝図案集』 の刺繍	2016年	東京	木綿布、DMC糸、刺繍（ダブルラン ニングステッチ、アウトラインステッチ、ス トレートステッチ、サテンステッチ、ブラ ンケットステッチ、クロスステッチ）	イルフ童画館
3-8	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	柵の前の少年	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	キャンバス、木綿糸、刺繍	個人蔵
3-9	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	通りの車	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	キャンバス、木綿糸、刺繍	個人蔵

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
3-10	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	観客	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	キャンバス、木綿糸、刺繍	個人蔵
3-11	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	小さな教会	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	キャンバス、木綿糸、刺繍	個人蔵
3-12	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	船を漕ぐ	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	キャンバス、ウール糸、刺繍	個人蔵
3-13	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	城	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	キャンバス、ウール糸、刺繍	個人蔵
3-14	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	サクソフォンを吹く月	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	布、木綿糸、刺繍	個人蔵
3-15	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	小さな礼拝堂	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	キャンバス、木綿糸、刺繍	個人蔵
3-16	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	20世紀	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	キャンバス、木綿糸、刺繍	個人蔵
3-17	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	ロジア（屋根付きの柱 廊）	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	木綿クロス、木綿糸、刺繍	個人蔵
3-18	エヴァ・ブラーズ ドヴァー（刺繍） ／パヴェル・ブラ ズダ（原案）	ソクラテス 469 -399 良 い人は人生でもあの世でも 悪いことは起こり得ない	1957- 1958年	チェコ、ブルノ近 郊	ジュート、ウール糸、刺繍	個人蔵
3-19	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『コーヒーの泡から生まれ たこねこ』絵本原画	2007年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、刺繍	作家蔵
3-20	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『コーヒーの泡から生まれ たこねこ』絵本原画	2007年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、刺繍	作家蔵
3-21	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『コーヒーの泡から生まれ たこねこ』絵本原画	2007年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、刺繍	作家蔵
3-22	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『コーヒーの泡から生まれ たこねこ』絵本原画	2007年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、刺繍	作家蔵
3-23	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『コーヒーの泡から生まれ たこねこ』絵本原画	2007年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、刺繍	作家蔵
3-24	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『コーヒーの泡から生まれ たこねこ』絵本原画	2007年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、刺繍	作家蔵
3-25	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『コーヒーの泡から生まれ たこねこ』絵本原画	2007年	チェコ、ターボル 近郊	布、キッチンペーパー、木綿糸、刺繍	作家蔵
3-26	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『家から、庭から』絵本 原画	2011年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、刺繍	作家蔵
3-27	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『家から、庭から』絵本 原画	2011年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、刺繍	作家蔵
3-28	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『フリドリナとアントニー ナと小さなミナ』絵本原画	2019年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、ウール糸、刺繍	作家蔵
3-29	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『フリドリナとアントニー ナと小さなミナ』絵本原画	2019年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、ウール糸、刺繍	作家蔵
3-30	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『フリドリナとアントニー ナと小さなミナ』絵本原画	2019年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、ウール糸、刺繍	作家蔵
3-31	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『フリドリナとアントニー ナと小さなミナ』絵本原画	2019年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、ウール糸、刺繍	作家蔵
3-32	エヴァ・ヴォルフ ヴァー	『フリドリナとアントニー ナと小さなミナ』絵本原画	2019年	チェコ、ターボル 近郊	布、木綿糸、ウール糸、刺繍	作家蔵

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
資料	エヴァ・ヴォルフ ヴァー（絵）/テ レザ・ホルヴァー トヴァー（文）	『コーヒーの泡から生まれ たこねこ』	2007年	バオバブ、チェコ、 ブラハ	絵本	イデッフ
資料	エヴァ・ヴォルフ ヴァー（絵）/オル ガ・チェルナー （文）	『家から、庭から』	2011年	バオバブ、チェコ、 ブラハ	絵本	イデッフ
資料	エヴァ・ヴォルフ ヴァー（絵）/テ レザ・ホルヴァー トヴァー（文）	『フリドリーナとアントニー ナと小さなミナ』	2019年	バオバブ、チェコ、 ブラハ	絵本	イデッフ
3-33	ホジェル・メロ	『危機一髪のジョン（糸 の中のジョン）』絵本原画	2006年	ブラジル、ブラジ リア	ゼロックス印刷、アクリルインク、紙	作家蔵
3-34	ホジェル・メロ	『危機一髪のジョン（糸 の中のジョン）』絵本原画	2006年	ブラジル、ブラジ リア	ゼロックス印刷、アクリルインク、紙	作家蔵
3-35	ホジェル・メロ	『危機一髪のジョン（糸 の中のジョン）』絵本原画	2006年	ブラジル、ブラジ リア	ゼロックス印刷、鉛筆、紙	作家蔵
3-36	ホジェル・メロ	『危機一髪のジョン（糸 の中のジョン）』絵本原画	2006年	ブラジル、ブラジ リア	ゼロックス印刷、紙	作家蔵
3-37	ホジェル・メロ	『危機一髪のジョン（糸 の中のジョン）』絵本原画	2006年	ブラジル、ブラジ リア	ゼロックス印刷、アクリルインク、紙	作家蔵
3-38	ホジェル・メロ	『危機一髪のジョン（糸 の中のジョン）』絵本原画	2006年	ブラジル、ブラジ リア	ゼロックス印刷、アクリルインク、紙	作家蔵
3-39	ホジェル・メロ	アンデルセン童話集より 『亜麻の花』絵本原画	2019年	ブラジル、ブラジ リア	鉛筆、インク、紙	作家蔵
3-40	ホジェル・メロ	アンデルセン童話集より 『亜麻の花』絵本原画	2019年	ブラジル、ブラジ リア	鉛筆、インク、紙	作家蔵
資料	ホジェル・メロ （絵・文）	『危機一髪のジョン（糸 の中のジョン）』	2009年	メモ、ブラジル、 サン・パウロ	絵本	イデッフ
3-40	樹田紅陽	Four Cubes	1981年	京都	羽二重地、絹糸、刺繍（組繍、駒繍）	個人蔵
3-41	樹田紅陽	Six Cubes	1981年	京都	羽二重地、絹糸、刺繍（組繍、駒繍）	作家蔵
3-42	樹田紅陽	Nine Cubes	1988年	京都	羽二重地、絹糸、刺繍（組繍、駒繍）	個人蔵
3-43	樹田紅陽	飾箱《燦燦》	2000年	京都	絹糸、刺繍（組繍）、金蒔絵	作家蔵
3-44	樹田紅陽	飾箱《碧光》	2000年	京都	絹糸、刺繍（組繍）、金蒔絵	作家蔵
3-45	樹田紅陽	風炉先屏風《慈光》	2019年	京都	紗地、絹糸、刺繍（竹屋町繍）、黒漆 金砂子箔裏張	作家蔵
3-46	樹田紅陽	几帳野筋藤花文(京都迎 賓館几帳・資料)	2005年	京都	平絹地、絹糸、刺繍（刺し繍、菅繍、 駒繍）、羅	作家蔵
3-47	樹田紅陽	黒振袖〈煌めく〉	2004年	京都	紋意匠縮緬地、絹糸、刺繍（組繍、 菅繍、駒繍）	個人蔵
3-48	樹田紅陽	九寸帯《流水文》	2018年	京都	塩瀬地、絹糸、刺繍（駒繍、纏繍）	個人蔵
3-49	樹田紅陽	祇園祭船鉾二番水引・東 幕「岩に波図刺繍」試作	2012年	京都	白麻地、絹糸、刺繍（総繍、駒繍）	作家蔵
3-50	樹田紅陽	祇園祭船鉾天水引「鳳凰 図刺繍」試作1	2017年	京都	緋羅紗地、絹糸、刺繍（駒繍、刺し 繍、巻き立て繍、肉入れ繍）	作家蔵
3-51	樹田紅陽	祇園祭船鉾天水引「鳳凰 図刺繍」試作2	2017年	京都	絹糸、刺繍（駒繍、肉入れ繍）	作家蔵
3-52	樹田紅陽	祇園祭船鉾天水引刺繍糸		京都	絹糸	作家蔵
3-53	樹田紅陽	祇園祭船鉾櫓下水引「鳳 凰麒麟図刺繍」試作	2019年	京都	緋羅紗地、絹糸、刺繍（駒繍、刺し 繍、肉入れ繍）	作家蔵
3-54	樹田紅陽	刺繍見本	2021年	京都	緋羅紗地、絹糸、刺繍（駒繍、刺し 繍、巻き立て繍、肉入れ繍）	作家蔵
資料	樹田紅陽	祇園祭船鉾天水引「鳳凰 図刺繍」	2017年 (復元)	京都	緋羅紗地、絹糸、刺繍（駒繍、刺し 繍、巻き立て繍、肉入れ繍）	船鉾保存会
3-55	蝸牛あや	《bird》	2001年	東京	絹地、木綿糸	作家蔵

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
3-56	蝸牛あや	《雨の花》	2015年	東京	絹地、木綿糸、絹糸、ミシン糸、水彩 絵具	メグミオギタギャラリー蔵
3-57	蝸牛あや	《光の石》	2015年	東京	絹地、絹糸、染色、刺繍	作家蔵
3-58	蝸牛あや	《蝶》	2020年	東京	絹地、絹糸、刺繍	作家蔵
3-59	蝸牛あや	《蝶》	2020年	東京	絹地、絹糸、刺繍	個人蔵
3-60	蝸牛あや	《女Ⅱ》	2020年	東京	絹地、絹糸、刺繍	作家蔵
3-61	蝸牛あや	《星々》	2020年	東京	絹地、絹糸、刺繍	作家蔵
3-62	蝸牛あや	《星々Ⅱ》	2020年	東京	絹地、絹糸、刺繍	作家蔵
3-63	蝸牛あや	《青》	2020年	東京	絹地、絹糸、刺繍	作家蔵
3-64	蝸牛あや	『青』（映像）	2020年	東京	映像	作家蔵
3-65	蝸牛あや	《王国Ⅰ》	2019年	東京	絹地、絹糸、刺繍	個人蔵
3-66	小林モー子	ジュナウザー（ブローチ）	2018年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-67	小林モー子	柴犬（ブローチ）	2010年- 2011年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-68	小林モー子	プードル（ブローチ）	2010年- 2011年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-69	小林モー子	ビーグル（ブローチ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-70	小林モー子	ボストンテリア（ブローチ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-71	小林モー子	チワワ（ブローチ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-72	小林モー子	メルシー（ブローチ）	2013年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-73	小林モー子	ウィ（ブローチ）	2013年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-74	小林モー子	骨（ピン）	2017年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-75	小林モー子	アデリーペンギン（ブロー チ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-76	小林モー子	ヒゲペンギン（ブローチ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-77	小林モー子	ハネジロペンギン（ペンギ ンのブローチ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-78	小林モー子	エンペラーペンギンのヒナ （ブローチ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-79	小林モー子	エンペラーペンギン（ブロー チ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-80	小林モー子	マカロニペンギン（ブロー チ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵
3-81	小林モー子	マゼランペンギン（ブロー チ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガ ラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェ ルミセル）	作家蔵

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
3-82	小林モー子	喉がかわいた（ブローチ）	2020年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガラスビーズ、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-83	小林モー子	元気？（ブローチ）	2013年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガラスビーズ、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-84	小林モー子	音符（ピン）	2012年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガラスビーズ、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-85	小林モー子	連作『四季』より「夏」（国立西洋美術館アルチンボルド展ブローチ）	2017年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-86	小林モー子	連作『四季』より「秋」（国立西洋美術館アルチンボルド展ブローチ）	2017年	東京	ポリエステル生地、ポリエステル糸、ガラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-87	小林モー子	「苺の時間」（集英社『SPUR』誌2013年4月号掲載）	2013年 4月	東京	絹地、ポリエステル糸、木綿糸、ガラスビーズ、スパンコール、刺繍（シュネット、パッセプラ、ヴェルミセル、アップリケ）	作家蔵
3-88	小林モー子	「クリスマスを飾る」（銀座三越会員誌GINZA STYLE 2013年11月号掲載）	2013年 11月	東京	絹地、ポリエステル糸、ガラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-89	小林モー子	「season in」（銀座三越会員誌GINZA STYLE 2014年6月号掲載）	2014年 6月	東京	絹地、ポリエステル糸、ガラスビーズ、スパンコール、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-90	小林モー子	「DNA」（ISETAN GUIDE for STYLING 2013年9月号掲載）	2013年 9月	東京	麻地、ポリエステル糸、ガラスビーズ、スワロフスキー、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-91	小林モー子	「カルティエ」（集英社『SPUR』誌2014年1月号掲載）	2014年	東京	麻地、スエード、ポリエステル糸、ガラスビーズ、刺繍（ヴェルミセル、ブラージュ）	作家蔵
3-92	小林モー子	「ウィングチップシューズ」（『リーガルペーパー』2017年夏号Vol.16掲載）	2017年	東京	麻地、ポリエステル糸、ガラスビーズ、レザー、綿紐、刺繍（ヴェルミセル）	作家蔵
3-93	小林モー子	レッスンカリキュラム〈Niveau 1〉（刺繍見本）	2010年	東京	絹地、木綿糸、金糸、ラフィア、ガラスチューブ、モール糸、コード、スパンコール、刺繍（シュネット、パッセプラ、マントゥーズ）	作家蔵
3-94	小林モー子	レッスンカリキュラム〈Niveau 3〉（刺繍見本）	2011年	東京	絹地、木綿糸、ポリエステル糸、ガラスビーズ、スパンコール、スワロフスキー、レーヨンスターシュ、ラフィア、樹脂パール、刺繍（ヴェルミセル、オンヴァ・エ・ヴィアン、ボーズ・オン・ローレ、ブラージュ、ボワンチレ、マントゥーズ）	作家蔵
3-95	小林モー子	レッスンカリキュラム〈Niveau 7〉（刺繍見本）	2014年	東京	麻地、木綿糸、ポリエステル糸、絹糸、ガラスビーズ、スパンコール、モール糸、シルクリボン、銀糸、ガラスチューブビーズ、刺繍（ボワン・ド・グラン、ボワン・ド・ボスト、エカイユ、ムース、シュネット、ボワンチレ、ヴェルミセル、他）	作家蔵
資料	ブルノ・フォール（著）	『リユネビル技法の刺繍 オートクチュールの教本』	2007年	リネディット、フランス、パリ	書籍	イデッフ
資料	パトリック・モリエス（著）	『刺繍家ルサージュ』	2020年	テムズ&ハドソン、ロンドン、パリ	書籍	イデッフ
資料		クロッシュ・ド・リユネビル			オートクチュール刺繍用の針	小林モー子蔵
3-100	貝戸哲弥	『黒けだもの』刺繍衣装	2018年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-101	貝戸哲弥	『黒けだもの』刺繍衣装	2018年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-102	貝戸哲弥	『黒けだもの』刺繍トートバッグ	2019年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-103	貝戸哲弥	『黒けだもの』刺繍トートバッグ	2019年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-104	貝戸哲弥	『黒のけもの』原画「私はペンギンな訳ですし」	2021年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-105	貝戸哲弥	『黒のけもの』原画「頭にカップを乗せまして」	2021年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-106	貝戸哲弥	『黒のけもの』原画「のみものこぼれてきましたら」	2021年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵

No.	作者名	タイトル	制作年	制作地など	素材・技法	所蔵先
3-107	貝戸哲弥	『黒のけもの』原画「私は河童になりました」	2021年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-108	貝戸哲弥	『黒のけもの』原画「お皿が自慢な訳ですし」	2022年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-109	貝戸哲弥	『黒のけもの』原画「ソーサーに使える訳ですし」	2022年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-110	貝戸哲弥	『黒のけもの』原画「くちばし外してみましたら」	2022年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
3-111	貝戸哲弥	『黒のけもの』原画「帽子に使える訳ですし…」	2022年	千葉	手織り麻地、木綿糸、刺繍（イーラージョシュ）	作家蔵
参考 出品	貝戸哲弥	『黒のけもの』スケッチ	2021年	千葉	紙、インク	作家蔵
参考 出品	貝戸哲弥	『黒のけもの』スライドショー	2023年	千葉	映像	作家蔵

第4章 刺繍とファッション

4-1		男性用衣装部分（刺繍見本）	18世紀	フランス	絹布、絹オーガンジー、アップリケ、絹糸、刺繍	メゾン・ヴェルモン蔵
4-2		男性用刺繍マント〈オートマン〉	19世紀末	フランス	絹布、絹糸、飾り紐、金糸、刺繍（シュネット、ボワンドパニエ、オーバーカストステッチ、ブラージュ、他）	メゾン・ヴェルモン蔵
4-3		刺繍民俗衣装	20世紀初頭	ルーマニア	木綿帆布、ジュール・エシエル、スパンコール、レース、木綿糸、絹糸、刺繍（ブクレット、他）	メゾン・ヴェルモン蔵
4-4		フリンジ付き赤マント	20世紀初頭	フランス	絹布、木綿フリンジ、飾り紐、絹糸、刺繍（バセプラ、他）	メゾン・ヴェルモン蔵
4-5		刺繍イブニング・ドレス	1920年代	フランス、パリ	絹モスリン、絹糸、金糸、刺繍（シュネット、エカイユ、他）	メゾン・ヴェルモン蔵
4-6		イブニング・ドレス〈ジェーン・バーキン〉	1960年代	フランス、パリ	絹オーガンジー、ロドイド、スパンコール、絹糸、金属紐	メゾン・ヴェルモン蔵
4-7		刺繍ジャケット〈花づくし〉	1980年代	フランス、パリ	ウール布、ガラスビーズ、チューブビーズ、リボン、絹糸、刺繍（バッセプラ、ヴェルミセル、他）	メゾン・ヴェルモン蔵
4-8	メゾン・ヴェルモン	刺繍見本〈うさぎたち〉	1960年頃	フランス、パリ	フェルト、絹糸、金糸、刺繍（サテンステッチ、ブラージュ）	メゾン・ヴェルモン蔵
4-9	メゾン・ヴェルモン	刺繍見本〈ローズ・デ・ヴァン（風配図）〉	2004年12月	フランス、パリ	オーガンジー、ビーズ、金属、絹糸、木綿糸、刺繍（サテンステッチ、他）	メゾン・ヴェルモン蔵
4-10	メゾン・ヴェルモン	刺繍見本〈昆虫たち〉	2016年4月	フランス、パリ	絹布、ルレックス布、アップリケ、ビーズ、絹糸、ルレックス糸、刺繍	メゾン・ヴェルモン蔵
4-11	メゾン・ヴェルモン	刺繍見本〈日曜画家アンリ・ルソー〉	2016年10月	フランス、パリ	絹オーガンジー、タフタ、アップリケ、ビーズ、スパンコール、チューブビーズ、刺繍（シュネット、他）	メゾン・ヴェルモン蔵
4-12	メゾン・ヴェルモン	刺繍見本〈タロットカード13「死神」〉	2017年6月	フランス、パリ	オーガンジー、布地、アップリケ、ミラーストーン、糸、刺繍	メゾン・ヴェルモン蔵
4-13	メゾン・ヴェルモン（刺繍）／アティ・パトラ・ルーガー（図案）	刺繍見本〈ディオール レディ アート #4 アティ・パトラ・ルーガー〉	2018年	フランス、パリ	布、革、ビーズ、金ビーズ、淡水パール、金属、絹糸、木綿糸、刺繍（ブラージュ、他）	メゾン・ヴェルモン蔵
4-14	メゾン・ヴェルモン（刺繍）／アティ・パトラ・ルーガー（図案）／クリスチャン・ディオール・クチュール	刺繍バッグ〈ディオール レディ アート #4 アティ・パトラ・ルーガー〉	2018年	フランス、パリ	黒布、布、ビーズ、金ビーズ、淡水パール、金属、絹糸、木綿糸、刺繍（ブラージュ、他）	クリスチャン・ディオール・クチュール社蔵
4-15	メゾン・ヴェルモン（刺繍）／荒神明香（図案）／クリスチャン・ディオール・クチュール	刺繍バッグ《ディオール レディ アート #3 荒神明香》	2018年	フランス、パリ	革、プラスチック、金属、ビーズ、ミラーレンズ、ナイロン糸、刺繍	合同会社マウスブラストゥ蔵
4-16	メゾン・ヴェルモン（刺繍）／荒神明香（図案）／クリスチャン・ディオール・クチュール	刺繍バッグ《ディオール レディ アート #3 荒神明香》	2018年	フランス、パリ	革、プラスチック、金属、ビーズ、ミラーレンズ、ナイロン糸、刺繍	合同会社マウスブラストゥ蔵

大大名の名宝 一永青文庫×静岡県美の狩野派

前期：10月17日（火）～11月12日（日）

後期：11月14日（火）～12月10日（日）

No.	指定	作者名	作品名	材質	員数	制作年代	所蔵	展示期間
第一章 室町・桃山の美—元信、山楽を中心に								
1	重文	狩野元信	細川澄元像 賛 景徐周麟	絹本著色	一幅	永正4年 (1507)	永青文庫	
2		狩野元信印	四季花鳥図屏風	紙本著色	六曲一双	室町時代末期 ～桃山時代初期 (16世紀半ば～後半)	静岡県立美術館	
3	重文	狩野元信印	富士参詣曼荼羅図	絹本著色	一幅	室町時代 (16世紀半ば)	富士山本宮浅間大社	前期
4		狩野元信・元信印	三酸・花鳥図	紙本墨画 淡彩	三幅対	室町時代 (16世紀半ば) (左右幅は江戸時代 前期[17世紀] か)	個人蔵	後期
5		狩野元信印・元久印	山水人物花鳥図扇面貼交 屏風	紙本墨画	六曲一双	室町時代 (16世紀半ば)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	前期：右隻 後期：左隻
6		狩野永徳・山楽周辺	西王母・琴高仙人図屏風	紙本墨画 淡彩	六曲一双	桃山時代 (16世紀末～17世紀 初頭)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
7		狩野光信・山楽周辺	帝鑑図屏風	紙本金地 墨画	六曲一双	桃山時代 (17世紀初頭)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
8		狩野山楽周辺	唐人物図襖絵	紙本著色	四面	桃山時代 (16世紀末～17世紀 前半)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
9		狩野光信周辺	源氏物語図屏風	紙本著色 金雲 金泥引	六曲一隻	慶長12～15年頃 (1607～1610頃)	華陽院	
10		狩野山楽	狩獵図襖絵	紙本著色	四面	元和4年頃 (1618頃)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
11		狩野山楽	雲門体露金風図 海南宗 條賛	紙本墨画	一幅	桃山時代 (17世紀前半)	個人蔵	
12		狩野宗眼重信	帝鑑図・咸陽宮図屏風	紙本金地 著色	六曲一双	桃山時代 (17世紀前半)	静岡県立美術館	
13		狩野永納	蘭亭曲水図屏風	紙本金地 著色	六曲一双	江戸時代前期 (17世紀後半)	静岡県立美術館	
第二章 江戸の華—木挽町狩野家と鍛冶橋狩野家								
14		狩野探幽	富士山図	紙本墨画 淡彩	一幅	寛文7年 (1667)	静岡県立美術館	
15		狩野探幽	白鷗図	絹本著色	一幅	寛文元年頃 (1661頃)	静岡県立美術館	
16		狩野尚信	西湖図屏風	紙本墨画 淡彩	六曲一双	江戸時代前期 (17世紀前半)	静岡県立美術館	
17		狩野常信	和漢流書手鑑	絹本著色 ／墨画	一帖 (二帖のうち)	宝永元～6年 (1704～1709)	個人蔵	場面替え
18		狩野周信	西湖図	絹本墨画 著色	一幅	江戸時代中期 (17世紀後半～18世 紀前半)	静岡県立美術館	
19		狩野探信守政	牧馬図屏風	紙本著色	六曲一双	正徳5～享保3年 (1715～1718)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
20		狩野典信	山水図 (以古図)	絹本墨画 金泥引	一幅	宝暦12～安永9年 (1762～1780)	静岡県立美術館	
21		狩野典信	絵馬	板絵金地 著色	二面	寛延2年 (1749)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	

No. 指定	作者名	作品名	材質	員数	制作年代	所蔵	展示期間
22	狩野惟信	山水図押絵貼屏風	紙本著色 金泥引	六曲一隻	天明元～寛政6年 (1781～1794)	静岡県立美術館	
23	狩野惟信	富嶽十二ヶ月図巻	紙本著色	一卷	天明元～寛政6年 (1781～1794)	静岡県立美術館	巻替え
24	狩野栄信	百猿図	絹本著色	一幅	享和2～文化13年 (1802～1816)	静岡県立美術館	
25	狩野栄信	春秋山水花鳥図	絹本著色	二幅対	享和2～文化13年 (1802～1816)	静岡県立美術館	
26	狩野栄信	楼閣山水図屏風	絹本著色	二曲一隻	享和2～文化13年 (1802～1816)	静岡県立美術館	
27	狩野栄信	百鳥図	絹本著色	一幅	文化13～文政11年 (1816～1828)	永青文庫	前期
28	狩野探信守道	井手玉川・大堰川図屏風	紙本金地 著色	六曲一双	文政8～天保6年 (1825～1835)	静岡県立美術館	
29	狩野養信	胡蝶船遊之図	絹本著色	一幅	文政2～天保5年 (1819～1834)	永青文庫	
30	狩野養信	春秋高隠図	絹本著色	二幅対	文政2～天保5年 (1819～1834)	永青文庫	
31	狩野養信	東方朔・山水図	絹本著色	三幅対	天保5～弘化3年 (1834～1846)	静岡県立美術館	
32	狩野立信	(倣日観) 葡萄図	絹本墨画	一幅	江戸時代後期 (19世紀前半)	静岡県立美術館	
33	狩野雅信	花鳥図	絹本著色	一幅	弘化元～万延元年 (1844～1860)	静岡県立美術館	
第三章 大名家と江戸狩野派							
34	狩野探幽	瀟湘八景図	絹本墨画 淡彩	八幅対	寛文2～延宝2年か (1662～1674か)	静岡県立美術館	前後期 4幅ずつ
35	狩野安信・常信・探 信守政・益信・探雪	名画集	絹本著色 ／墨画	一帖	天和2年頃 (1682頃)	静岡県立美術館	場面替え
36	狩野探信守政・探雪	絵鑑	絹本著色	一帖	江戸時代前～中期 (17世紀後半～18世 紀前半)	永青文庫	
37	狩野常信	七十二候図	絹本著色	一帖	江戸時代前期 (17世紀後半)	永青文庫	場面替え
38-1	伝狩野周信	松竹・白梅図屏風 より 白梅図	紙本金地 墨画淡彩	八曲一隻 (両面屏風)	江戸時代中期 (18世紀前半)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	前期
38-2	伝狩野周信	松竹・白梅図屏風 より 松竹図	紙本金地 墨画淡彩	八曲一隻 (両面屏風)	江戸時代中期 (18世紀前半)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	後期
39	狩野栄信下絵	雲鶴・流亀蒔絵大小刀掛	黒漆塗 青貝砂子 地	一基	文化13～文政11年 (1816～1828)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
40-1	狩野栄信	桐松鳳凰・月夜葡萄図屏 風より桐松鳳凰図	紙本金地 著色	六曲一双 (両面屏風)	享和2～文化13年 (1802～1816)	静岡県立美術館	後期
40-2	狩野栄信	桐松鳳凰・月夜葡萄図屏 風より月夜葡萄図	紙本金地 墨画	六曲一双 (両面屏風)	享和2～文化13年 (1802～1816)	静岡県立美術館	前期
41	伝辺文進	海棠牡丹八哥鳥図	絹本著色	一幅	明時代 (15～16世紀)	永青文庫	
42	伝呂健	芙蓉鷺図	絹本著色	一幅	明時代 (16世紀)	永青文庫	
43	伝李一和	花鳥図	絹本著色	三幅対	明時代～清時代初期 (16～17世紀)	永青文庫	
44	伝蘇軾	枯木竹石図巻	絹本墨画	一卷	明時代か (15～17世紀か)	永青文庫	巻替え
45	伝仇英	青緑山水図巻	絹本著色	一卷	明時代 (17世紀)	永青文庫	巻替え
46	伝樓観	芙蓉映水図	絹本著色	一幅	南宋～元時代 (13世紀頃)	永青文庫	
47	狩野栄信・養信	唐画流書手鑑	絹本著色 ／墨画	一帖	文政2～11年 (1819～1828)	静岡県立美術館	場面替え 後期は第二 章に展示

No. 指定	作者名	作品名	材質	員数	制作年代	所蔵	展示期間
48	狩野典信 狩野幸信ほか	珍禽奇獣図	紙本著色 ／墨画	一帖	江戸時代中～後期 (18世紀後半～19世紀半ば)	永青文庫	
第四章 肥後狩野派の展開							
49		松図屏風	紙本著色	二曲一隻	江戸時代前期 (17世紀後半)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
50	狩野探信守政	夏秋花鳥図屏風	紙本金地 著色	六曲一双	江戸時代前～中期 (17世紀後半～18世紀前半)	静岡県立美術館	前期：右隻 後期：左隻
51		四季草花図屏風	紙本著色	六曲一双	江戸時代前～中期 (17世紀後半～18世紀前半)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
52	狩野柳雪匡信	花鳥図屏風	紙本著色	六曲一双	文化4～天保14年 (1807～1843)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
53	狩野伊主弘信	細川齊茲像 雄峯宗英賛	絹本著色	一幅	文政10年 (1827)	永青文庫	
54	狩野探意守能	四季耕作図屏風	絹本著色	二曲一隻	江戸時代後期 (19世紀前半～半ば)	永青文庫 (熊本県立美術館 寄託)	
55	狩野養長	山水図	紙本墨画	一幅	江戸時代後期 (19世紀半ば～後半)	永青文庫	
56	狩野養長	犬追物図	絹本著色	一卷	天保7年 (1836)	永青文庫	
57	狩野養長	牡丹芍薬生寫図	紙本著色	一帖	安政3年 (1856)	永青文庫	場面替え

天地耕作 初源への道行き

2月10日（土）～3月27日（水）

- ・技法、材質について記載のないものは「紙、インクジェットプリント」、*印のものは「ターポリン、インクジェット」
- ・所蔵は185を除き、全て作家蔵
- ・撮影時期は、制作時期と同一

天地耕作 壺

制作地 旧引佐郡細江町気賀、同郡引佐町渋川

制作時期 1988年8月～1989年3月

村上誠・渡《山上》 木、流木、藁、土ほか 寸法不詳

《辻》 木、流木ほか 寸法不詳

《山田（一）》 流木、土ほか 寸法不詳

《山田（二）》 木、流木、石、土ほか 寸法不詳

山本裕司 《竹藪》 藤蔓、石灰、土ほか 寸法不詳

《首塚》 木、石ほか 寸法不詳

《氏神の祠》 藁縄、面ほか 寸法不詳

No.	作品名	寸法 (cm)
1	天地耕作 壺 (1) 《辻》	105.0×70.0
2	天地耕作 壺 (2) 《辻》	105.0×90.0
3	天地耕作 壺 (3)	75.5×108.0
4	天地耕作 壺 (4) 《山田 (一)》	88.0×106.5
5	天地耕作 壺 (5) 《山田 (一)》	87.5×106.5
6	天地耕作 壺 (6) 《山田 (二)》	84.0×108.5
7	天地耕作 壺 (7) 《山上》	84.0×123.0
8	天地耕作 壺 (8) 《山上》	84.0×72.0
9	天地耕作 壺 (9) 《山上》	84.0×125.0
10	天地耕作 壺 (10) 《山上》	230.0×270.0 *
11	天地耕作 壺 (11) 《氏神の祠》	270.0×230.0 *
12	天地耕作 壺 (12) 《氏神の祠》	113.4×89.0
13	天地耕作 壺 (13) 《氏神の祠》	90.0×134.0
14	天地耕作 壺 (14) 《首塚》	90.0×107.0
15	天地耕作 壺 (15) 《首塚》	90.0×108.0、 90.0×109.0
16	天地耕作 壺 (16) 《竹藪》	105.0×70.0
17	天地耕作 壺 (17) 《竹藪》	105.0×70.0

撮影
長船恒利

18	天地耕作 壺 (18) 《竹藪》	105.0×70.0
19	天地耕作 壺 (19) 《竹藪》	85.0×123.5
天地耕作以前		
162	村上誠ドローイング	45.0×66.0
163	村上渡ドローイング	45.0×66.0
164	山本裕司初期作品	45.0×66.0
165	村上誠《黒い絵》	45.0×66.0
166	art space '85 山本裕司《生の輪》	45.0×66.0
167	art space '86 村上誠・渡《星の断片、雨の匂い》	45.0×66.0
168	art space '86 山本裕司《鼓動は音のはじまり》	45.0×66.0
169	分裂症的折衷主義1986浜松 村上誠《島について》	45.0×66.0
170	分裂症的折衷主義1986浜松 村上渡《長い眠りの終わり》	45.0×66.0
171	山本裕司修了制作	90.0×240.0
172	第9回現代美術展 山本裕司《カザグルマー悪しき霊》	66.0×45.0
173	村上誠撮影 「身体で関わる自然」フレイヤー用写真	45.0×66.0
174	第10回現代美術展 山本裕司《土筆一地の霊》	45.0×66.0
175	身体で関わる自然 山本裕司《生命連続体》	45.0×66.0
176	第7回試行する美術「重層する、浮遊。」山本裕司《悪しき業》	45.0×66.0
177	第7回試行する美術「重層する、浮遊。」村上誠・渡《雨の匂い》	45.0×66.0
178	現代アートフェスティバル in SHIMIZU 村上誠・渡《雨の栖》	45.0×66.0
179	現代アートフェスティバル in SHIMIZU 村上誠・渡《雨の栖》	45.0×66.0
180	現代アートフェスティバル in SHIMIZU 山本裕司《すみか》	66.0×45.0

A-Value

A-Value

会場 静岡県立美術館県民ギャラリー、展示テラス

会期 1988年5月3日～5月8日

村上誠・渡《雨の家》流木、藁、赤土 340×400×400cm

山本裕司《いかづち》雷落ちし木、藁、藁縄 350×250×150cm

A-Value II

会場 静岡県立美術館県民ギャラリー、展示テラス、裏山

会期 1989年8月29日～9月3日

村上誠・渡《辻—その二》流木、土、石、藁縄 4×25×15m

山本裕司《墳墓－その二》木の瘤、土、石、藁縄 1×25×10m
A-Value III
会場 静岡県立美術館県民ギャラリー、展示テラス
会期 1990年9月4日－9月16日
村上誠・渡《産土》木、藁、藁縄、石、赤土 400×600×800cm
山本裕司《墳墓－その三》木、老木、藁、藁縄、赤土 400×300×250cm

181	「A-Value 村上誠・渡《雨の家》」	60.0×70.0
182	「A-Value 村上誠・渡《雨の家》、山本裕司《いかずち》」	60.0×70.0
183	「A-Value 山本裕司《いかずち》」	60.0×70.0
20	「A-Value III (1) 《産土》」	60.0×70.0
21	「A-Value III (2) 《墳墓－その三》」	60.0×70.0
22	「A-Value II (1) 手前《墳墓－その二》、奥《辻－その二》」	150.0×330.0
23	「A-Value II (2) 左《墳墓－その二》、右《辻－その二》」	135.0×345.0
24	「A-Value II (3) 《辻－その二》」	60.0×70.0
25	「A-Value II (4) 《墳墓－その二》」	60.0×70.0

湖東中学

制作地 浜松市立湖東中学校
制作期間 1989年10月19日－11月2日
作品名 村上誠・渡《辻－その三》 流木、藁縄、石、赤土ほか
寸法不詳

26	「湖東中学校 《辻－その三》」	55.0×82.0
----	-----------------	-----------

天地耕作 式

制作地 採石場跡 旧引佐郡引佐町谷下
制作時期 1991年6月－10月
村上誠・渡《産土－その二》 杉、楠その他の雑木、藁、藁縄、竹、石灰岩、赤土 H8m、12m×W50m×D50m（空間）
山本裕司《墳墓－その四》 杉、松、雑木、藤蔓、竹、麻紐、瓢たん、きのこ、石灰岩、鍾乳石、化石、土、塗料、ドラム缶 H10m、20m×W60m×D50m（空間）
パフォーマンス
9月8日 《風景の中の見ることの自由III》 浜田剛爾
9月22、29日 《音遊戯》 天地耕作、森口紋太郎

27	天地耕作 式 (1) 《墳墓－その四》	80.0×120.0
28	天地耕作 式 (2) 《墳墓－その四》	80.0×120.0
29	天地耕作 式 (3)	80.0×120.0
30	天地耕作 式 (4)	80.0×120.0
31	天地耕作 式 (5)	160.0×85.0

32	天地耕作 式 (6)	80.0×120.0
33	天地耕作 式 (7)	80.0×120.0
34	天地耕作 式 (8) 《産土－その二》	230.0×350.0 *
35	天地耕作 式 (9) 《産土－その二》	80.0×120.0
36	天地耕作 式 (10) 《産土－その二》	80.0×120.0
37	天地耕作 式 (11) 《墳墓－その四》	160.0×85.0
38	天地耕作 式 (12)	80.0×120.0
39	天地耕作 式 (13) 《産土－その二》	80.0×120.0
40	天地耕作 式 (14) 《産土－その二》	160.0×85.0
41	天地耕作 式 (15)	172.0×660.0
42	天地耕作 式 (16) 《音遊戯》	160.0×85.0
43	天地耕作 式 (17)	80.0×120.0
44	天地耕作 式 (18) 《音遊戯》	80.0×120.0
45	天地耕作 式 (19) 《音遊戯》	80.0×120.0
46	天地耕作 式 (20) 《音遊戯》	80.0×120.0
47	天地耕作 式 (21) 《音遊戯》	160.0×85.0

天地耕作 参

制作地 旧浜北市姥ヶ谷 若樹学園
制作時期 1994年1月－8月
村上誠・渡《産土-その四》 木、竹、石、赤土ほか 寸法不詳
山本裕司 《墳墓-その六》 木、藁、石、土ほか 寸法不詳
パフォーマンス 8月28日 《身体遊戯》 天地耕作

58	天地耕作 参 (1) 《産土－その四》	230.0×270.0 *
59	天地耕作 参 (2)	80.0×120.0
60	天地耕作 参 (3)	80.0×120.0
61	天地耕作 参 (4)	80.0×120.0
62	天地耕作 参 (5)	80.0×120.0
63	天地耕作 参 (6)	80.0×120.0
64	天地耕作 参 (7) 《墳墓－その六》	80.0×120.0
65	天地耕作 参 (8) 《墳墓－その六》	80.0×120.0
66	天地耕作 参 (9)	80.0×120.0
67	天地耕作 参 (10)	80.0×120.0
68	天地耕作 参 (11)	160.0×85.0

69	天地耕作	参 (12)	《産土ーその四》	160.0×85.0
70	天地耕作	参 (13)	《産土ーその四》	80.0×120.0
71	天地耕作	参 (14)	《産土ーその四》	80.0×120.0
72	天地耕作	参 (15)	《墳墓ーその六》	160.0×85.0
73	天地耕作	参 (16)		80.0×120.0
74	天地耕作	参 (17)	《産土ーその四》	80.0×120.0
75	天地耕作	参 (18)	《産土ーその四》	80.0×120.0
76	天地耕作	参 (19)	《産土ーその四》	160.0×85.0
77	天地耕作	参 (20)	《産土ーその四》	160.0×85.0
78	天地耕作	参 (21)	《身体遊戯》	160.0×85.0
79	天地耕作	参 (22)	《身体遊戯》	80.0×120.0
80	天地耕作	参 (23)	《身体遊戯》	80.0×120.0
81	天地耕作	参 (24)	《身体遊戯》	80.0×120.0
82	天地耕作	参 (25)	《身体遊戯》	80.0×120.0
83	天地耕作	参 (26)	《身体遊戯》	80.0×120.0
84	天地耕作	参 (27)	《身体遊戯》	80.0×120.0
85	天地耕作	参 (28)	《身体遊戯》	80.0×120.0
86	天地耕作	参 (29)		160.0×85.0
87	天地耕作	参 (30)		80.0×120.0

天地耕作 海外

〔オーストラリア〕

制作地 スワン川上流、オーストラリア

制作時期 1992年2月2日ー2月22日

村上誠・渡《産土ーその三》 流木、縄、石、土ほか 寸法不詳

山本裕司《墳墓ーその五》 石、赤土ほか 寸法不詳

パフォーマンス 2月23日 《身体遊戯》天地耕作

48	天地耕作	オーストラリア (1)		80.0×120.0
49	天地耕作	オーストラリア (2)		80.0×120.0
50	天地耕作	オーストラリア (3)	《墳墓ーその五》	80.0×120.0
51	天地耕作	オーストラリア (4)	《墳墓ーその五》	80.0×120.0
52	天地耕作	オーストラリア (5)	《墳墓ーその五》	80.0×120.0
53	天地耕作	オーストラリア (6)	《墳墓ーその五》	80.0×120.0
54	天地耕作	オーストラリア (7)	《墳墓ーその五》	80.0×120.0
55	天地耕作	オーストラリア (8)	《墳墓ーその五》	80.0×120.0

56	天地耕作	オーストラリア (9)	パース 市立現代美術館展示風景	80.0×120.0
57	天地耕作	オーストラリア (10)	《産土ーその三》	80.0×120.0

天地耕作 四

〔テル湖〕

制作地 オリベシ市郊外テル湖、フィンランド

制作時期 1997年6月28日ー7月21日

村上誠・渡《産土ーその五》 木、白樺、縄、石、土ほか 寸法不詳

山本裕司 《墳墓ーその七》 木、縄、草、苔ほか 寸法不詳

パフォーマンス 7月22日 《身体遊戯》天地耕作、イルカ・ユ
ハニ・タカローエスコラ

〔ヴェシ湖〕

制作地 ラハティ市郊外ヴェシ湖、フィンランド

制作時期 1997年7月24日ー8月4日

村上誠《産土ーその六》 木、縄、草ほか 寸法不詳

山本裕司 《墳墓ーその八》 木、縄、石ほか 寸法不詳

パフォーマンス 8月4日 《身体遊戯》天地耕作（村上誠、山
本裕司）、ユホ・ラハトネン

〔テル湖〕

88	天地耕作	四 (1)		80.0×120.0
89	天地耕作	四 (2)		80.0×120.0
90	天地耕作	四 (3)		80.0×120.0
91	天地耕作	四 (4)		80.0×120.0
92	天地耕作	四 (5)	《墳墓ーその七》	80.0×120.0
93	天地耕作	四 (6)	《産土ーその五》	80.0×120.0
94	天地耕作	四 (7)		80.0×120.0
95	天地耕作	四 (8)	《産土ーその五》	80.0×120.0
96	天地耕作	四 (9)	《身体遊戯》	80.0×120.0
97	天地耕作	四 (10)	《身体遊戯》	80.0×120.0

〔ヴェシ湖〕

98	天地耕作	四 (11)	《墳墓ーその八》	80.0×120.0
99	天地耕作	四 (12)	《産土ーその六》	80.0×120.0
100	天地耕作	四 (13)	《身体遊戯》	160.0×85.0
101	天地耕作	四 (14)	《身体遊戯》	80.0×120.0
102	天地耕作	四 (15)	《身体遊戯》	80.0×120.0
103	天地耕作	四 (16)	《身体遊戯》	160.0×85.0
104	天地耕作	四 (17)	《墳墓ーその八》	230.0×270.0*

天地耕作 五		
制作地 旧引佐郡細江町気賀、同郡引佐町渋川		
制作時期 1997年10月－1999年3月		
村上誠・渡《産土－その七》 木、縄、石、土ほか 寸法不詳		
山本裕司《墳墓－その九》 木、石、紙ほか 寸法不詳		
パフォーマンス		
3月6日 《身体遊戯》天地耕作（村上誠、村上渡）、森繁哉		
3月7日 《身体遊戯》天地耕作（山本裕司）、森繁哉		
105 天地耕作 五（1）	93.0×130.0	
106 天地耕作 五（2）	93.0×130.0	
107 天地耕作 五（3）	《産土－その七》	93.0×130.0
108 天地耕作 五（4）	《産土－その七》	93.0×130.0
109 天地耕作 五（5）	《産土－その七》	130.0×93.0
110 天地耕作 五（6）	《産土－その七》	130.0×93.0
111 天地耕作 五（7）	《産土－その七》	270.0×230.0＊
112 天地耕作 五（8）	《墳墓－その九》	93.0×93.0
113 天地耕作 五（9）	《身体遊戯》	130.0×93.0
114 天地耕作 五（10）	《身体遊戯》	130.0×93.0
115 天地耕作 五（11）	《身体遊戯》	130.0×93.0
116 天地耕作 五（12）	《身体遊戯》	130.0×93.0
117 天地耕作 五（13）	《墳墓－その九》	93.0×93.0

天地耕作 六
制作地 浜松短期大学、旧引佐郡細江町気賀、同郡引佐町渋川
制作時期 2003年2月27日－3月23日（《庭》のみ、他二点は不詳）
村上誠《庭》 木、土ほか 寸法不詳
村上渡《畑》 素材不詳 寸法不詳
山本裕司《道》 素材不詳 寸法不詳
パフォーマンス 3月22日 《身体遊戯》天地耕作、森繁哉

118 天地耕作 六（1）	30.0×40.0	
119 天地耕作 六（2）	30.0×40.0	
120 天地耕作 六（3）	30.0×40.0	
121 天地耕作 六（4）	30.0×40.0	
122 天地耕作 六（5）	30.0×40.0	
123 天地耕作 六（6）	30.0×40.0	
124 天地耕作 六（7）	30.0×40.0	

125 天地耕作 六（8）	30.0×40.0	
126 天地耕作 六（9）	40.0×30.0	
127 天地耕作 六（10）	40.0×30.0	
128 天地耕作 六（11）	30.0×40.0	
129 天地耕作 六（12）	30.0×40.0	
130 天地耕作 六（13）	《身体遊戯》	60.0×60.0
131 天地耕作 六（14）	《身体遊戯》	60.0×60.0
132 天地耕作 六（15）	《身体遊戯》	40.0×30.0
133 天地耕作 六（16）	《身体遊戯》	30.0×40.0
134 天地耕作 六（17）	《身体遊戯》	30.0×40.0
135 天地耕作 六（18）	《身体遊戯》	40.0×30.0
136 天地耕作 六（19）	《身体遊戯》	40.0×30.0
137 天地耕作 六（20）	《身体遊戯》	30.0×40.0
138 天地耕作 六（21）	《身体遊戯》	60.0×40.0
139 天地耕作 六（22）	《身体遊戯》	30.0×40.0
140 天地耕作 六（23）	《身体遊戯》	60.0×40.0
141 天地耕作 六（24）	《身体遊戯》	60.0×40.0
142 天地耕作 六（25）	《身体遊戯》	40.0×60.0
143 天地耕作 六（26）	60.0×40.0	
144 天地耕作 六（27）	60.0×40.0	
145 天地耕作 六（28）	40.0×60.0	

天地耕作 七
制作地 静岡県立美術館裏山、静岡市駿河区谷田
制作時期 2023年11月－2024年2月

No.	作品名	技法、材質	寸法（cm）
146	村上誠・渡・山本裕司《天地耕作 七》	木、竹、縄、藁縄、石、土ほか	寸法不詳
147 天地耕作 七（1）	48.6×72.0		
148 天地耕作 七（2）	48.6×72.0		
149 天地耕作 七（3）	48.6×72.0		
150 天地耕作 七（4）	48.6×72.0		
151 天地耕作 七（5）	48.6×72.0		
152 天地耕作 七（6）	48.6×72.0		

153	天地耕作	七 (7)	48.6×72.0
154	天地耕作	七 (8)	48.6×72.0
155	天地耕作	七 (9)	48.6×72.0
156	天地耕作	七 (10)	48.6×72.0
157	天地耕作	七 (11)	48.6×72.0
158	天地耕作	七 (12)	48.6×72.0
159	天地耕作	七 (13)	48.6×72.0
160	天地耕作	七 (14)	48.6×72.0

室内インスタレーション

No.	作品名	技法、材質	寸法 (cm)	制作年
161	村上誠・渡・ 山本裕司 《白蓋》	木、竹、麻 紐、紙、美 術全集ほか	サイズ 可変	2024年

映像

No.	作品名	技法、材質	時間	制作年 (放送年)	所蔵
184	天地耕作 壺	映像	53分30 秒	1989年	
185	森の中の芸 術家	映像	4 分 18 秒	1989年2月16 日放送	静岡放 送蔵
186	身体遊戯	映像	36分29 秒	1999年	
187	身体遊戯	映像	26分44 秒	1999年	
188	身体遊戯	映像	46 分 8 秒	2003年	

収蔵品展

・作品名の後に特に記載のないものはすべて当館所蔵品

新収蔵品展

4月11日（火）～5月21日（日）

No.	作者名	作品名
1	斎藤義重	作品
2	アンディ・ウォーホル	ドル記号
3	李禹煥	線より
4	李禹煥	点より
5	李禹煥	From Line
6	李禹煥	Untitled
7	李禹煥	Untitled
8	李禹煥	項A
9	李禹煥	項B
10	李禹煥	照応
11	アニッシュ・カプーア	Monochrome (Garnet)
12	宮島達男	Opposite Harmony No.7651/No.26886
13	宮島達男	C.F.Lifestructurism - no.13
14	ジュリアン・オピー	Shahnoza dancing in tartan mini, left
15	村上隆	未知なる次元への旅立ち
16	村上隆	何時かきっと出会える！でも、今は別次元を2人彷徨う
17	イ・ブル	モンスタードロ잉
18	イ・ブル	モンスタードロ잉
19	イ・ブル	モンスタードロ잉
20	イ・ブル	モンスタードロ잉
21	名和晃平	Chain Drawing#38
22	名和晃平	Moment#65
23	大庭大介	ONE
24	棟方志功	谷崎歌々板画柵 花見の柵
25	棟方志功	基督の柵
26	棟方志功	癡癡老人日記板画柵 颯子の柵

27	秋野不矩	葡萄
28	秋野不矩	芥子
29	石川欽一郎	奥多摩浅川

太田正樹コレクション展

5月23日（火）～7月9日（日）

No.	作者名	作品名
1	アンディ・ウォーホル	ドル記号
2	中西夏之	韻一H
3	荒川修作	BOTTOMLESS No. 1
4	李禹煥	線より
5	李禹煥	点より
6	李禹煥	出港地 A
7	李禹煥	照応
8	アニッシュ・カプーア	Monochrome (Garnet)
9	宮島達男	Monism / Dualism No.12
10	ジュリアン・オピー	Tina Walking
11	村上隆	未知なる次元への旅立ち
12	村上隆	何時かきっと出会える！でも、今は別次元を2人彷徨う。
13	森万里子	Cycloid IV
14	加藤泉	無題
15	ダレン・アーモンド	LIKE LOVE WE SELDOM KEEP
16	小谷元彦	SP1 'Beginning' (The Whorl of Lanugo03)
17	小谷元彦	Hollow : Pianist/Rondo
18	名和晃平	Direction #23
19	大庭大介	ONE

名品コーナーにて展示

ジュリアン・オピー	Shahnoza dancing in tartan mini, left
-----------	---------------------------------------

美術館のなかの書くこと

7月25日（火）～9月18日（月・祝）

No.	作者名	作品名
1		天平勝宝四年東大寺写経所請経文〔重要文化財〕
2		古今和歌集巻第一断簡（亀山切）
3	藤原定家	明月記断簡
4	松花堂昭乗	酒徳頌
5	本居宣長	和歌詠草 賀茂真淵添削
6	上田秋成	書状（蜀山人宛）
7	奥原晴湖	夏景山水図（自賛七言絶句）
8	吉嗣拝山	山水図（自賛七言絶句）
9	守住貫魚	朝顔図（小中村清矩和歌賛）
10	田崎草雲	玉堂富貴図（個人蔵）
11	石本秋園	尾張浜主影像図（本居豊頼賛）
12	石本秋園	仁徳天皇陵出土甲冑縮図
13	川村清雄	静物写生
14	川村清雄	海底に遺る日清勇士の髑髏
資料		海底に遺る日清勇士の髑髏 箱書
15	川村清雄	梅に親子雀
16	黒田清輝	富士之図（1）
17	藤田嗣治	モンルージュ、パリ
18	熊谷守一	ほたるぶくろ
19	香月泰男	みもごと猫
20	香月泰男	飛鳩
21	佐伯祐三	ラ・クロッシュ
22	小林猶治郎	一献淡味
23	吉仲太造	赤い電話
24	前田守一	剥された言葉
25	曾宮一念	芝浦埋立地
26	曾宮一念	水仙（株式会社藤枝江崎新聞店蔵）
27	曾宮一念	種子静物
28	曾宮一念	獲物（やまどり）（株式会社藤枝江崎新聞店蔵）

29	曾宮一念	毛無連峯
30	曾宮一念	波よ（個人蔵）
31	曾宮一念	箴のね（個人蔵）
32	曾宮一念	木枯らし（個人蔵）
33	曾宮一念	夕ばえ（個人蔵）
資料		曾宮一念日記（個人蔵）
資料		中村彝宛曾宮一念書簡（個人蔵）
資料		曾宮一念使用筆記具、筆記補助具（個人蔵）

版画でひもとく聖書と神話 デューラーからピカソまで 10月17日（火）～12月10日（日）

No.	作者名	作品名
『聖書』		
1	エルンスト・バルラッハ	『神の変容』より 第一日
2	エルンスト・バルラッハ	『神の変容』より 大聖堂
3	エルンスト・バルラッハ	『神の変容』より 神の乞食
4	エルンスト・バルラッハ	『神の変容』より 死の舞踏
5	エルンスト・バルラッハ	『神の変容』より 神の腹
6	エルンスト・バルラッハ	『神の変容』より 岩山
7	エルンスト・バルラッハ	『神の変容』より 第七日
8	パブロ・ピカソ	ダヴィデとバテシバ
9	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 来たるべき出発についてマリアに話すヨセフ
10	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 隠れ家をさがすヨセフとマリア
11	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 椰子の木の下の聖家族
12	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より エルサレムを出て行く聖家族
13	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 城壁に沿って歩く聖家族
14	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より マリアの腕に抱かれた幼な子を崇めるヨセフ
15	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 幼な子を腕に抱いたマリアと籠を背負ったヨセフ
16	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 羊飼いの群れのそばを通り過ぎるヨセフとマリア
17	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 天使に案内されるマリアと幼な子を抱いたヨセフ
18	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 逃避途上の休息
19	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 川岸の聖家族

20	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	川岸を離れ
21	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	天使に助けられ小舟に乗込む
22	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	小舟で川を渡る
23	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	ヨセフと天使に助けられ小舟から降りる
24	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	二人の天使が歌う傍らで幼な子を崇める
25	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	ピラミッドのそばを通り過ぎる
26	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	坂道を下る
27	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	頭部が落ちた彫像のそばを通り過ぎる
28	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	木陰で一休みする
29	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	天使に助けられるマリアと籠を背負ったヨセフ
30	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	驢馬を連れたヨセフに続く
31	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	ヨセフの後を歩く
32	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 聖家族	エジプトに着いた
33	ロドルフ・プレスダン	『エジプトへの逃避』より 聖家族	エジプト逃避途上の休息
34	アルブレヒト・デューラー	放蕩息子	
35	ジャック・カロ	『大受難伝』より キリスト	使徒たちの足を洗う
36	ジャック・カロ	『大受難伝』より	最後の晚餐
37	ジャック・カロ	『大受難伝』より	死の有罪宣告
38	ジャック・カロ	『大受難伝』より	茨の冠
39	ジャック・カロ	『大受難伝』より	エッケ・ホモ（この人を見よ）
40	ジャック・カロ	『大受難伝』より	十字架運び
41	ジャック・カロ	『大受難伝』より	十字架設置（昇架）
42	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より ケンタウロス	ヘラクレスと
43	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より ネメアのライオン	ヘラクレスと
44	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より ヒュドラ	ヘラクレスと
45	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より ガザの柱	ヘラクレスと
46	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より カクス	ヘラクレスと
47	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より アンタイオス	ヘラクレスと
48	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より ケルペロス	ヘラクレスと
49	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より トロイア人	ヘラクレスと
50	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より ネッソス	ヘラクレスと

51	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より イオレ	ヘラクレスと
52	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より ネッソスの衣服をヘラクレスに届ける	リカス
53	ゼバルト・ベーハム	『ヘラクレスの事績』より 死	ヘラクレスの
54	ヘンドリック・ホルツィウス	オケアヌス	
55	ヘンドリック・ホルツィウス	テテュス	
56	クロード・ロラン	エウロペの略奪	
57	サルヴァートル・ローザ	イアソンとドラゴン	
58	ジャン＝ヴィクトル・ベルタン	ディアナと水浴するニンフのいる古典的風景	
59	ジャン＝ヴィクトル・ベルタン	ナルキッソスのいる古典的風景	
60	ケル＝グザヴィエ・ルーセル	『風景』より ニンフのそばで遊ぶキューピッド	

静岡の現代美術と1980年代

2月10日（土）～4月7日（日）

No.	作者名	作品名
1	清川泰次	天と地とー 5 6
2	飯田昭二	Half and Half
3	丹羽勝次	箱シリーズ '68
4	丹羽勝次	NO HOOKS
5	中村宏	車窓篇 TYPE 4
6	前田守一	遠近のものさし
7	伊藤隆史	壁ノ鳥
8	遠藤享	BOTTLE
9	長岡宏	MITSUI BUILDING
10	長岡宏	Past-Present-Future(A)
11	長岡宏	雑草'81- A
12	鈴木慶則	非在のタブロー（マグリットによる）
13	野田哲也	Diary ; Sept. 22nd '87, in Kikkodai, Kashiwa-shi
14	柳澤紀子	水邊の庭 I
15	柳澤紀子	水邊の庭 V
16	柳澤紀子	水邊の庭Ⅷ
17	依田寿久	無題 No.5
18	長船恒利	在るもの「島田」（個人蔵）

19 長船恒利	在るもの「清水」(個人蔵)
20 長船恒利	在るもの「菊川」(個人蔵)
21 田中孝	On The Table
22 園山晴巳	D'Encre-Y
23 辰野登恵子	Black-85M-2
24 森村泰昌	批評とその愛人 (1) (4) (5) (7)
25 川俣正	袋井駅前プロジェクト1988
26 白井嘉尚	シャーベットのよう
27 白井嘉尚	Drawing by Printing (1991, 10・4)
28 白井嘉尚	Drawing by Printing (1993, 5・31)
29 宮島達男	Monism/Dualism No.12
30 石田徹也	飛べなくなった人
31 石田徹也	引き出し
32 大庭大介	THE BATTLE STAGE

名品コーナーにて展示

No.	作者名	作品名
4月11日(火)～5月21日(日)		
1	山口素絢	富嶽図
2	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	メリ街道、ラ・フェルテ＝ス＝ジュアール付近
3	斎藤義重	作品2
斎藤義重《作品2》は、7月9日まで企画展「センス・オブ・ワンダー」出品作として位置づけ。		
5月23日(火)～7月9日(日)		
1	岡鹿之助	観測所
2	ジュリアン・オビー	Shahnoza dancing in tartan mini, left
3	斎藤義重	作品2
ジュリアン・オビー《Shahnoza dancing in tartan mini, left》は、収蔵品展「太田正樹コレクション展」の出品作として位置づけ。		
7月25日(火)～9月18日(月・祝)		
1	小出檣重	静物
2	ファン・グリス	果物皿と新聞

3 中村宏	記号3
10月17日(火)～12月10日(日)	
1 式部輝忠	富士八景図より 第一、二幅
2 式部輝忠	富士八景図より 第七、八幅
3 坂田一男	祭壇の男
4 丹羽勝次	NO HOOKS
※第一、二幅の展示期間：10月17日(火)～11月12日(日)／第七、八幅の展示期間：11月14日(火)～12月10日(日)	
2月10日(土)～4月7日(日)	
1 岸駒	芙蓉峰図
2 和田英作	富士
3 ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼

移動美術展

「富士山世界文化遺産登録10周年記念 静岡県立美術館 小山町移動美術展 旅する人生」

No. 作者名	作品名	素材・技法	制作年	寸法 (縦×横×奥行cm)
旅のはじまり				
1 オーギュスト・ロダン	考える人	ブロンズ	1880	37.2×28.6×23.6
旅する富士				
2 チャールズ・ワーグマン	富士遠望図	キャンヴァス、油彩	1876以降	41.2×76.2
3 五姓田義松	富士	キャンヴァス、油彩	1905	46.8×101.5
4 横山大観	富士山	絹本着色	1950 - 1955頃	58.7×73.7
5 東山魁夷	秋富士	絹本着色	1955	66.6×88.1
異国の風景				
6 伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風（複製）	印刷	21世紀	(右) 137.5×355.6 (左) 137.5×366.2
7 徳川慶喜	風景	紙、油彩	1868 - 1877頃	31.0×45.0
8 清水登之	セーヌ河畔	キャンヴァス、油彩	1924	65.0×53.8
9 田中保	セーヌの宵	キャンヴァス、油彩	1920	54.5×65.4
10 ハイム・スーチン	カーニュ風景	キャンヴァス、油彩	1923	60.0×72.4
11 栗原忠二	セントポール	キャンヴァス、油彩	1916頃	80.0×100.0
12 伊藤勉黄	上海の裏町	紙、木版	1945	38×28
13 秋野不矩	芥子	紙本金地着色	1967	60.7×42.5
小さな旅				
14 野口謙蔵	虹の風景	キャンヴァス、油彩	1941	50.3×60.7
15 石田徹也	ピアガーデン発	紙、アクリル	1995	51.0×78.5
16 石田徹也	居酒屋発	紙、アクリル	1995	51.0×78.5
17 小泉癸巳男	祝祭日の日本橋	紙・木版	1934	28.2×37.5
18 小泉癸巳男	春の動物園	紙・木版	1934	28.5×37.1
人生という旅				
19 岡田岡因もしくはオカイン	小児	キャンヴァス、油彩	1931	71.0×52.0
20 恩地孝四郎	母と子	紙、木版	1917	31.0×24.0
21 恩地孝四郎	《月映》：死によりてあげらるる生	紙、木版	1915	12.4×10.4
22 マックス・クリンガー	死について 第2部：母と子（死んだ母）	紙、エッチング、エンブレイヴィング、アクアチント	1898 - 1909	38.6×29.1
23 マックス・クリンガー	死について 第2部：時間と名声	紙、エッチング、エンブレイヴィング、アクアチント	1898 - 1909	36.2×25.7
24 宮島達男	Changing Time with Changing Self No.6	LED、IC、電線、鏡、ステンレススチールパネル	2001	94.0×94.0×5.6

移動美術展

「静岡県立美術館 沼津移動美術展 旅する人生」

番号	作者名	作品名	素材・技法	制作年	寸法 (縦×横×奥行cm)
旅のはじまり					
1	オーギュスト・ロダン	考える人	ブロンズ	1880	37.2×28.6×23.6
旅する沼津宿、富士					
2	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）：沼津 黄昏図	紙、木版、色摺	1833頃	25.7×38.6
3	歌川広重	東海道五拾三次（隸書）：沼津	紙、木版、色摺	1849頃	24.0×36.0
4	歌川広重	不二三十六景：駿河富士沼	紙、木版、色摺	1852	18.1×25.3
5	チャールズ・ワグマン	富士遠望図	キャンヴァス、油彩	1876以降	41.2×76.2
6	五姓田義松	富士	キャンヴァス、油彩	1905	46.8×101.5
7	横山大観	富士山	絹本着色	1950 - 1955頃	58.7×73.7
8	東山魁夷	秋富士	絹本着色	1955	66.6×88.1
異国の風景					
9	徳川慶喜	風景	紙、油彩	1868 - 1877頃	31.0×45.0
10	清水登之	セーヌ河畔	キャンヴァス、油彩	1924	65.0×53.8
11	田中保	セーヌの宵	キャンヴァス、油彩	1920	54.5×65.4
12	ハイム・スーチン	カーニュ風景	キャンヴァス、油彩	1923	60.0×72.4
13	栗原忠二	セントポール	キャンヴァス、油彩	1916頃	80.0×100.0
14	伊藤勉黄	上海の裏町	紙、木版	1945	38×28
15	秋野不矩	芥子	紙本金地着色	1967	60.7×42.5
小さな旅					
16	野口謙蔵	虹の風景	キャンヴァス、油彩	1941	50.3×60.7
17	石田徹也	ピアガーデン発	紙、アクリル	1995	51.0×78.5
18	石田徹也	居酒屋発	紙、アクリル	1995	51.0×78.5
19	棟方志功	谷崎歌々板画柵 花見の柵	紙、木版・彩色	1956	33.5×30.5
20	山口源	湧玉池	紙、多色木版		24.5×18.1
21	山口源	春来る丘	紙、多色木版	1942	33.0×44.5
人生という旅					
22	岡田オカイン	小児	キャンヴァス、油彩	1931	71.0×52.0
23	恩地孝四郎	母と子	紙、木版	1917	31.0×24.0
24	恩地孝四郎	《月映》：抒情 いとなみ祝福せらる	紙、木版	1915	13.5×9.7

番号 作者名	作品名	素材・技法	制作年	寸法 (縦×横×奥行cm)
25 マックス・クリンガー	死について 第2部：疫病	紙、エッチング、エングレーヴィング、アクアチント	1898 - 1909	36.3×31.3
26 マックス・クリンガー	死について 第2部：美に	紙、エッチング、エングレーヴィング、アクアチント	1898 - 1909	37.4×27.7
27 草間彌生	エンドレス	紙、エッチング	1953 - 1984	27.9×45.5
28 宮島達男	Changing Time with Changing Self No.6	LED、IC、電線、鏡、ステンレススチールパネル	2001	94.0×94.0×5.6

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号

平成3年3月19日条例第2号

平成4年3月25日条例第14号

平成8年3月28日条例第11号

平成11年3月19日条例第16号

平成13年7月24日条例第45号

平成15年3月12日条例第2号

平成17年7月15日条例第49号

平成22年3月26日条例第23号

平成24年3月23日条例第1号

平成26年3月28日条例第29号

平成31年3月26日条例第18号

令和5年3月29日条例第14号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を

受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。

(3) その他その使用を不適当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

(1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。

(2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあつても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。

(協議会の設置)

第13条 博物館法(昭和26年法律第285号)第23条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(一部改正〔令和5年条例4号〕)

(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある

者の中から任命することとする。
(追加〔平成24年条例第1号〕)
(協議会の委員)
第14条 委員の定数は、15人以内とする。
2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
3 委員は、再任されることができる。
(一部改正〔平成24年条例第1号〕)
(委任)
第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

附 則
この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則(平成元年3月29日条例第43号)
1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成3年3月19日条例第2号)
1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則(平成4年3月25日条例第14号)
1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成8年3月28日条例第11号)
(平成24年3月23日条例第1号)
1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成11年3月19日条例第16号)
1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成13年7月24日条例第45号)

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成15年3月12日条例第2号)
この条例は、平成15年4月1日より施行する。

附 則(平成17年7月15日条例第49号)
この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成22年3月26日条例第23号)
この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月23日条例第1号)
この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月23日条例第29号)
1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成31年3月26日条例第18号)
1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(令和5年3月29日条例第14号)
この条例は、令和5年4月1日から施行する。
別表第1(第3条関係)

(一部改正〔平成22年条例第23号〕)

(1) 常設展示

利 用 区 分	観 覧 料
個 人	300円
団 体	1人につき 200円

備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
2 団体とは、20人以上をいう。
3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2(第5条関係)

利 用 区 分	特 別 観 覧 料
模 写	1点1日につき 2,000円
模 造	1点1日につき 2,000円
撮 影	1点1回につき 4,000円
熟 覧	1点1日につき 1,000円
原 板 使 用	1点1回につき 3,000円

別表第3（第9条関係）
（一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号・31年18号〕）
（1）県民ギャラリー

利 用 区 分		使用料
		10時から17時30分まで
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

（2）講堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,750円	14,050円	21,800円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例
施行規則

平成3年3月26日
規則第24号

改正 平成5年3月25日規則第13号
平成6年3月10日規則第5号
平成9年3月28日規則第51号
平成12年3月31日規則第17号
平成13年7月24日規則第59号
平成20年3月31日規則第19号
令和元年7月1日規則第4号
令和3年3月26日規則第5号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例
施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

（趣旨）

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間及び休館日）

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

（1）開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

（2）休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭

和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日以降の最初の休日でない日）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

（一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕）

（観覧手続）

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

（特別観覧手続）

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（県民ギャラリー等の使用手続）

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（使用の制限）

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- （1）館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者
- （2）館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者
- （3）その他館長の指示等に違反した者

（譲渡等の禁止）

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復ししなければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。

（損害賠償）

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

（観覧料等の減免）

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

- （1）身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健

福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

- (2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料（団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。）をいう。）の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）
- (5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕）

（観覧料等の還付）

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

- (1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。
- (2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料（使用料）還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年3月25日規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月10日規則第5号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月28日規則第51号）

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日規則第17号）

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（平成13年7月24日規則第59号）

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第19号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（令和元年7月1日規則第4号）

1 この規則は、不正競争防止法等の一部を改正する法律（平成30年法律第33号）の施行の日（令和元年7月1日）から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する様式により提出された申請書等とみなす。

3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（令和3年3月26日規則第5号）

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の規定及び様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する規定及び様式により提出されたものとみなす。

3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

様式第 1 号（第 4 条関係）
（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・12 年 17 号・令和元年 4 号〕）

特別観覧承認申請書
年 月 日

静岡県立美術館長 様
住所
氏名
電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名			点数
特別観覧 の 目 的					
区分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用
日時	年	月	日	時から 時から	時まで 時まで
内 訳	模 写	点	日	円	合 計 円
	模 造	点	日	円	
	撮 影	点	回	円	
	熟 覧	点	日	円	
	原板使用	点	回	円	
備考					

様式第 2 号（第 5 条関係）
（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・12 年 17 号・令和元年 4 号〕）

県民ギャラリー等使用承認申請書
年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称					
展覧会、講演等の内容					
使 用 区 分	県民ギャラリー（A・B）				講堂
使 用 期 間	年	月	日（ ）	時	分から
	年	月	日（ ）	時	分まで
				日間	
入場料等の徴収の有無	有・無				円
主 催 者 名					
連絡責任者及び電話					
後 援 者 名					

（注）展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第 3 号（第 10 条関係）
（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・令和元年 4 号・3 年 5 号〕）

観覧料等減免申請書
年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減 免 申 請 の 区 分	観覧料 特別観覧料 使用料
申 請 の 理 由	
日 時	年 月 日（ ） 時 分から 年 月 日（ ） 時 分まで
観 覧 人 員	人
県民ギャラリー等使用の場 合は、推定入場人員	人
責 任 者 氏 名	
責 任 者 電 話 番 号	
観 覧 料 等	円
減 免 申 請 額	円

様式第 4 号（第 11 条関係）
（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・令和元年 4 号・3 年 5 号〕）

特別観覧料 還付申請書
使 用 料

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕

次のとおり特別観覧料の還付を受けたいので、申請します。
使 用 料

特別観覧承認書等の 年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申込とする。

2 優先予約を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

（申込方法）

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。（設備取り付け等）

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

（物品等の販売）

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

（展示品等の管理）

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

（現状回復義務）

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

（職員の立ち入り）

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

附則

この改正は、令和元年12月25日から施行する。

■静岡県立美術館講堂利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12

条に基づき、講堂の管理を適正に行うため、次のとおりこの規定を定める。

（利用範囲）

第2条 講堂は、芸術文化の発表と普及の目的以外での使用は認めない。

2 芸術文化の発表の目的で使用する場合であっても、入場料を徴収する場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、1日もしくは半日とする。

2 使用時間は、1日の場合は午前10時から17時30分までとし、半日の場合、午前は、10時から12時30分まで、午後は、13時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は、使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。

2 県民ギャラリーにおいて優先予約を申請する場合のみ、講堂の優先予約を認めるものとする。なお、優先予約の申込期間は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

（申込方法）

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

（設備取り付け等）

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

（物品等の販売）

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

（備品の管理）

第8条 使用中の備品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

（原状回復義務）

第9条 退出時には施設等を原状に復し、美術館の点検を受けなければならない。残留された物品に関しては、美術館は一切責任を負わない。

（職員の立ち入り）

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

（1）美術品の選定に関すること。

（2）その他美術に関する専門的事項に関すること。

（組織）

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

（委嘱）

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

（委任）

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（協議会の委員）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

2 委員の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任することができる。

（協議会の会長等）

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長

及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が召集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年12月23日条例第38号）第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附 則

- 1 この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

- 2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
- 3 委員会に会長及び副会長を置く。
- 4 会長にはスポーツ・文化観光部長、副会長には、部長代理をもってこれに充てる。
- 5 会長は、会務を総理する。
- 6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が召集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

- 2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。
- 3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。
- 4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。
- 5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。
- 6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和2年4月1日から施行する。

別表

スポーツ・文化観光部長 部長代理 文化局長 文化政策課長 美術館副館長
--

■静岡県立美術館協議会傍聴要綱

1 傍聴する場合の手続

- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
- (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
- (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

- (1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。
- (2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

■静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

- 2 委員の人数は、10名以内とする。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

- 2 委員長は、知事が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。
- 3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。
- 4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。
- 2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 令和2年9月30日)

■静岡県立美術館第三者評価委員会運営要領

(趣旨)

第1 この要領は、「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）の運営に関し、静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱（以下「要綱」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。（報償費及び旅費）

第2 委員会及び要綱第5条の委員会及び分科会へ出席した委員には、次のとおり報償費及び旅費を支給する。

(1) 報償費

委員長	12,000円
その他の委員	11,100円

要綱第5条第4項の規定に基づき

会議に出席した者	11,100円
----------	---------

(2) 旅費

県の旅費計算方法に準じて計算した額

2 前項に規定するもののほか、委員会及び分科会における検討に必要な作業、打合せ等を行った委員には、別に定める報償費及び旅費を支給することができる。

(文書等の記号及び番号)

第3 施行する文書等には、次に定めるところにより、記号及び番号を付するものとする。

- (1) 記号は「三評」とする。
- (2) 番号は、別紙文書収発簿により付するものとする。ただし、軽易な文書等については番号を省略し、号外で処理することができる。

(雑則)

第4 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要領は、平成18年9月21日から施行する。

(最終改正 平成24年5月31日)

組織・名簿

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常 勤		1 人	8 人	10人	19人
非常勤	1 人			5 人	6 人

■美術館協議会委員

日比野 秀 男	掛川市二の丸美術館館長
	掛川市ステンドグラス美術館館長
堀 切 正 人	常葉大学教育学部教授
	常葉ギャラリー館長
松 永 由弥子	静岡産業大学スポーツ科学部教授
石 川 善太郎	(株)静岡新聞社編集局長
加 藤 種 男	静岡文化財団アーツカウンシルしずおか アーツカウンシル長
見 城 秀 明	静岡市立小中学校校長会代表（静岡市立伝馬町小学校校長）
鈴 木 壽美子	静岡県文化協会会長
曾 根 正 弘	静岡県立美術館友の会会長
富 沢 壽 勇	地域連携機関（ムセイオン）代表（静岡県立大学副学長）
本 郷 徹 志	全国報道機関代表（NHK静岡放送局長）
富 沢 か な	静岡県立大学国際関係学部准教授
鈴 木 雅 道	高等学校美術・工芸教育研究会会長（県立横須賀高等学校校長）
望 月 宏 明	（社）静岡県観光協会 専務理事

■専門委員

榊 原 悟	岡崎市美術博物館館長・おかざき世界子ども美術博物館特任館長
	群馬県立女子大学名誉教授
栗 田 秀 法	名古屋大学大学院人文学研究科教授
潮 江 宏 三	京都市立芸術大学名誉教授
建 昌 哲	埼玉県立近代美術館館長
	多摩美術大学学長
山 梨 絵美子	千葉市美術館長

■資料評価委員

村 松 毅 彦	静岡県スポーツ文化・観光部長
都 築 直 哉	静岡県スポーツ文化・観光部部長代理
横 山 雅 機	静岡県スポーツ文化・観光部理事兼文化局長
小 澤 和 久	静岡県文化政策課長
和 田 誉 雄	静岡県立美術館副館長

■職 員

館 長	木 下 直 之
副 館 長	和 田 誉 雄
企画総務課長	稲 葉 寿 久
企画総務班長	三 輪 桂
主幹兼副班長	後 藤 健 志
主 幹	萩 原 利 明
主 任	伊 藤 圭
主 事	深 澤 史 織
主 任	落 合 芳 彦
主 任	菅 沼 元 詳
学 芸 課 長	石 上 充 代
上 席 学 芸 員	南 美 幸
上 席 学 芸 員	新 田 建 史
上 席 学 芸 員	泰 井 良
主任学芸員	喜 彦 孝 臣
主 幹	奥 村 裕 喜
上 席 学 芸 員	川 谷 承 子
上 席 学 芸 員	植 松 篤
上 席 学 芸 員	貴 家 映 子
主任学芸員	浦 澤 倫太郎

■会計年度任用職員

中 島 友 絵
馬 場 夢 乃
中 村 紀代美
大 橋 香奈子
太 田 佳 成

歳入・歳出決算

■歳入決算

(単位：千円)

項 目	金 額
美術館観覧料	23,623
共催展収入	0
県民ギャラリー等使用料	3,281
財産売却・貸付・運用収入	6,018
助成金等	3,000
その他	2,257
計	38,179

■歳出決算

(単位：千円)

項 目	金 額
管理費	266,300
運営費	55,254
施設管理費	211,046
事業費	70,264
企画展事業費	45,532
常設展事業費	6,754
資料・普及事業費	17,978
館蔵品取得費	1,000
施設整備費	317,282
基金積立	2,542
計	657,388

建築・設備概要

■建築概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
所 在 地 敷 地 構 造 ・ 規 模	静岡市駿河区谷田53番2号 県文化センター内（約130,000㎡） 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	同左 同左 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕 上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、 長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、タ イル打込P C板、吹付タイル 屋根：カラスステンレス葺、トップライト（アルミ、 複層ガラス） 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工 期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
電 気 設 備	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ 300KVA、3φ400KVAモールド型 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800rpm出力375KVA3φ3W6,600V 10KW×2台 太陽光発電設備 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、充電 サイリスタ全自動整流器 弱 電 設 備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入 館者表示、映像資料（ビデオ）、電 話、放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤（自火 報、防排煙）、防犯非常錠制御盤、 防災アンプ（360W）、ITV監視装置、 地図式表示版	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ280K VA、3φ350KVA 契約電力620KW 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800 rpm出力200KVA3φ3W220V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱 電 設 備 ITV監視、入館者表示、ハイビジョン、 電話、放送、トイレ呼出表示、調光、 テレビ共聴 防災、防犯設備 同 左
空 気 調 和 設 備	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（150USRT、 40USRT）、温水焚吸収冷温水機（30 USRT）、空気熱源回収型スクルー 式ヒートポンプ冷凍機（100USRT）、 プレート式熱交換機（396,300Kcal/h） 蓄 熱 層 冷温水槽550㎡・55㎡、ソーラー用 20㎡ ソーラーパネル 平板型672枚 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民 ギャラリー1系統、その他4系統及び パッケージ型1台、ファンコイルユニッ ト46台、他空冷ヒートポンプパッケー ジエアコン、ルームエアコン	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（80USRT） 2基、蒸気ボイラー（250Kg/h）2基、 空冷チラーユニット（3.77USRT）プ レート式熱交換機（86,000Kcal/h） 冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 0.75㎡ 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱交 換機（3台）
衛 生 設 備	排 煙 機 ロビー系統他3系統3台 給 水 設 備 受水槽30㎡（二槽式）、高架水槽12㎡ （二槽式） 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋内消火栓	排 煙 機 メイン展示室他2系統4台 給 水 設 備 空調用自動給水装置受水槽 5㎡ 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋外消火栓
昇 降 機 設 備	乗 用 ロープ式11人乗750kg 荷 物 用 油圧式3,000kg	乗 用 油圧式23人乗1,500kg

■建設工事費

区 分	本館	ロダン館
建 築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外 構	397,162	—
プロムナード	173,300	—
周辺環境整備	—	268,509
合 計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

・本館

実技室（114㎡）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

情報コーナー（39席 92.3㎡）

全国的美術館や、県内イベントのパンフレットを配架している。令和6年3月より自動販売機を設置した。

レストラン（70席 198㎡）

レストラン「Rodin TERRACE」は、㈱なすびが運営している。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（7室 1,777㎡）

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部にLED照明があり、壁ごとに調光可能となっている。

令和3年度の改修工事において、天井に配置してあるライティング・ダクトの位置を見直すとともに、LED照明に

更新し、より機能的な照明環境となった。

県民ギャラリー（2室 490㎡）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席 305㎡）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席 71㎡）

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

画像・映像映写設備、音響設備がある。

授乳室（15.21㎡）

乳児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、授乳室を開設している。

授乳室 開館日全て

10：00～17：30（夜間開館日は19時まで）

・ロダン館

ロダンフロア（1,461㎡）

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室（149㎡）

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールに設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

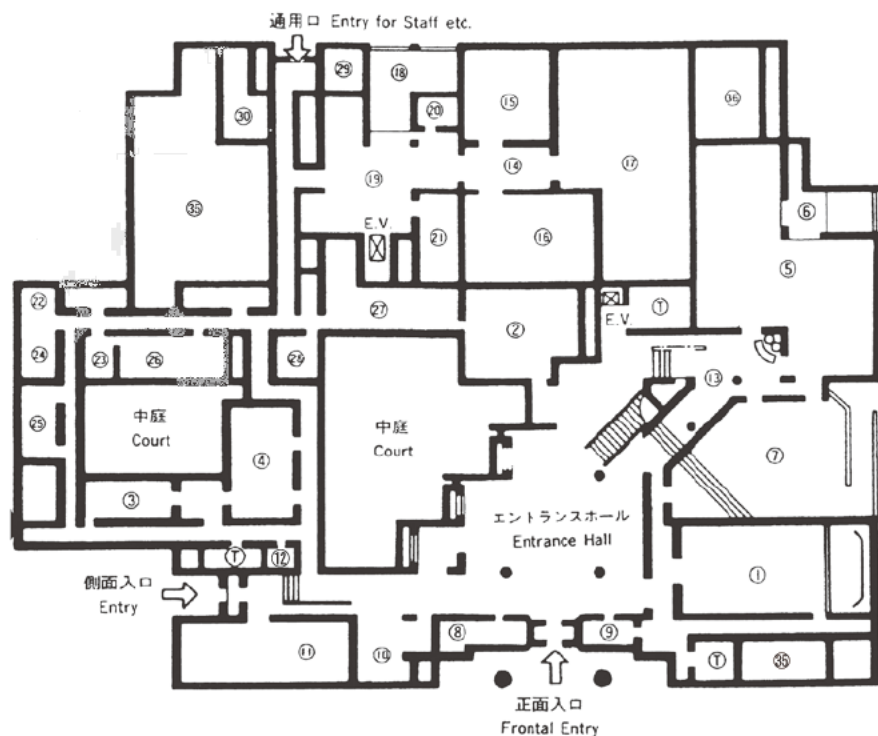
ブリッジ・ギャラリー（276㎡）

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図

■本館

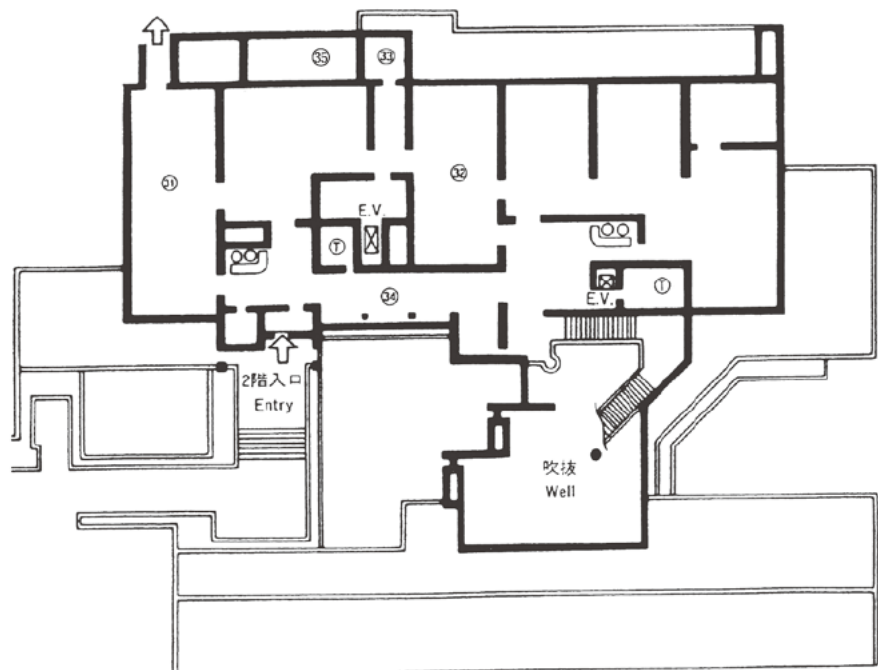
1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ 情報コーナー Information Corner

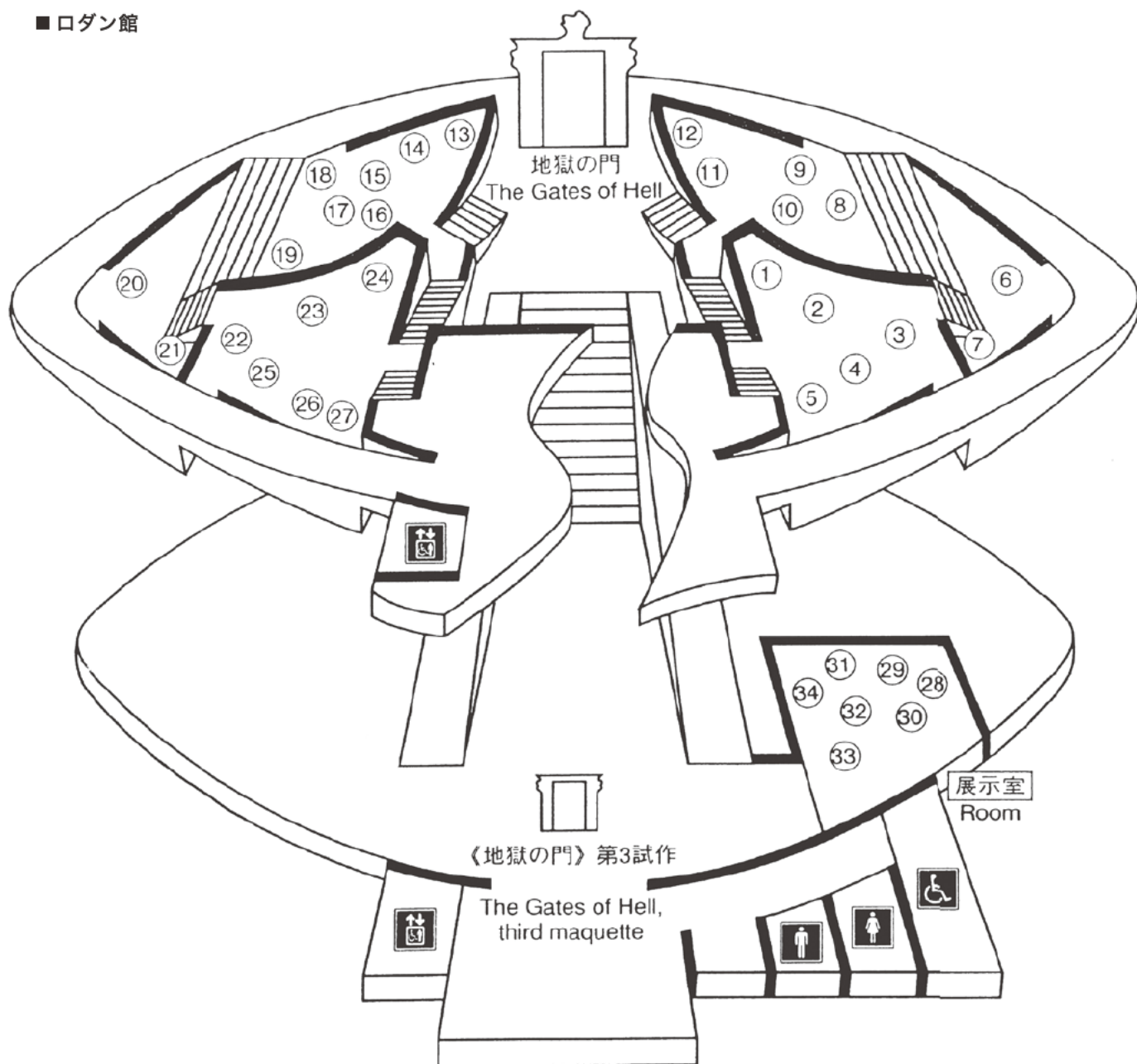
2階 Second Floor

⑪ (次頁へ)



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 授乳室 Nursing Room
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫 1 Storage (1)
- ⑯ 収蔵庫 2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫 3 Storage (3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉟ 機械室 Machinery Room
- ㊱ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊲ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator

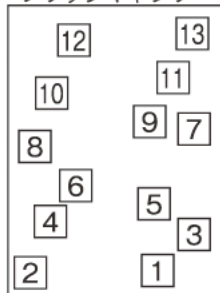
■ロダン館



《地獄の門》第3試作

The Gates of Hell, third maquette

ブリッジギャラリー



ロダン, A

- ① 《カレの市民》ジャン・デール
- ② 《カレの市民》ジャン・ド・フィエンス
- ③ 《カレの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレの市民》アンドリュ・ダンドル
- ⑥ 《カレの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
- ⑦ 《カレの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ バオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン＝ルバージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレーの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室

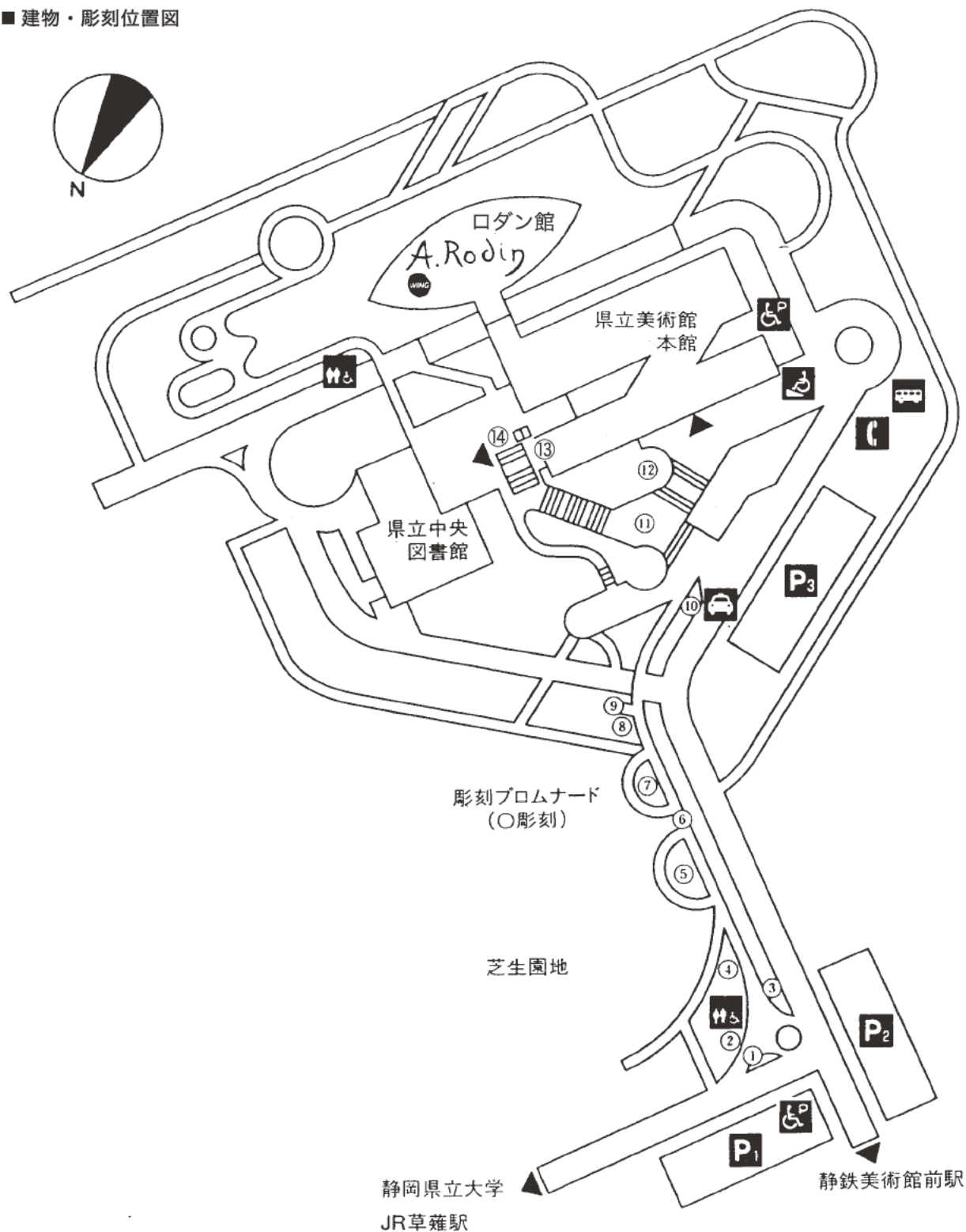
- ㉘ カルポー, J.B. / ナボリの漁師の少年

- ㉙ カリエ＝ペルーズ, A.E. /
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A. / バラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J. / 乳を与えるバリの女
- ㉝ フレミエ, E. / 蛇使い
- ㉞ バリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P. / オヴィリ
- ② バルラッハ, E. / 読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H. / 横たわる人体
- ④ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A. / 《化粧する女》習作
- ⑦ プランクーシ, C. / ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシッツ, J. / 母と子
- ⑨ ロッソ, M. / 病める男
- ⑩ プールデル, E.A. / アポロンの首
- ⑪ プールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A. / 《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C. / 波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークⅡ》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式Ⅴ－相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線－菱形Ⅱ》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

■開館時間 午前10時～午後5時30分

(展示室への入室は午後5時まで)

[夜間開館] 8月11日(金・祝)、12日(日)は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで)

■休館日 毎週月曜日(但し、月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)、年末・年始、その他展示替等のための休館日

■収蔵品展観覧料

一般300円(団体200円)

大学生以下・70歳以上の方は無料

■企画展観覧料

展覧会名	一般	70歳以上	高校・大学生
センス・オブ・ワンダー： 感覚で味わう美術	800円 <600円>	400円 <300円>	無料
糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>	無料
大 大 名 の 名 宝 —永青文庫×静岡県美の狩野派展	1,400円 <1,200円>	700円 <600円>	無料
天 地 耕 作 初 源 へ の 道 行 き	1,000円 <800円>	500円 <400円>	無料

* < >内は前売及び20名以上の団体料金

* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

■施設利用料

(1) 県民ギャラリー

利 用 区 分		使 用 料
		10時～17時30分
入場料を 徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を 徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

(2) 講 堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,750円	14,050円	21,800円

交通案内 JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩で約15分または静鉄バスで約3分

JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分または北口から静鉄バスで約30分

東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約25分、日本平久能山スマートICから車で15分、

新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

電話番号 企画総務課(TEL) 054-263-5755

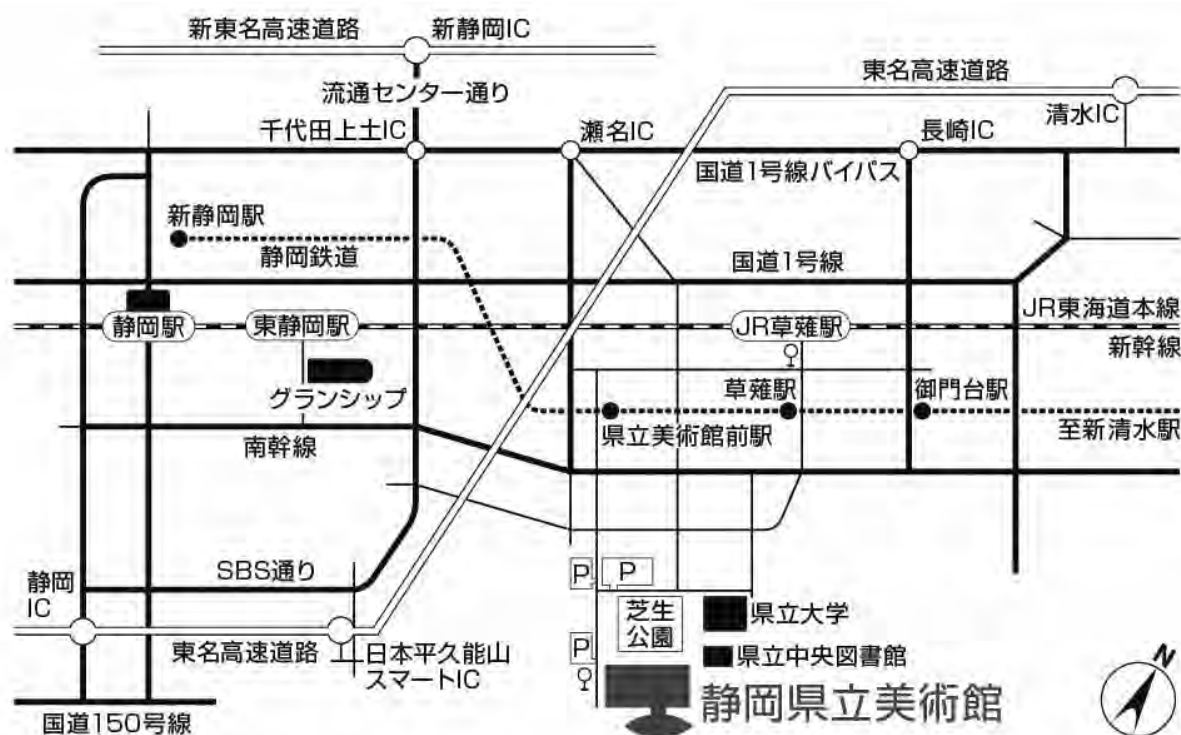
“(FAX) 054-263-5767

学芸課(TEL) 054-263-5857

“(FAX) 054-263-5742

美術館友の会事務局 054-264-0897

ミュージアムショップ 054-264-8926



令和 5 年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館©

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印 刷：有限会社橋本印刷所

〒422-8046 静岡県静岡市駿河区中島390

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2023

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by HASHIMOTO Printing Co., Ltd., Shizuoka

Printed in Japan 2024

